



## map q850-cause through mgcp package-capability

- [map q850-cause](#) (4 ページ)
- [map resp-code](#) (6 ページ)
- [max1 lookup](#) (8 ページ)
- [最大再試行回数 1 回](#) (10 ページ)
- [max2 lookup](#) (12 ページ)
- [max2 retries](#) (14 ページ)
- [最大帯域幅](#) (16 ページ)
- [max-calls](#) (17 ページ)
- [max-conn \(ダイヤル ピア\)](#) (19 ページ)
- [max-concurrent-sessions](#) (21 ページ)
- [最大接続数](#) (22 ページ)
- [最大転送数](#) (24 ページ)
- [max-redirects](#) (26 ページ)
- [max-subscription](#) (27 ページ)
- [最大バッファサイズ](#) (28 ページ)
- [maximum cdrflush-timer](#) (30 ページ)
- [maximum conference-participants](#) (32 ページ)
- [maximum fileclose-timer](#) (34 ページ)
- [最大リトライ回数](#) (36 ページ)
- [最大セッション \(DSP ファーム プロファイル\)](#) (37 ページ)
- [MDN](#) (39 ページ)
- [メディア](#) (41 ページ)
- [media-address voice-vrf](#) (47 ページ)
- [メディアカード](#) (48 ページ)
- [メディアクラス](#) (49 ページ)
- [メディア非アクティブ条件](#) (50 ページ)
- [media disable-detailed-stats](#) (53 ページ)
- [media profile asp](#) (54 ページ)

- メディア プロファイル番号 (55 ページ)
- メディア プロファイル ビデオ (56 ページ)
- media profile police (57 ページ)
- メディアプロファイルレコーダー (58 ページ)
- media profile stream-service (59 ページ)
- media-recording (61 ページ)
- メディア記録プロキシ (62 ページ)
- メディア サービス (63 ページ)
- meetme-conference (64 ページ)
- メンバー (ダイヤル ピア 関連リスト) (66 ページ)
- メモリ制限 (トレース) (67 ページ)
- メッセージ交換最大失敗数 (69 ページ)
- メソッド (70 ページ)
- mgcp (72 ページ)
- mgcp behavior (74 ページ)
- mgcp behavior comedia-check-media-src (84 ページ)
- mgcp behavior comedia-role (86 ページ)
- mgcp behavior comedia-sdp-force (88 ページ)
- mgcp behavior g729-variants static-pt (89 ページ)
- mgcp bind (90 ページ)
- mgcp block-newcalls (93 ページ)
- mgcp call-agent (94 ページ)
- Mgcp コーデック (97 ページ)
- mgcp codec gsmamr-nb (99 ページ)
- mgcp codec ilbc (101 ページ)
- mgcp crypto rfc-preferred (103 ページ)
- mgcp dns stale threshold (105 ページ)
- mgcp debug-header (106 ページ)
- mgcp default-package (107 ページ)
- mgcp disconnect-delay (110 ページ)
- Mgcp dtmf-relay (111 ページ)
- mgcp endpoint offset (114 ページ)
- mgcp explicit hookstate (115 ページ)
- mgcp fax rate (116 ページ)
- mgcp fax-relay (118 ページ)
- mgcp fax t38 (120 ページ)
- mgcp ip qos dscp (124 ページ)
- mgcp ip-tos (127 ページ)
- mgcp lawful-intercept (129 ページ)
- mgcp max-waiting-delay (130 ページ)
- mgcp modem passthrough codec (131 ページ)

- [mgcp modem passthrough mode \(133 ページ\)](#)
- [mgcp modem passthrough voip redundancy \(135 ページ\)](#)
- [mgcp modem passthru \(137 ページ\)](#)
- [mgcp modem relay voip gateway-xid \(139 ページ\)](#)
- [mgcp modem relay voip latency \(141 ページ\)](#)
- [mgcp modem relay voip mode \(143 ページ\)](#)
- [mgcp modem relay voip mode sse \(145 ページ\)](#)
- [mgcp modem relay voip sprt retries \(147 ページ\)](#)
- [mgcp modem relay voip sprt v14 \(148 ページ\)](#)
- [mgcp package-capability \(150 ページ\)](#)

## map q850-cause

特定のQ.850 通話切断原因コードとリリースソースを指定し、**mapq850-cause** コマンドを音声サービス設定モードで使用して、通話が切断された場合にPSTNの発信者にカスタマイズしたトーンを再生するには、コマンドを音声サービス設定モードに入力します。コードからトーンへのマッピングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mapq850-cause** コード *ID* **release-source** {ローカル | リモート | すべて} トーン トーン *ID*

いいえ **mapq850-cause** コード *ID* **release-source** {ローカル | リモート | すべて} トーン トーン *ID*

### 構文の説明

|                       |                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コード <i>ID</i>         | Q.850 コール切断原因コード。範囲: 1から15、17から127 (16は無効)                                                                                                                                                                      |
| <b>release-source</b> | 原因コードが生成されたソース。選択肢は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>local</b>--発信元のゲートウェイまたはゲートキーパー</li> <li>• <b>remote</b>--終端ゲートウェイまたはゲートキーパー</li> <li>• <b>all</b>--任意のゲートウェイまたはゲートキーパー</li> </ul>      |
| <b>tonetone-id</b>    | この原因コードに対して再生するトーン。選択肢は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>1</b>--話中音</li> <li>• <b>2</b>-- 輻輳トーン</li> <li>• <b>3</b>--特別情報トーン (950、1400、および1800 MHzの3トーンシーケンス) (IP電話ではサポートされていません)</li> </ul> |

### コマンド デフォルト

マッピングは行われません。

### コマンド モード

音声サービス

### コマンド履歴

| リリース     | 変更              |
|----------|-----------------|
| 12.4(9)T | このコマンドが導入されました。 |

### 使用上のガイドライン

特定の理由で通話が切断された場合に特定のトーンを再生するには、このコマンドを使用します。

呼び出し元に対してトーンが再生されるのは、**timeoutscall-disconnect** および **timeoutswait-release** コマンドを入力して、通話切断タイマーと待機リリースタイマーが0より大きい値に設定されている場合だけです。

## 例

次に、Q.850 コール切断原因コード 21 をローカル ゲートウェイのトーン 3 とリモート ゲートウェイのトーン 2 にマッピングする例を示します。

```
Router(config)# voice service pots
Router(conf-voi-serv)# map q850-cause 21 release-source local tone 3
Router(conf-voi-serv)# map q850-cause 21 release-source remote tone 2
```

## 関連コマンド

| コマンド                           | 説明                                                     |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------|
| <b>progress_ind</b>            | H.323 VoIP ゲートウェイからの通話セットアップ、進行、接続メッセージで特定の PI を設定します。 |
| <b>q850-cause</b>              | Q.850 コール切断原因コードを別の Q.850 コール切断原因コードにマッピングします。         |
| <b>scenario-cause</b>          | H.323 通話が失敗した場合に使用する、新しい Q.850 通話切断原因コードを設定します。        |
| <b>timeoutscall-disconnect</b> | 切断トーンが検出された後、FXO 音声ポートが着信コールを切断するまでの遅延タイムアウトを設定します。    |
| <b>timeoutswait-release</b>    | システムが音声ポートを解放するプロセスを開始する前の遅延タイムアウトを設定します。              |

# map resp-code

Cisco Unified Border Element (CUBE) をグローバルに設定して、特定の受信した Session Initiation Protocol (SIP) 暫定応答メッセージを、発信 SIP ダイアルピアの別の SIP 暫定応答メッセージにマッピングするには、**mapresp-code** コマンドは音声サービス SIP 設定モードまたは音声クラステナント設定モードで使用できます。受信した SIP 暫定応答メッセージのマッピングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**map**対応コード181に183

いいえ地図resp-code181

## 構文の説明

|            |                                                                                   |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| <b>181</b> | マッピングされ、置換される特定の着信 SIP 暫定応答メッセージを表すコードです。                                         |
| <b>に</b>   | 指定された着信 SIP 暫定応答メッセージが発信 SIP ダイアルピア上の別の SIP 暫定応答メッセージにマッピングされ、置換されることを指定するための指定子。 |
| <b>183</b> | 着信 SIP メッセージ応答がマッピングされるべき発信ダイアルピアの特定の SIP 暫定応答メッセージを表すコードです。                      |

## コマンド デフォルト

着信 SIP 暫定応答メッセージは、発信 SIP レッグと同様に渡されます。

## コマンド モード

音声サービス SIP 構成 (conf-serv-sip)

音声クラス テナント構成 (config-class)

## コマンド履歴

| リリース                              | 変更                                          |
|-----------------------------------|---------------------------------------------|
| 15.0(1)XA                         | このコマンドが導入されました。                             |
| 15.1(1)T                          | このコマンドが Cisco IOS Release 5.1(1)T に統合されました。 |
| Cisco IOS XE リリース 3.1S            | このコマンドが Cisco IOS XE Release 3.1S に統合されました。 |
| 15.6(2)T および IOS XE Denali 16.3.1 | このコマンドが音声クラス テナントで利用できるようになりました。            |

## 使用上のガイドライン

**mapresp-code** コマンドを音声サービスSIP設定モードで使用し、Cisco UBEが着信SIP 181暫定応答メッセージを発信SIPダイアルピアのSIP 183暫定応答メッセージにグローバルにマッピングするように設定します。



- (注) グローバルまたはダイヤルピアレベルで **ブロック** コマンドが設定されている場合、メッセージは、異なるメッセージに渡されたりマッピングされたりする前にドロップされる可能性があります-- **mapresp-code** コマンドが有効になっていてもです。着信SIP 181メッセージをグローバルにドロップするかどうか、およびいつドロップするかを設定するには、音声サービスSIP設定モードで **ブロック** コマンドを使用します（または、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsip** **ブロック** コマンドを使用して個々のダイヤルピアのドロップ設定を行います）。

CUBEの個々のダイヤルピアに対してSIP暫定応答メッセージのマッピングを設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **voice-classsipmapresp-code** コマンドを使用します。CUBEでSIP 181メッセージのマッピングをグローバルに無効にするには、音声サービスSIP設定モードで **nomapresp-code** コマンドを使用します。

例えば、SIP 181 暫定応答メッセージの処理をサポートしていない SIP エンドポイントの相互運用を有効にするために、**ブロックする** コマンドを使用して、SIP トランクで受信した SIP 181 暫定応答メッセージをドロップするようにCUBEを設定するか、**マップ・レスポンスコード** コマンドを使用して、CUBE が着信メッセージをマッピングし、代わりに **Cisco Unified Communications Manager Express (Unified CME)** の SIP ラインに SIP 183 暫定応答メッセージを送信するように設定できます。



- (注) このコマンドは SIP-to-SIP コールに対してのみサポートされ、H.323-to-SIP または時分割多重 (TDM)-SIP コールには影響しません。

## 例

次の例は、発信ダイヤルピアの SIP 183 暫定応答メッセージに CUBE の着信 SIP 181 暫定応答メッセージのマッピングを設定する方法を示します。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip
Router(config-voi-serv)# sip
Router(config-serv-sip)# map resp-code 181 to 183
```

## 関連コマンド

| コマンド                              | 説明                                                                      |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <b>block</b>                      | Cisco IOS 音声ゲートウェイまたは CUBE で特定の SIP 暫定応答メッセージをドロップするためのグローバル設定を構成します。   |
| <b>voice-classsipblock</b>        | Cisco IOS 音声ゲートウェイまたは CUBE 上の個々のダイヤルピアを構成し、指定された SIP 暫定応答メッセージをドロップします。 |
| <b>voice-classsipmapresp-code</b> | CUBE の特定のダイヤルピアを構成して、特定の着信 SIP 暫定応答メッセージを別の SIP 応答メッセージにマッピングします。       |

# max1 lookup

疑わしいしきい値に達したときに、新しい **call**-エージェント アドレスに対してドメイン ネーム システム (DNS) ルックアップを有効にするには、**max1lookup** コマンドをMGCP プロファイル設定モードで使します。ルックアップを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使します。

**max1**ルックアップ  
いいえ**max1**ルックアップ

## 構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

## コマンド デフォルト

ルックアップが有効になっています。

## コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

## コマンド履歴

| リリース      | 変更                                              |
|-----------|-------------------------------------------------|
| 12.2(2)XA | このコマンドが導入されました。                                 |
| 12.2(4)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。    |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使されます。

通話エージェントが IP アドレスではなく、DNS 名で識別される場合、**call-agent** コマンドにより、各 DNS 名には複数の IP アドレスを関連付けることができるため、通話エージェントの冗長性が提供されます。

アクティブなコール エージェントがメディア ゲートウェイからのメッセージに応答しない場合、ゲートウェイはコール エージェントがサービス停止中であるかどうかをテストして判断します。ゲートウェイは、**max1retries** コマンドで指定された回数だけ、メッセージをコール エージェントに再送信します。これは不審しきい値と呼ばれています。応答がなく、**max1lookup** コマンドが有効な場合、ゲートウェイは DNS ルックアップテーブルを調べ、別のコール エージェントの IP アドレスを見つけます。2 番目のコール エージェントがリストにある場合、ゲートウェイは 2 番目のコール エージェントにメッセージを再送信します。応答を受信するか、**max1retries** コマンドで指定された回数に達するまで。

このプロセスは、最終的なアドレスに到達するまで、DNS テーブルの各 IP アドレスに対して繰り返されます。最終アドレスの場合、再試行の回数は **max2retries** コマンドで指定します。この回数は切断のしきい値です。 **max2retries** コマンドに達したにもかかわらず応答がなく、**max2lookup** コマンドが有効になると、ゲートウェイは最後の DNS ルックアップを 1 回実行します。新しい IP アドレスが追加されると、ゲートウェイは再送信プロセスを再度開始します。そうでない場合、ゲートウェイはエンドポイントを切断状態にします。

## 例

次の例では、DNS ルックアップを有効にし、疑わしい再送信のカウンターを 7 に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# call-agent igloo.northpole.net
Router(config-mgcp-profile)# max1 lookup
Router(config-mgcp-profile)# max1 retries 7
```

## 関連コマンド

| コマンド               | 説明                                                                                                |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>call-agent</b>  | MGCP プロファイルの call-エージェント アドレスとプロトコルを指定します。                                                        |
| <b>max1retries</b> | MGCP 疑惑の閾値を設定します。                                                                                 |
| <b>max2ルックアップ</b>  | 切断しきい値に達したときに、MGCP コール エージェントの DNS ルックアップを有効にします。                                                 |
| <b>max2retries</b> | MGCP 切断しきい値を設定します。                                                                                |
| <b>mgcp</b>        | 開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。                                                                        |
| <b>mgcp プロファイル</b> | 1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。 |

## 最大再試行回数 1 回

Media Gateway Control Protocol (MGCP) の疑わしいしきい値 (再送信のための新しいルックアップを実行する前に、Call Agent アドレスにメッセージを再送信する試行回数) を設定するには、MGCP プロファイル設定モードで **max1retries** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

最大 1 再試行 *number*  
 いいえ **max1** 再試行

### 構文の説明

数 メッセージの再送を試みる回数。範囲は 3 ～ 30 です。デフォルトは 5 です。

### コマンド デフォルト

試行回数 5 回

### コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                          |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 12.2(2)XA | このコマンドは導入され、もはやサポートされていない <b>mgcprequest retries</b> コマンドに代わるものです。          |
| 12.2(4)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。                                |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 プラットフォームに実装されました。再試行の最大数が 30 に増加しました。 |

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、MGCP プロファイルの値を設定する際に使用されます。

通話エージェントが IP アドレスではなく、ドメインネームシステム (DNS) 名で識別される場合、**call-agent** コマンドにより、各 DNS 名には複数の IP アドレスを関連付けることができるため、通話エージェントの冗長性が提供されます。

アクティブなコールエージェントがメディア ゲートウェイからのメッセージに応答しない場合、ゲートウェイはコールエージェントがサービス停止中であるかどうかをテストして判断します。ゲートウェイは、**max1再試行** コマンドで指定された回数だけ、メッセージをコールエージェントに再送信します。これは **不審しきい値** と呼ばれるものです。応答がなく、**max1lookup** コマンドが有効な場合、ゲートウェイは DNS ルックアップテーブルを調べ、別のコールエージェントの IP アドレスを見つけます。

2 番目のコールエージェントがリストにある場合、ゲートウェイは 2 番目のコールエージェントにメッセージを再送信します。応答を受信するか、**max1retries** コマンドで指定された回数に達するまで。このプロセスは、最終的なアドレスに到達するまで、DNS テーブルの各 IP アドレスに対して繰り返されます。最終アドレスの場合、再試行の回数は **max2retries** コマンドで指定します。これは **切断のしきい値** です。**max2retries** コマンドに達したにもかかわらず応答がなく、**max2lookup** コマンドが有効になると、ゲートウェイは最後の DNS ルックアップを

1 回実行します。新しい IP アドレスが追加されると、ゲートウェイは再送信プロセスを再度開始します。そうでない場合、ゲートウェイはエンドポイントを切断状態にします。

#### 例

次の例では、DNS ルックアップを有効にし、疑わしい再送信のカウンターを 7 に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# call-agent igloo.northpole.net
Router(config-mgcp-profile)# max1 lookup
Router(config-mgcp-profile)# max1 retries 7
```

#### 関連コマンド

| コマンド               | 説明                                                                                                |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>call-agent</b>  | MGCP プロファイルの call-エージェント アドレスとプロトコルを指定します。                                                        |
| <b>max1lookup</b>  | 疑わしいしきい値に達した場合に、MGCP コール エージェントの DNS ルックアップを有効にします。                                               |
| <b>max2lookup</b>  | 切断しきい値に達したときに、MGCP コール エージェントの DNS ルックアップを有効にします。                                                 |
| <b>max2retries</b> | MGCP 切断しきい値を設定します。                                                                                |
| <b>mgcp</b>        | 開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。                                                                        |
| <b>mgcp プロファイル</b> | 1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。 |

# max2 lookup

切断タイムアウトしきい値に達した後に、新しい **call**-エージェント アドレスに対してドメイン ネーム システム (DNS) ルックアップを有効にするには、**max2lookup** コマンドをMGCP プロファイル設定モードで使用します。DNS ルックアップを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**max2ルックアップ**  
いいえ最大 2lookup

## 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

## コマンド デフォルト

Lookupが有効になっています。

## コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

## コマンド履歴

| リリース      | 変更                                              |
|-----------|-------------------------------------------------|
| 12.2(2)XA | このコマンドが導入されました。                                 |
| 12.2(4)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。    |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

通話エージェントが IP アドレスではなく、DNS 名で識別される場合、**call-agent** コマンドにより、各 DNS 名には複数の IP アドレスを関連付けることができるため、通話エージェントの冗長性が提供されます。

アクティブなコール エージェントがメディア ゲートウェイからのメッセージに応答しない場合、ゲートウェイはコール エージェントがサービス停止中であるかどうかをテストして判断します。ゲートウェイは、**max1retries** コマンドで指定された回数だけ、メッセージをコール エージェントに再送信します。これは不審しきい値と呼ばれています。応答がなく、**max1lookup** コマンドが有効な場合、ゲートウェイは DNS ルックアップテーブルを調べ、別のコール エージェントの IP アドレスを見つけます。2 番目のコール エージェントがリストにある場合、ゲートウェイは 2 番目のコール エージェントにメッセージを再送信します。応答を受信するか、**max1retries** コマンドで指定された回数に達するまで。

このプロセスは、最終的なアドレスに到達するまで、DNS テーブルの各 IP アドレスに対して繰り返されます。最終アドレスの場合、再試行の回数は **max2retries** コマンドで指定します。これは切断のしきい値です。**max2retries** コマンドに達したにもかかわらず応答がなく、**max2lookup** コマンドが有効になると、ゲートウェイは最後の DNS ルックアップを 1 回実行します。新しい IP アドレスが追加されると、ゲートウェイは再送信プロセスを再度開始します。そうでない場合、ゲートウェイはエンドポイントを切断状態にします。

## 例

次の例では、DNS ルックアップを有効にし、切断再送信カウンターを 9 に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# call-agent cal@exp.example.com
Router(config-mgcp-profile)# max2 lookup
Router(config-mgcp-profile)# max2 retries 9
```

## 関連コマンド

| コマンド               | 説明                                                                                                |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>call-agent</b>  | MGCP プロファイルのコールエージェントアドレスとプロトコルを指定します。                                                            |
| <b>max1lookup</b>  | 疑わしいしきい値に達した場合に、MGCP コール エージェントの DNS ルックアップを有効にします。                                               |
| <b>max1retries</b> | MGCP 疑惑の閾値を設定します。                                                                                 |
| <b>max2retries</b> | MGCP 切断しきい値を設定します。                                                                                |
| <b>mgcp</b>        | 開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。                                                                        |
| <b>mgcp プロファイル</b> | 1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。 |

## max2 retries

Media Gateway Control Protocol (MGCP) の切断しきい値 (再送信のための新しいルックアップをさらに実行する前に、Call Agent アドレスにメッセージを再送信する試行回数) を設定するには、MGCP プロファイル設定モードで **max2retries** コマンドを使用します。切断しきい値を無効にする、または再試行回数をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**max2再試行数**  
**いいえmax2再試行**

### 構文の説明

数メッセージの再送を試みる回数。範囲は 3 ～ 30 です。デフォルトは 7 です。

### コマンド デフォルト

7 回試行

### コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                  |
|-----------|---------------------------------------------------------------------|
| 12.2(2)XA | このコマンドは導入され、もはやサポートされていない <b>mgcprequest retries</b> コマンドに代わるものです。  |
| 12.2(4)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。                        |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。再試行の最大数が 30 に増加しました。 |

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、MGCP プロファイルの値を設定する際に使用されます。

通話エージェントが IP アドレスではなく、ドメインネームシステム (DNS) 名で識別される場合、**call-agent** コマンドにより、各 DNS 名には複数の IP アドレスを関連付けることができるため、通話エージェントの冗長性が提供されます。

アクティブなコールエージェントがメディア ゲートウェイからのメッセージに応答しない場合、ゲートウェイはコールエージェントがサービス停止中であるかどうかをテストして判断します。ゲートウェイは、**max1retries** コマンドで指定された回数だけ、メッセージをコールエージェントに再送信します。これは不審しきい値と呼ばれています。応答がなく、**max1lookup** コマンドが有効な場合、ゲートウェイは DNS ルックアップテーブルを調べ、別のコールエージェントの IP アドレスを見つけます。2 番目のコールエージェントがリストにある場合、ゲートウェイは 2 番目のコールエージェントにメッセージを再送信します。応答を受信するか、**max1retries** コマンドで指定された回数に達するまで。

このプロセスは、最終的なアドレスに到達するまで、DNS テーブルの各 IP アドレスに対して繰り返されます。最終アドレスの場合、再試行の回数は **max2retriescommand** コマンドで指定します。これは切断のしきい値です。再試行の最大数 2 コマンドに達したにもかかわらず応答がなく、**max2 lookup** コマンドが有効になると、ゲートウェイは最後の DNS ルックアップを

1 回実行します。新しい IP アドレスが追加されると、ゲートウェイは再送信プロセスを再度開始します。そうでない場合、ゲートウェイはエンドポイントを切断状態にします。

#### 例

次の例では、切断再送信カウンタを 9 に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# call-agent igloo.northpole.net
Router(config-mgcp-profile)# max2 retries 9
```

#### 関連コマンド

| コマンド               | 説明                                                                                                |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>call-agent</b>  | MGCP プロファイルのコールエージェントアドレスとプロトコルを指定します。                                                            |
| <b>max1lookup</b>  | 疑惑の閾値に達した後で、MGCP コール エージェントの DNS ルックアップを有効にします。                                                   |
| <b>max1retries</b> | MGCP 疑惑の閾値を設定します。                                                                                 |
| <b>max2lookup</b>  | 切断しきい値に達した後で、MGCP コール エージェントの DNS ルックアップを有効にします。                                                  |
| <b>mgcp</b>        | 開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。                                                                        |
| <b>mgcpprofile</b> | 1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。 |

# 最大帯域幅

VoIP メディアトラフィックの帯域幅しきい値を設定するには、ダイヤルピア設定モードで **max-bandwidth** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**max-bandwidth** 帯域幅値[**midcall-exceed**]  
最大帯域幅なし

|       |                       |                                                |
|-------|-----------------------|------------------------------------------------|
| 構文の説明 | 帯域幅値                  | Kbps (キロビット/秒) 単位の集約帯域幅。 値の範囲は 8 ～ 2000000 です。 |
|       | <b>midcall-exceed</b> | (オプション) 通話中のメディア再ネゴシエーション中に帯域幅しきい値の超過を許可します。   |

コマンド デフォルト 既定では、帯域幅のしきい値は VoIP メディア トラフィックに対して構成されていません。

コマンド モード  
ダイヤル ピア構成 (config-dial-peer)

|        |          |                 |
|--------|----------|-----------------|
| コマンド履歴 | リリース     | 変更              |
|        | 15.2(2)T | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン ダイアルピアレベルで帯域幅ベースの通話受付管理機能を設定し、集約帯域幅のしきい値を超えた場合に SIP 通話を拒否するには、 **max-bandwidth** コマンドを使用します。

例  
次に、VoIP メディア トラフィックの帯域幅しきい値を 24 kbps に設定する例を示します。

```
Router> 有効化
Router# configure terminal
Router(config)# dial-peer voice 2000 voip
Router(config-dial-peer)# session protocol sipv2
Router(config-dial-peer)# max-bandwidth 24 midcall-exceed
```

|        |                               |                                                                |
|--------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                          | 説明                                                             |
|        | <b>session protocol sipv2</b> | パケットネットワークを使ったローカルとリモートのルーター間の通話に使用する SIP バージョン 2 プロトコルを指定します。 |

# max-calls

トランクグループが処理できる最大通話数を設定するには、**max-calls** コマンドをトランクで使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**max-calls** {**any** | **data** | **voice**} *number* [**direction** [**in** | **out**]]

いいえ **max-calls** {**any** | **data** | **voice**} *number* [**direction** [**in** | **out**]]

## 構文の説明

|            |                                          |
|------------|------------------------------------------|
| <b>any</b> | コールタイプに関係なく、トランクグループが処理できるコールの最大数を指定します。 |
| <b>データ</b> | トランクグループへのデータ通話の最大数を指定します。               |
| <b>音声</b>  | トランクグループへの音声通話の最大数を指定します。                |
| <b>数</b>   | 範囲は 0 から 1000 です。                        |
| <b>方向</b>  | (任意) 通話の方向を指定します。                        |
| <b>in</b>  | (オプション) 着信のみを許可します。                      |
| <b>out</b> | (オプション) 発信のみを許可します。                      |

## コマンド デフォルト

コマンドが設定されていない場合、制限はありません。

## コマンド モード

トランクグループ設定

## コマンド履歴

|             |                 |
|-------------|-----------------|
| <b>リリース</b> | <b>変更</b>       |
| 12.2(11)T   | このコマンドが導入されました。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、トランクグループにより処理されるコールの最大数を設定します。コマンドが設定されていない場合、最大値は無限になります。

最大数に達すると、トランクグループはそれ以上のコールで利用できなくなります。コール数が最大値を下回った場合、トランクグループはより多くのコールを受け付けます。

## 例

次の例では、トランクグループ **gw15** に、任意のタイプのコールの最大数を **500** に指定しています。

```
Router(config)# trunk group gw15
Router(config-trunk-group)# max-calls any 500
```

次の例では、最大 200 のデータ コールと 750 の音声コールをトランク グループ 32 に指定しています。

```
Router(config)# trunk group 32
Router(config-trunk-group)# max-calls data 200
Router(config-trunk-group)# max-calls voice 750
```

関連コマンド

| コマンド        | 説明                         |
|-------------|----------------------------|
| トランクグループの表示 | 1つまたは複数のトランクグループの構成を表示します。 |
| トランクグループ    | トランクグループの定義を開始します。         |

## max-conn (ダイヤル ピア)

特定の Multimedia Mail over IP (MMoIP)、一般電話サービス (POTS)、Voice over Frame Relay (VoFR)、または Voice over IP (VoIP) ダイヤルピアに着信または発信接続の最大数を指定するには、**max-conn** コマンドをダイヤルピア設定モードで 사용합니다。このダイヤルピアの接続数に制限を設定しない場合、このコマンドの **no** 形式を 사용합니다。

**max-conn***number*

いいえ**max-conn**

### 構文の説明

|               |                                                      |
|---------------|------------------------------------------------------|
| <i>number</i> | このダイヤルピアの最大接続数。範囲は 1-2147483647 です。デフォルトでは接続数は無制限です。 |
|---------------|------------------------------------------------------|

### コマンド デフォルト

このコマンドの [ **no** ] 形式が既定の設定となります。これは接続数に制限がないことを意味します。

### コマンド モード

ダイヤル ピア構成

### コマンド履歴

| リリース                           | 変更                                                                                               |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11.3(1)T                       | このコマンドが導入されました。                                                                                  |
| 12.0(4)XJ                      | このコマンドがストアアンドフォワード FAX 用に変更されました。                                                                |
| 12.0(4)T                       | このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(4)T に統合されました。                                                     |
| 12.1(1)T                       | このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。                                                     |
| 12.1(5)T                       | このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。                                                     |
| 12.2(4)T                       | このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。                                                                     |
| 12.2(8)T                       | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745。 |
| Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a | Yang モデルのサポートを導入しました。                                                                            |

### 使用上のガイドライン

ファックスメールの送受信で同時に使用する最大接続数を指定するには、このコマンドを 사용합니다。このコマンドは、オフランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されません。

### 例

以下の例では、VoIP ダイヤルピア 10 に最大 5 の接続を設定します。

max-conn (ダイヤル ピア)

```
dial-peer voice 10 voip
max-conn 5
```

| 関連コマンド | コマンド                         | 説明                           |
|--------|------------------------------|------------------------------|
|        | mtareceivemaximum-recipients | すべてのSMTP接続に対する受信者の最大数を指定します。 |

## max-concurrent-sessions

特定のフォンプロキシに同時 TFTP セッションの最大数を指定するには、フォンプロキシ設定モードで **max-concurrent-sessions** コマンドを使用します。同時 TFTP セッションの最大数を削除するには、コマンドの **no** 形を使用します。

**max-concurrent-sessions** セッション数  
**no max-concurrent-sessions**

|            |                                                                                                                                                                 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明      | セッション 同時 TFTP セッションの最大数。デフォルト値は 0 ～ 500 です。デフォルトは数 200 です。                                                                                                      |
| コマンド デフォルト | 200 の同時 TFTP セッションが設定されています。                                                                                                                                    |
| コマンド モード   | 電話プロキシ コンフィギュレーション モード (config-phone-proxy)                                                                                                                     |
| コマンド履歴     | リリー 変更<br>ス<br>15.3(3)M このコマンドが導入されました。                                                                                                                         |
| 使用上のガイドライン | <p>例</p> <p>次に、最大で400の同時TFTPセッションを指定する例を示します。</p> <pre>Device(config)# voice-phone-proxy first-pp Device(config-phone-proxy)# max-concurrent-sessions 300</pre> |

## 最大接続数

決済サービスプロバイダとの通信に使用する最大同時接続数を設定するには、**max-connection** 決済設定モードのコマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**max-connection** 数  
いいえ最大接続数 *number*

### 構文の説明

|               |                        |
|---------------|------------------------|
| <i>number</i> | 決済プロバイダへの HTTP 接続の最大数。 |
|---------------|------------------------|

### コマンド デフォルト

10 接続

### コマンド モード

決済設定

### コマンド履歴

| リリース       | 変更                                                                           |
|------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 12.0(4)XH1 | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300。 |
| 12.1(1)T   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。                                 |

### 例

次のコマンドは、同時接続の最大数を 10 に設定します。

```
settlement 0
max-connection 10
```

### 関連コマンド

| コマンド                      | 説明                               |
|---------------------------|----------------------------------|
| <b>connection-timeout</b> | 通信の交換が完了した後、接続が維持される時間を設定します。    |
| <b>顧客-ID</b>              | 顧客 ID を設定します。                    |
| <b>デバイス-ID</b>            | 決済サービスプロバイダに関連付けられたゲートウェイを指定します。 |
| <b>暗号化</b>                | プロバイダとネゴシエートされる暗号化方法を設定します。      |
| <b>response-timeout</b>   | サーバからの応答を待機する最大時間を設定します。         |
| <b>retry-delay</b>        | 決済プロバイダへの接続を試みる時間を設定します。         |
| <b>retry-limit</b>        | プロバイダへの最大接続試行回数を設定します。           |

| コマンド                   | 説明                                   |
|------------------------|--------------------------------------|
| <b>session-timeout</b> | 入力または出力のトラフィックがない場合に、接続を閉じる間隔を設定します。 |
| <b>決済</b>              | 決済設定モードを開始し、決済プロバイダーに固有の属性を指定します。    |
| <b>シャットダウン</b>         | 決済プロバイダを表示します。                       |
| <b>タイプ</b>             | SAA-RTR 操作タイプを設定します。                 |
| <b>URL</b>             | ISP アドレスを設定します。                      |

## 最大転送数

最大ホップ数、つまり、Session Initiation Protocol (SIP) リクエストを転送できるプロキシまたはリダイレクトサーバをグローバルに設定するには、**max-forwards** コマンドをSIPユーザエージェント設定モードまたは音声クラステナント設定モードで使用します。デフォルトのホップ数にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### 最大転送数ホップ数 [システム]

#### いいえ最大転送数ホップ数 [システム]

|       |      |                                                                              |
|-------|------|------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | ホップ数 | ホップ数。値の範囲は 1 ～ 70 です。デフォルトは 70 です。                                           |
|       | システム | ホップがグローバル sip-ua 値を使用することを指定します。このキーワードは、グローバル設定にフォールバックできるテナントモードでのみ使用可能です。 |

コマンド デフォルト 70 ホップ

コマンド モード SIP ユーザエージェントの構成  
音声クラス テナント構成 (config-class)

| コマンド履歴 | リリース                           | 変更                                                                                                                       |
|--------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 12.1(3)T                       | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300。                                             |
|        | 12.2(2)XA                      | このコマンドが Cisco AS5350 および AS5400 プラットフォームに実装されました。                                                                        |
|        | 12.2(2)XB1                     | このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。                                                                                           |
|        | 12.2(8)T                       | このコマンドが Cisco 7200 シリーズルーターに導入されました。このコマンドは、このリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 をサポートしていません。 |
|        | 12.3(8)T                       | このコマンドは改良され、設定可能な範囲が広がり、デフォルト値が大きくなりました (RFC 3261 準拠)。                                                                   |
|        | 15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1 | このコマンドにキーワード <b>system</b> が追加されました。                                                                                     |
|        | Cisco IOS XE ダブリン 17.10.1a     | YANG モデルのサポートを導入しました。                                                                                                    |

使用上のガイドライン このコマンドを既定値にリセットするには、**default** コマンドを使用することもできます。

---

例

次の例では、転送リクエスト数を 65 に設定しています。

```
sip-ua
max-forwards 65
```

次の例では、音声クラス テナント コンフィギュレーション モードでの応答の転送回数を設定します。

```
Router(config-class)# max-forwards system
```

---

関連コマンド

| コマンド                    | 説明                              |
|-------------------------|---------------------------------|
| <b>max- リダイレク<br/>ト</b> | ユーザエージェントが許可するリダイレクトの最大数を設定します。 |

## max-redirects

ユーザエージェントが許可するリダイレクトサーバの最大数を設定するには、**max-リダイレクト** コマンドをダイヤルピア設定モードで使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**max-redirects**数

いいえ **max-redirects**

### 構文の説明

|               |                                                  |
|---------------|--------------------------------------------------|
| <i>number</i> | 通話が通過できるリダイレクトサーバの最大数。範囲は 1 ～ 10 です。デフォルトは 1 です。 |
|---------------|--------------------------------------------------|

### コマンド デフォルト

1 回のリダイレクト

### コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション

### コマンド履歴

| リリース       | 変更                                                                                                                   |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.1(1)T   | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300。                                         |
| 12.2(2)XA  | このコマンドが Cisco AS5400 および Cisco AS5350 プラットフォームに実装されました。                                                              |
| 12.2(2)XB1 | このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。                                                                                       |
| 12.2(8)T   | このコマンドが Cisco 7200 シリーズに実装されました。このコマンドは、このリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 をサポートしていません。 |
| 12.2(11)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。                                                                        |

### 例

以下はユーザエージェントが許可するリダイレクトサーバの最大数を設定する例です:

```
dial-peer voice 102 voip
max-redirects 2
```

### 関連コマンド

| コマンド                  | 説明                                   |
|-----------------------|--------------------------------------|
| <b>dial-peervoice</b> | ダイヤルピア設定モードを開始し、音声関連のカプセル化の方法を指定します。 |

## max-subscription

同時視聴セッションの最大数を設定するには、プレゼンス設定モードで **max-subscription** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**max-subscription***number*

いいえ **max-subscription**

### 構文の説明

|               |                                     |
|---------------|-------------------------------------|
| <i>number</i> | 最大視聴セッション数。範囲: 100から500。デフォルト: 100。 |
|---------------|-------------------------------------|

### コマンド デフォルト

サブスクリプションの上限は 100 です。

### コマンド モード

プレゼンス構成 (config-presence)

### コマンド履歴

| リリース       | 変更                                            |
|------------|-----------------------------------------------|
| 12.4(11)XJ | このコマンドが導入されました。                               |
| 12.4(15)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。 |

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、内部と外部の両方のサブスクリプション要求に対して、同時プレゼンスサブスクリプションの最大数を設定します。

### 例

以下の例では、サブスクリプションの最大数を 150 に設定しています。

```
Router(config)# presence
Router(config-presence)# max-subscription 150
```

### 関連コマンド

| コマンド                   | 説明                                                              |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| <b>allowwatch</b>      | Cisco Unified CME に登録された電話機のディレクトリ番号を、プレゼンスサービスでウォッチできるようにします。  |
| <b>allowssubscribe</b> | 内部ウォッチャーが外部プレゼンス エンティティ (ディレクトリ番号) を監視できるようにします。                |
| <b>プレゼンスを有効にする</b>     | SIP トランクからの着信プレゼンス要求を許可します。                                     |
| <b>サーバ</b>             | 内部ウォッチャーから外部プレゼンスエンティティにプレゼンス要求を送信するためのプレゼンスサーバの IP アドレスを指定します。 |
| <b>watcherall</b>      | 外部のウォッチャーが内部のプレゼンス エンティティ (ディレクトリ番号) を監視できるようにします。              |

# 最大バッファサイズ

ファイル会計バッファの最大サイズを設定するには、ゲートウェイ会計ファイル設定モードで **maximum** バッファサイズ コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

最大バッファサイズ キロバイト  
いいえ 最大バッファサイズ

|       |                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | <i>bytes</i> 最大バッファ サイズ (キロバイト)。 範囲: 6~60。 デフォルト: 20。 |
|-------|-------------------------------------------------------|

|            |                        |
|------------|------------------------|
| コマンド デフォルト | 最大バッファサイズは 20 キロバイトです。 |
|------------|------------------------|

|          |                                             |
|----------|---------------------------------------------|
| コマンド モード | ゲートウェイの会計ファイル設定 (config-gw-accounting-file) |
|----------|---------------------------------------------|

|        |            |                                               |
|--------|------------|-----------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース       | 変更                                            |
|        | 12.4(15)XY | このコマンドが導入されました。                               |
|        | 12.4(20)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。 |

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 使用上のガイドライン | <p>ファイル アカウンティング プロセスは、各レコードを個別にアカウンティング ファイルに書き込むのではなく、通話詳細レコード (CDR) をメモリ バッファに書き込みます。 ファイル アカウンティング用に2つのバッファが割り当てられます。サイズはこのコマンドで設定します。 バッファ中のアカウンティング レコードがこのコマンドで設定したサイズ制限に達すると、システムは最初のバッファをフラッシュし、レコードをアカウンティングファイルに書き込みます。 最初のバッファがフラッシュされている間、システムは2番目のバッファを使用して新しいデータを保持します。 フラッシュプロセスの後、バッファは再び利用可能になります。</p> <p>バッファサイズは、システムが両方のバッファを完全に一杯にすることなく、着信 CDR を収容するのに十分な大きさである必要があります。</p> |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 例 | 次の例では、最大バッファサイズを 25 キロバイトに設定しています: |
|---|------------------------------------|

```
gw-accounting file
primary ftp server1/cdrtest1 username bob password temp
secondary ifs flash:cdrtest2
maximum buffer-size 25
maximum retry-count 3
maximum fileclose-timer 720
cdr-format compact
```

## 関連コマンド

| コマンド                  | 説明                                                         |
|-----------------------|------------------------------------------------------------|
| <b>cdr 形式</b>         | ファイルアカウント用に生成される CDR の形式を選択します。                            |
| <b>file-acctflush</b> | バッファからアカウント ファイルに CDR を手動でフラッシュするします。                      |
| <b>最大ファイルクローズタイマー</b> | 記録を会計ファイルに保存してからファイルを閉じて新しいものを作成する前の最長時間を設定します。            |
| <b>プライマリ</b>          | ファイル会計用に生成された CDR を保存するプライマリの場所を設定します。                     |
| <b>secondary</b>      | プライマリのロケーションが利用できなくなった場合に CDR を保存するためのバックアップのロケーションを設定します。 |

# maximum cdrflush-timer

記録をアカウンティングファイルに追加する前に、通話記録をバッファに保持する最大時間を設定するには、 **maximumcdrflush-timer** コマンドを使用します。ゲートウェイ アカウンティング コンフィギュレーション モード。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

最大cdrflush-timer分  
いいえ最大cdrflush-timer

|       |                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | 分課金バッファに通話記録を保持する最大時間 (分単位)。 範囲は 1 ～ 1,435 です デフォルト: 60 (1 時間)。 |
|-------|-----------------------------------------------------------------|

コマンド デフォルト レコードはバッファ内に 60 分間 (1 時間) 保持されます。

コマンド モード ゲートウェイの会計ファイル設定 (config-gw-accounting-file)

|        |            |                                               |
|--------|------------|-----------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース       | 変更                                            |
|        | 12.4(15)XY | このコマンドが導入されました。                               |
|        | 12.4(20)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドで設定した時間が経過すると、ルーターはバッファをフラッシュし、通話明細記録 (CDR) を会計ファイルに書き込みます。

ファイル アカウンティング プロセスは、各レコードを個別にアカウンティング ファイルに書き込む代わりに、CDR をメモリ バッファに送信します。このタイマーが切れた後、またはバッファ中のレコード数が **maximum/バッファサイズ** コマンドで設定されたサイズに達したときに、システムはバッファを自動的にフラッシュします。

このフラッシュタイマーを、 **maximum fileclose-timer** コマンドで設定するファイルを閉じるタイマーより少なくとも 5 分早く設定してください。

バッファ中の CDR を手動でアカウントファイルにフラッシュするには、 **file-acct**フラッシュ コマンドを使用します。

## 例

次の例では、課金ファイルに通話記録が 3 時間保持され、その後、記録が課金ファイルに追加されることを示します。

```

gw-accounting file
primary ftp server1/cdrtest1 username bob password temp
secondary ifs flash:cdrtest2
maximum buffer-size 25
maximum retry-count 3

```

```
maximum fileclose-timer 720  
cdr-format compact
```

## 関連コマンド

| コマンド                  | 説明                                                         |
|-----------------------|------------------------------------------------------------|
| <b>file-acctフラッシュ</b> | バッファからアカウント ファイルに CDR を手動でフラッシュするします。                      |
| <b>最大バッファサイズ</b>      | ファイルアカウンティングバッファの最大サイズを設定します。                              |
| <b>最大ファイルクローズタイマー</b> | 記録を会計ファイルに保存してからファイルを閉じて新しいものを作成する前の最長時間を設定します。            |
| <b>プライマリ</b>          | ファイル会計用に生成された CDR を保存するプライマリの場所を設定します。                     |
| <b>セカンダリ</b>          | プライマリのロケーションが利用できなくなった場合に CDR を保存するためのバックアップのロケーションを設定します。 |

## maximum conference-participants

各ミーティング電話会議で許可される最大参加者数を設定するには、DSP ファームプロファイル設定モードで **maximum conference-participants** コマンドを使用します。最大数をデフォルトの数にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

最大**conference-participants**最大参加者数[**video-cap-class**数]

いいえ最大**conference-participants**最大参加者数[**video-cap-classnumber**]

|       |                              |                                                                                                                                                                                                                    |
|-------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | 最大参加者数                       | 各meet-me conference sessionで許可される参加者の最大数。1つのDSPは、次の最大値をサポートできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• G.711--32 人の参加者</li> <li>• G.729--16 人の参加者</li> <li>• ビデオ (H.263 または H.264)--4、8、または 16 人の参加者</li> </ul> |
|       | <b>video-cap-classnumber</b> | (オプション)ビデオ形式の変換を必要とするビデオ参加者のサポートに必要な DSP リソースを予約します。ビデオポート番号の範囲は 2 から 4 です。既定値は 2 です。                                                                                                                              |

コマンド デフォルト ビデオ会議のデフォルトの最大参加者数は 4 人です。音声会議のデフォルトの最大参加者数は 8 人です。

コマンド モード DSP farm profile configuration (config-dspfarm-profile)

|        |             |                                                       |
|--------|-------------|-------------------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース        | 変更                                                    |
|        | 12.4(11)XJ2 | このコマンドが導入されました。                                       |
|        | 12.4(15)T   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。         |
|        | 15.1(4)M    | このコマンドは変更されました。 <b>video-cap-class</b> キーワードが追加されました。 |

使用上のガイドライン ハードウェア電話会議に許可される参加者の最大数は、DSP ファームプロファイルで使用されるコーデックによって異なります。DSP ファームプロファイル設定モードで **codec** コマンドを使用して、DSP ファームプロファイルでサポートされるコーデックを指定します。**showdspfarmprofile** コマンドを使用して DSP ファームのプロファイルを表示します。

### 例

次の例では、G.711 コーデックを使用するハードウェア電話会議用に最大 16 人の参加者を持つ DSP ファームプロファイルを設定します。

```
Router(config)# dspfarm profile conference 1
```

```
Router(config-dspfarm-profile)# maximum conference-participants 16
Router(config-dspfarm-profile)# codec g711alaw
```

## 関連コマンド

| コマンド                         | 説明                                                           |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| <b>codec(DSPFarmprofile)</b> | DSP ファームプロファイルによってサポートされるコーデックを指定します。                        |
| <b>dspfarmprofile</b>        | DSP ファームプロファイルコンフィギュレーションモードを開始し、DSP ファーム サービスのプロファイルを定義します。 |
| 最大セッション数                     | プロファイルでサポートされるセッションの最大数を指定します。                               |
| <b>showdspfarmprofile</b>    | 設定済みの DSP ファームのプロファイル情報を表示します。                               |

# maximum fileclose-timer

ファイルを閉じて新しいファイルを作成するまでに、通話詳細記録 CDR をファイルに書き込む最大時間を設定するには、**最大ファイルクローズタイマー**コマンドをゲートウェイ会計設定モードで使します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使します。

最大ファイルクローズ-タイマー分  
いいえ最大ファイルクローズ-タイマー

## 構文の説明

分 会計ファイルにレコードを書き込む最大時間 (分単位)。 範囲: 60 (1 時間), 1,440 (24 時間)。デフォルト: 1,440。

## コマンド デフォルト

レコードは、1,440 分 (24 時間) の間、アカウントファイルに保存されます。

## コマンド モード

ゲートウェイの会計ファイル設定 (config-gw-accounting-file)

## コマンド履歴

| リリース       | 変更                                            |
|------------|-----------------------------------------------|
| 12.4(15)XY | このコマンドが導入されました。                               |
| 12.4(20)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドで設定されたタイマーの期限が切れると、現在の会計ファイルが閉じられ、CDR を書き込むために新しいタイムスタンプを持つ新しいファイルが開かれます。会計ファイルの名前と場所は、**primary** コマンド、またはフェイルオーバー中の場合は **secondary** コマンドで設定します。

このファイルクローズタイマーを、**maximum cdrflush-timer** コマンドで設定するフラッシュタイマーより少なくとも 5 分長く設定してください。

バッファ中の CDR を手動でアカウントファイルにフラッシュするには、**file-acct** フラッシュする コマンドを使します。

## 例

次の例は、通話記録が現在開いている会計ファイルに 12 時間保存され、その後新しい会計ファイルが作成されることを示しています。

```

gw-accounting file
primary ftp server1/cdrtest1 username bob password temp
secondary ifs flash:cdrtest2
maximum buffer-size 25
maximum retry-count 3
maximum fileclose-timer 720
cdr-format compact

```

## 関連コマンド

| コマンド                         | 説明                                                         |
|------------------------------|------------------------------------------------------------|
| <b>file-acctflush</b>        | バッファからアカウントファイルに CDR を手動でフラッシュします。                         |
| <b>最大バッファサイズ</b>             | ファイルアカウンティングバッファの最大サイズを設定します。                              |
| <b>maximumcdrflush-timer</b> | 通話記録をアカウンティングファイルに追加するまでにバッファに保持する最大時間を設定します。              |
| <b>プライマリ</b>                 | ファイル会計用に生成された CDR を保存するプライマリの場所を設定します。                     |
| <b>secondary</b>             | プライマリのロケーションが利用できなくなった場合に CDR を保存するためのバックアップのロケーションを設定します。 |

## 最大リトライ回数

セカンダリ端末に切り替える前に、ルーターがプライマリファイル端末への接続を試みる最大回数を設定するには、**最大リトライカウント** コマンドをゲートウェイ アカウンティング ファイル コンフィギュレーション モードで入力します。既定値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**最大再試行回数***number*

いいえ**最大再試行回数**

### 構文の説明

|               |                          |
|---------------|--------------------------|
| <i>number</i> | 接続試行回数。範囲: 1～5。デフォルト: 2。 |
|---------------|--------------------------|

### コマンド デフォルト

最大接続試行回数は 2 回です。

### コマンド モード

ゲートウェイの会計ファイル設定 (config-gw-accounting-file)

### コマンド履歴

| リリース       | 変更                                            |
|------------|-----------------------------------------------|
| 12.4(15)XY | このコマンドが導入されました。                               |
| 12.4(20)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。 |

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、**primary** コマンドで定義されたプライマリファイルデバイスへの接続を試みる回数を指定し、それが失敗した場合には **secondary** コマンドで指定されたバックアップファイルデバイスへの接続を試みます。

### 例

次の例では、最大再試行回数を 3 に設定しています。

```

gw-accounting file
 primary ftp server1/cdrtest1 username bob password temp
 secondary ifs flash:cdrtest2
 maximum buffer-size 25
 maximum retry-count 3
 cdr-format compact

```

### 関連コマンド

| コマンド                  | 説明                                                         |
|-----------------------|------------------------------------------------------------|
| <b>file-acctreset</b> | ファイルベースの会計をプライマリ デバイスに手動で切り替えます。                           |
| <b>プライマリ</b>          | ファイル会計用に生成された通話詳細記録 (CDR) を保存するための主要な場所を設定します。             |
| <b>セカンダリ</b>          | プライマリのロケーションが利用できなくなった場合に CDR を保存するためのバックアップのロケーションを設定します。 |

## 最大セッション (DSP ファーム プロファイル)

プロファイルでサポートされるセッションの最大数を指定するには、DSP ファーム プロファイル設定モードで **maximumsessions** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

電話会議またはトランスコーディングが設定されている場合のコマンド構文

最大セッション *number*

いいえ最大セッション

MTP 構成時のコマンド構文

最大セッション {**hardware** | **software**} *number*

いいえ最大セッション

### 構文の説明

|        |                                                                                                  |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数      | プロファイルによってサポートされているセッションの数。範囲は 0 から x です。デフォルトは 0 です。x の値は、リソースプロバイダで利用可能なリソースの数に応じて、実行時に決定されます。 |
| ハードウェア | メディアターミネーションポイント (MTP) ハードウェアリソースがサポートするセッション数です。                                                |
| ソフトウェア | MTP ソフトウェアリソースがサポートするセッション数。                                                                     |

### コマンドデフォルト

サポートされているセッションの最大数は 0 です。

### コマンドモード

DSP ファーム プロファイル構成

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                  |
|-----------|---------------------|
| 12.3(8)T  | このコマンドが導入されました。     |
| 12.4(22)T | IPv6 のサポートが追加されました。 |

### 使用上のガイドライン

サービスタイプが MTP の場合、ソフトウェア MTP とハードウェア MTP のセッション数を別々に指定する必要があります。ハードウェア MTP はデジタルシグナルプロセッサ (DSP) リソースを必要とします。コーデックが同じでパケット期間が異なる場合、ハードウェア MTP を使用します。

パラメータを変更する前に、アクティブなプロファイルをシャットダウンする必要があります。



(注) コマンドの構文は、設定しているプロファイルのタイプによって異なります。キーワードは、MTP が設定されている場合にのみ機能します。

例

次の例は、4つのセッションが DSP ファーム プロファイルによってサポートされることを示します。

```
Router(config-dspfarm-profile)#
maximum sessions
```

関連コマンド

| コマンド                                 | 説明                                                              |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| <b>associateapplication</b>          | SCCP プロトコルを DSP ファーム プロファイルに関連付けます。                             |
| <b>codec</b> (dspfarm-profile)       | DSP ファーム プロファイルによってサポートされるコーデックを指定します。                          |
| <b>description</b> (dspfarm-profile) | DSP ファーム プロファイルに関する特定の説明を含めます。                                  |
| <b>dspfarmprofile</b>                | DSP ファーム プロファイル コンフィギュレーション モードを開始し、DSP ファーム サービスのプロファイルを定義します。 |
| <b>shutdown</b> (dspfarm-profile)    | DSP ファームのリソースを割り当て、アプリケーションと関連付けます。                             |
| 音声カード                                | 音声カード コンフィギュレーション モードを開始します。                                    |

# MDN

メッセージが処理された時(開かれた時)にメッセージ処置通知(MDN)が生成されるように要求するには、ダイヤルピア設定モードで **mdn** コマンドを使用します。MDN の生成を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

## mdn

いいえ **mdn**

### 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

### コマンド デフォルト

Disabled

### コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                                               |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.0(4)XJ | このコマンドが導入されました。                                                                                  |
| 12.0(4)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(4)T に統合されました。                                                     |
| 12.1(1)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。                                                     |
| 12.1(5)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。                                                     |
| 12.2(4)T  | このコマンドが Cisco 1750 アクセスルーターに導入されました。                                                             |
| 12.2(8)T  | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745。 |

### 使用上のガイドライン

メッセージ配信状況通知は、受信者がメッセージを開いたときに、生成されて送信者に送信される電子メールメッセージです。FAX の TIFF 画像が添付された電子メールを開封したときに、送信者に電子メールの応答メッセージを送るように要求するには、このコマンドを使用します。

このコマンドは、オンランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。

### 例

次の例では、受信者がメッセージ処理通知を生成するようにリクエストします。

```
dial-peer voice 10 mmoip
mdn
```

関連コマンド

| コマンド                            | 説明                                            |
|---------------------------------|-----------------------------------------------|
| <b>mtareceivegenerate-mdn</b>   | オフランプゲートウェイが SMTP サーバからの応答 MDN を処理することを指定します。 |
| <b>mtasendreturn-receipt-to</b> | MDN が送信されるアドレスを指定します。                         |

# メディア

エンドポイント間でメディアパケットが直接通過し、Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) の介入を避け、シグナリングサービスを有効にするには、ダイヤルピア音声、音声クラス、または音声サービスの設定モードで **media** コマンドを入力します。既定の動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

メディア[bulk-stats | flow-around | flow-through | forking | monitoring [video] [最大コール数] | 統計 | トランスコーダ高密度 | anti-trombone | sync-streams]  
 いいえメディア[bulk-stats | flow-around | flow-through | forking | monitoring [video] [最大コール数] | 統計 | トランスコーダ高密度 | anti-trombone | sync-streams]

## 構文の説明

|                        |                                                                                           |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一括統計                   | (オプション) 定期的なプロセスによる一括通話統計の取得を有効にします。                                                      |
| flow-around            | (オプション) メディアパケットが、Cisco UBE の介入なしに、エンドポイント間で直接通過できるようにします。メディアパケットはゲートウェイをバイパスします。        |
| flow-through           | (オプション) Cisco UBE の介入なしに、メディアパケットがエンドポイントを通過できるようにします。                                    |
| forking                | (オプション) すべての通話に対してメディアフォーク機能を有効にします。                                                      |
| monitoring             | (オプション) すべての通話または通話の最大数に対するメディア音声ストリームの品質を監視します。                                          |
| ビデオ                    | (オプション) ビデオ品質の監視を指定します。                                                                   |
| max-calls              | (オプション) モニタされるコールの最大数。                                                                    |
| statistics             | (オプション) メディア監視を有効にします。                                                                    |
| transcoderhigh-density | (オプション) メディアコーデックを 1 つの音声標準から別の標準に変換して、異なるメディア標準を使用するデバイスの相互運用を促進します。                     |
| anti-trombone          | (オプション) すべての通話でanti-tromboneを有効にします。メディアトロンボーンは、着信転送またはコールフォワードによる SIP エンティティのメディア ループです。 |
| 同期ストリーム                | (オプション) 音声とビデオの両方のストリームが Cisco UBE および Cisco Unified CME の DSP ファームを通過するよう指定します。          |

**コマンド デフォルト** Cisco UBE のデフォルトの動作では、着信コール レッグからメディア パケットを受信し、終端し、発信コール レッグでメディア ストリームを再発信します。

**コマンド モード** ダイヤルピア 音声構成 (config-dial-peer) 音声クラス構成 (config-class) 音声サービス構成 (config-voi-serv)

| コマンド履歴 | リリース                           | 変更                                                                                      |
|--------|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 12.3(1)T                       | このコマンドが導入されました。                                                                         |
|        | 12.4(11)XJ2                    | このコマンドは変更されました。 <b>統計</b> キーワードが導入されました。                                                |
|        | 12.4(15)T                      | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。                                           |
|        | 12.4(20)T                      | このコマンドは変更されました。 <b>トランスコーダ</b> および <b>高密度</b> キーワードが導入されました。                            |
|        | 15.0(1)M                       | このコマンドは変更されました。 <b>フォーキング</b> および <b>monitoring</b> キーワードと <b>max-calls</b> 引数が導入されました。 |
|        | 15.1(3)T                       | このコマンドは変更されました。 <b>anti-trombone</b> キーワードが導入されました。                                     |
|        | 15.1(4)M                       | このコマンドは変更されました。 <b>sync-stream</b> キーワードが追加されました。                                       |
|        | 15.2(1)T                       | このコマンドは変更されました。 <b>video</b> キーワードが追加されました。                                             |
|        | Cisco IOS XE リリース 15.0(1)S     | <b>バルク統計</b> キーワードが追加されました。                                                             |
|        | Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r | Yang モデルのサポートを導入しました。                                                                   |

## 使用上のガイドライン



(注) **mediabulk-stats** and **mediastatistics** のみに対応しています。

デフォルト設定では、Cisco UBE は着信コール レッグからメディア パケットを受信し、パケットを終端し、発信コール レッグでメディア ストリームを再び生成します。メディア フローアウンドにより、メディア パケットは、Cisco UBE の介入なしに、エンドポイント間で直接受け渡されます。Cisco UBE は引き続きルーティングと請求機能进行处理します。SIP-to-SIP コールのメディア フローアウンドはサポートされていません。



- (注) メディア フローアラウンドをサポートするために、Cisco UBE は Cisco IOS Release 12.3 (1) 以降を実行している必要があります。

音声クラス、すべての VoIP 通話、または個別のダイヤルピアに対して、メディア フローアラウンドを指定できます。

**transcoder高密度**キーワードは、同じコマンド形式を使用して、どの設定モードでも有効にできます。ダイヤルピアに[**トランスコーダ高密度**]キーワードを設定する場合、**メディアトランスコーダ高密度** コマンドがインレグとアウトレグの両方で設定されていることを確認してください。

ソフトウェアは、ビデオコールを処理するダイヤルピア上での **トランスコーダ高密度** キーワードの設定をサポートしていません。以下のシナリオはサポートされていません。

- ビデオにいつでも使用されるダイヤルピア。 **mediaトランスコーダ高密度** コマンドをダイヤルピアまたは音声クラスのメディア設定モードで直接設定することはサポートされていません。
- Cisco UBE で構成されたダイヤルピアは、任意の時点でビデオコールに使用されます。音声サービス設定モード下での **mediatranscoder高密度** コマンドのグローバル設定はサポートされていません。



- (注) 多数のアクティブな通話がある場合、**media一括統計** コマンドがパフォーマンスに影響を与える可能性があります。顧客のアプリケーションにおいてパフォーマンスが重要であるネットワークでは、**mediabulk-stats** コマンドを設定しないことをお勧めします。

Cisco 2900 または Cisco 3900 シリーズ Unified Border Element 音声ゲートウェイで **media** コマンドを有効にするには、まず **border-element** モードに入る必要があります。これにより、**メディアの分岐** と **メディア監視** が有効になります。Cisco 2800 または Cisco 3800 シリーズのプラットフォームでは **modeborder-element** コマンドを設定しないでください。

音声クラス、すべての VoIP 通話、または個別のダイヤルピアに対して、メディアの対トロンボーンを指定することができます。

**反トロンボーン** キーワードは、両方のアウトレグでメディアの連動が必要ない場合にのみ有効にできます。アンチトロンボーンは、コール レグがフロースルーで、別のコール レグがフローアラウンドである場合、機能しません。

## 例

### メディア一括統計情報の例

次の例は、すべての VoIP 通話に対して構成されているメディア一括統計を示しています。

```
Device(config)# voice service voip
```

```
Device(config-voi-serv)# allow-connections sip to sip
Device(config-voi-serv)# media statistics
```

### メディア フローアラウンドの例

次の例は、ダイヤルピアで設定されたメディア フローアラウンドを示しています。

```
Device(config)# dial-peer voice 2 voip
Device(config-dial-peer)# media flow-around
```

次の例は、すべての VoIP 通話に設定されたメディア フローアラウンドを示しています。

```
Device(config)# voice service voip
Device(config-voi-serv)# media flow-around
```

次の例は、音声クラス コールに設定されたメディア フローアラウンドを示しています。

```
Device(config)# voice class media 1
Device(config-class)# media flow-around
```

### メディア フロースルーの例

以下の例は、ダイヤルピアで設定されたメディア フロースルーを示しています。

```
Device(config)# dial-peer voice 2 voip
Device(config-dial-peer)# media flow-through
```

次の例は、すべての VoIP 通話に設定されたメディア フロースルーを示しています。

```
Device(config)# voice service voip
Device(config-voi-serv)# media flow-through
```

次の例は、音声クラス コール用に設定されたメディア フロースルーを示しています。

```
Device(config)# voice class media 2
Device(config-class)# media flow-through
```

### メディア統計の例

次の例は、すべての VoIP 通話に対して構成されたメディア監視を示しています。

```
Device(config)# voice service voip
Device(config-voi-serv)# media statistics
```

次の例は、音声クラス コール用に設定されたメディア モニタリングを示しています。

```
Device(config)# voice class media 1
Device(config-class)# mediastatistics
```

### メディア トランスコーダの高密度の例

次の例では、すべての VoIP 通話に設定された メディアトランスコーダ コマンドを示します:

```
Device(config)# voice service voip
Device(conf-voi-serv)# media transcoder high-density
```

次の例は、音声クラスの通話用に設定された メディアトランスコーダコマンドを示しています:

```
Device(config)# voice class media 1
Device(config-voice-class)# media transcoder high-density
```

次の例は、ダイヤルピアで設定された メディアトランスコーダーコマンドを示しています。

```
Device(config)# dial-peer voice 36 voip
Device(config-dial-peer)# media transcoder high-density
```

### Cisco UBE プラットフォームでのメディア監視

次の例は、最大 100 コールの音声通話スコアリングを設定する方法を示しています。

```
mode border-element
media monitoring 100
```

### メディアアンチトロンボーンの例

次の例では、すべての VoIP 通話に設定された **mediaanti-trombone** コマンドを示します:

```
Device(config)# voice service voip
Device(conf-voi-serv)# media anti-trombone
```

次の例では、すべてのボイスクラスコールに設定された **mediaanti-trombone** コマンドを示します:

```
Device(config)# voice class media 1
Device(config-voice-class)# media anti-trombone
```

以下の例は、ダイヤルピアで設定された **mediaアンチトロンボーン**コマンドを示しています。

```
Device(config)# dial-peer voice 36 voip
Device(config-dial-peer)# media anti-trombone
```

メディア トランスコーダの例

次の例では、音声またはビデオのいずれかのトランスコーディングが必要な場合に、音声とビデオの両方の RTP ストリームが DSP ファームを通過するように指定しています。

```
Device(config)# voice service voip
Device(config-voi-serv)# media transcoder sync-streams
```

次の例では、音声またはビデオのいずれかのトランスコーディングが必要な場合に、音声とビデオの両方の RTP ストリームが DSP ファームを経由し、RTP ストリームが Cisco Unified Border Element を迂回するように指定しています。

```
Device(config)# voice service voip
Device(config-voi-serv)# media transcoder high-density sync-streams
```

関連コマンド

| コマンド               | 説明                          |
|--------------------|-----------------------------|
| dial-peervoice     | ダイヤルピア音声設定モードを開始します。        |
| modeborder-element | media コマンドのメディア監視機能を有効にします。 |
| voiceclass         | 音声クラス コンフィギュレーションモードに入ります。  |
| 音声サービス             | 音声サービス設定モードに入ります。           |

## media-address voice-vrf

RTP ポート範囲を VRF と関連付けるには、voice-service-voip 設定モードで **media-address voice-vrf** コマンドを使用します。無効にするには、**no** このコマンドの形式を使用します。

**media-address voice-vrf** VRF 名 **port-range** {min max}

**no media-adderss voice-vrf** vrf name **port-range** {最小 最大}

### 構文の説明

**VRF 名** VRF 名を指定します。

**ポート範囲** RTP ポート範囲を指定します。  
**困**

**最小-最大** 最小および最大 RTP ポート範囲を指定します。

### コマンド デフォルト

VRF に関連付けられているメディアアドレス範囲はありません。

### コマンド モード

voice-serv-voip

### コマンド履歴

リリース

変更

Cisco IOS 15.6(2)T

このコマンドが導入されました。

Cisco IOS XE デナリ 16.3.1

このコマンドが Cisco IOS XE Denali 16.3.1 で統合されました

Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a

YANG モデルのサポートを導入しました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、RTP ポート範囲を VRF と関連付けます。

### 例

メディア アドレスと同じ行にポート範囲を設定します。

```
Device(conf-voi-serv)# media-address voice-vrf VRF1 6000 7000
```

メディア アドレスの下に複数のポート範囲行を設定します。

```
Device(conf-voi-serv)# media-address voice-vrf VRF1
```

```
Device(cfg-media-addr-vrf)# port-range 6000 7000
```

```
Device(cfg-media-addr-vrf)# port-range 8000 10000
```

```
Device(cfg-media-addr-vrf)# port-range 11000 20000
```

# メディアカード

メディアカード設定モードを開始し、CMM (Communications Media Module) メディアカードを設定するには、グローバル設定モードで **mediacard** コマンドを使用します。

## メディアカードスロット

|       |      |                                               |
|-------|------|-----------------------------------------------|
| 構文の説明 | スロット | 設定するメディアカードのスロット番号を指定します。 1 ～ 4 の範囲の値を指定できます。 |
|-------|------|-----------------------------------------------|

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード      グローバル コンフィギュレーション モード

|        |           |                                               |
|--------|-----------|-----------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース      | 変更                                            |
|        | 12.3(8)XY | このコマンドは、通信メディアモジュールに導入されました。                  |
|        | 12.3(14)T | このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(14)T に統合されました。 |
|        | 12.4(3)   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(3) に統合されました。   |

使用上のガイドライン      メディアカード構成モードは、デジタルシグナルプロセッサ (DSP) リソース プールなど、選択したメディア カードに関連するパラメータを構成するために使用されます。

例      次に、スロット 1 のメディアカードで DSP リソースを設定する例を示します。

```
mediacard 1
```

|        |                       |                                                  |
|--------|-----------------------|--------------------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                  | 説明                                               |
|        | <b>debugmediacard</b> | デジタルシグナルプロセッサ リソース マネージャー (DSPRM) のデバッグ情報を表示します。 |
|        | <b>showmediacard</b>  | 選択しているメディアカードの情報を表示します。                          |

# メディアクラス

メディアクラスを設定し、メディアクラス設定モードに入るには、グローバル設定モードで **mediaclass** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

メディアクラスタグ

いいえメディアクラスタグ

## 構文の説明

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| タグ | Media class tag. 範囲は 1 ～ 10000 です。 |
|----|------------------------------------|

## コマンド デフォルト

メディア クラスが設定されていません。

## コマンド モード

グローバル設定 (config)

## コマンド履歴

| リリース                           | 変更                                                          |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 15.2(1)T                       | このコマンドが導入されました。                                             |
| Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1a | このコマンドが変更され、 <b>stream-service</b> がサブコマンドとして追加されるようになりました。 |

## 使用上のガイドライン

**mediaclass** コマンドを使用して、メディアフォークなどの異なるプロファイルを組み合わせ、必要に応じてプロファイルをダイヤルピアに適用します。

## 例

次の例では、タグ 100 のメディアクラスを設定する方法を示します:

```
Router(config)# media class 100
```

## 関連コマンド

| コマンド                   | 説明                       |
|------------------------|--------------------------|
| <b>recorderprofile</b> | メディア レコーダー プロファイルを設定します。 |

## メディア非アクティブ条件

音声コール時にメディアの非アクティブ状態 (無音状態) を検出するメカニズムを指定するには、ゲートウェイ設定モードで **media-inactivity-criteria** コマンドを使用します。検出を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

メディア非アクティブ条件 {**rtp** | [**receive**] | **rtcp** | **all** | [**receive**] | **rtplib**}  
 いいえメディア非アクティブ条件

### 構文の説明

|               |                                           |
|---------------|-------------------------------------------|
| <b>RTP</b>    | Real-Time Transport Protocol (RTP) (既定)   |
| <b>rtcp</b>   | RTP 制御プロトコル (RTCP)                        |
| <b>すべて</b>    | RTP および RTCP の両方                          |
| <b>受信する</b>   | (オプション) 受信パケットのみを確認するメディアの非アクティブ基準を変更します。 |
| <b>rtplib</b> | RTP (快適ノイズはアクティビティと見なされます)                |

### コマンド デフォルト

メディア非アクティブの検出は、RTP によって実行されます。

### コマンド モード

グローバル設定モード。

### コマンド履歴

| リリース                           | 変更                                            |
|--------------------------------|-----------------------------------------------|
| 12.4(9)T                       | このコマンドが導入されました。                               |
| 15.4(03)M                      | このコマンドは変更されました。 <b>receive</b> キーワードが追加されました。 |
| Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a | YANG モデルのサポートを導入しました。                         |

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、音声コールの無音状態を検出するメカニズムを指定します。その後、以下にリストされている関連コマンドを入力して、サイレントコールが切断されるように設定できます。

このコマンドは、**application**、**packagecallfeature**、**param**、および **paramspace** コマンドと共に使用して、パッケージレベルで **callfeature** パラメータを設定し、特定のアプリケーションやダイヤルピアの必要に応じてそれらを上書きします。

このコマンドで明示的に指定したメカニズムは、**iprtcpreportinterval** コマンドと **timermedia-inactive** または **timerreceive-rtcp** コマンドを使用した暗黙的に指定したメカニズムよりも優先されます。

SIP-to-SIP IPv4 コールで、CLI コマンド **media-inactivity-criteria rtp** がゲートウェイ設定モードで設定されている場合、双方向 RTP および RTCP が存在していますが、メディアが非アクティ

ブであるため、コールはクリアされます。回避策として、**media-inactivity-criteria** as **rtplib** または **rtcp** または **all** を設定する必要があります。設定例は [サンプル](#) を参照してください。

## 例

次の例は、RTP および RTCP が存在しているにもかかわらず、メディアの非アクティブが原因で通話が切断されないようにするための **media-inactivity-criteria** 設定を示しています。

```
Router(config)#gateway
Router(config-gateway)#media-inactivity-criteria rtcp|rtplib|all
```

次の例では、無音状態の検出に RTCP を使用するよう指定しています。

```
Router(config)# gateway
Router(config-gateway)# media-inactivity-criteria rtcp
```

次の例は、このコマンドおよび関連するコマンドを使用した結果の構成を示しています。

```
voice service pots
map q850-cause 44 release-source local tone 3
application
  package callfeature
    param med-inact-disc-cause 44
    param med-inact-det enable
    param med-inact-action disconnect
ip rtcp report interval 9000
dial-peer voice 5 voip
destination-pattern .T
progress_ind disconnect enable 8
session target ras
codec g711ulaw
gateway
media-inactivity-criteria rtcp
timer media-inactive 5
```

## 関連コマンド

| コマンド                 | 説明                                                    |
|----------------------|-------------------------------------------------------|
| アプリケーション             | ダイヤルピアで特定のアプリケーションを有効にします。                            |
| iprtcp レポート間隔        | 後続の RTCP レポート送信間の平均レポート間隔を設定します。                      |
| パッケージ<br>callfeature | アプリケーションパラメータ コンフィギュレーションモードを入力します。                   |
| パラメータ                | ゲートウェイ上のパッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータをロードして設定します。    |
| パラメータスペース            | アプリケーションが別のアプリケーションのローカルパラメータスペースからパラメータを使用できるようにします。 |
| timermedia-inactive  | メディア非活動切断タイマーを設定します。                                  |

| コマンド                     | 説明                                                     |
|--------------------------|--------------------------------------------------------|
| <b>timerreceive-rtcp</b> | RTCP タイマーを設定し、SIP または H.323 コールの RTCP タイマー間隔の倍率を設定します。 |

## media disable-detailed-stats

現在の通話に関する詳細な統計情報の収集を無効にします。

**media disable-detailed-stats**

いいえ **media disable-detailed-stats**

### 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有せん。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

| リリース                           | 変更                    |
|--------------------------------|-----------------------|
| 12.4(9)T                       | このコマンドが導入されました。       |
| Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a | Yang モデルのサポートを導入しました。 |

# media profile asp

音響衝撃保護パラメータを設定するメディアプロファイルを作成するには、グローバル設定モードで **media profile asp** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**media profileasp** タグ  
**いいえメディア プロファイルasp** タグ

|       |    |                                     |
|-------|----|-------------------------------------|
| 構文の説明 | タグ | メディア プロファイル タグ。 値の範囲は 1 ～ 10000 です。 |
|-------|----|-------------------------------------|

コマンド デフォルト 音響ショック保護のメディア プロファイルが設定されていません。

コマンド モード グローバル設定 (config)

|        |                                |                                                                         |
|--------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース                           | 変更                                                                      |
|        | 15.2(2)T                       | このコマンドが導入されました。                                                         |
|        | 15.2(3)T                       | このコマンドは変更されました。 Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) のサポートが追加されました。 |
|        | Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a | YANG モデルのサポートを導入しました。                                                   |

使用上のガイドライン [ **メディア プロファイル asp** コマンドを使用して、音響衝撃保護パラメータのメディア プロファイルを設定します。メディアプロファイルを作成した後で、音響衝撃保護パラメータを設定することができます。

例 以下の例は、音響衝撃保護パラメータを設定するためのメディアプロファイルを作成する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# media profile asp 200
Device(config)# end
```

|        |                         |                                  |
|--------|-------------------------|----------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                    | 説明                               |
|        | <b>media profile nr</b> | メディアプロファイルを作成してノイズ除去パラメータを設定します。 |

# メディア プロファイル番号

メディア プロファイルを作成してノイズ除去パラメータを設定するには、グローバル設定モードで **media profile nr** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

メディア プロファイル **nr** タグ

いいえ メディア プロファイル **nr** タグ

## 構文の説明

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| タグ | メディア プロファイル タグ。値の範囲は 1 ～ 10000 です。 |
|----|------------------------------------|

## コマンド デフォルト

ノイズ除去のメディア プロファイルが構成されていません。

## コマンド モード

グローバル設定 (config)

## コマンド履歴

| リリース                           | 変更                                                                     |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 15.2(2)T                       | このコマンドが導入されました。                                                        |
| 15.2(3)T                       | このコマンドは変更されました。Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) のサポートが追加されました。 |
| Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a | YANG モデルのサポートを導入しました。                                                  |

## 使用上のガイドライン

**mediaprofilenr** コマンドを使用して、ノイズリダクションパラメータのメディア プロファイルを設定します。メディア プロファイルの作成後にノイズリダクションのパラメータを設定することができます。

## 例

次の例では、ノイズリダクションパラメータを設定するためのメディア プロファイルの作成方法を示します:

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# media profile nr 200
Device(config)# end
```

## 関連コマンド

| コマンド                   | 説明                                    |
|------------------------|---------------------------------------|
| メディア プロファイル <b>asp</b> | 音響衝撃保護パラメータを設定するためのメディア プロファイルを作成します。 |

# メディア プロファイル ビデオ

メディア プロファイル ビデオを作成するには、ダイヤル-ピア音声設定モードで **メディア プロファイル ビデオ** コマンドを使用します。

メディア プロファイルビデオタグ  
いいえメディア プロファイルビデオタグ

|       |                                                    |
|-------|----------------------------------------------------|
| 構文の説明 | タグ<br>Media profile video tag. 値の範囲は 1 ～ 10000 です。 |
|-------|----------------------------------------------------|

|                                |                       |
|--------------------------------|-----------------------|
| コマンドモード                        | Dial-peer構成 (config)。 |
| リリース                           | 変更                    |
| 15.2(2)T                       | このコマンドが導入されました。       |
| Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a | YANG モデルのサポートを導入しました。 |

|        |                          |                                      |
|--------|--------------------------|--------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                     | 説明                                   |
|        | <b>media profile nr</b>  | メディアプロファイルを作成してノイズ除去パラメータを設定します。     |
|        | <b>media profile asp</b> | 音響衝撃保護パラメータを設定するためのメディアプロファイルを作成します。 |

# media profile police

メディアポリシングプロファイルを設定するには、グローバル設定モードで **media profile police** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**media profile police** タグ

**no media profile police** タグ

## 構文の説明

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| タグ | メディア プロファイル タグ。値の範囲は 1 ～ 10000 です。 |
|----|------------------------------------|

## コマンド デフォルト

メディア ポリシング プロファイルが構成されていません。

## コマンド モード

グローバル設定 (config)

## コマンド履歴

|          |                 |
|----------|-----------------|
| リリース     | 変更              |
| 15.2(2)T | このコマンドが導入されました。 |

## 使用上のガイドライン

メディアポリシングプロファイルを設定するには、**media profile police** コマンドを使用します。メディア ポリシング プロファイルを設定した後で、プロファイルダイヤルピアに、またはグローバルに適用する必要があります。

## 例

次に、メディア ポリシング プロファイルを設定する例を示します。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# media profile police 1
```

## 関連コマンド

| コマンド                        | 説明                                  |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| <b>media police-profile</b> | グローバル レベルでメディア ポリシング プロファイルを適用します。  |
| <b>media-class</b>          | ダイヤルピア レベルでメディア ポリシング プロファイルを適用します。 |
| <b>police profile</b>       | メディア帯域幅ポリシング プロファイルをメディア クラスに適用します。 |

# メディアプロファイルレコーダー

メディアレコーダーのプロファイルを設定するには、グローバル設定モードで **mediaprofilerecorder** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

メディアプロファイルレコーダープロファイルタグ  
いいえメディアプロファイルレコーダープロファイルタグ

|       |          |                                     |
|-------|----------|-------------------------------------|
| 構文の説明 | プロファイルタグ | メディア プロファイル タグ。 値の範囲は 1 ～ 10000 です。 |
|-------|----------|-------------------------------------|

コマンド デフォルト      メディアプロファイルレコーダーが構成されていません。

コマンド モード  
                                グローバル設定 (config)

|        |                                |                       |
|--------|--------------------------------|-----------------------|
| コマンド履歴 | リリース                           | 変更                    |
|        | 15.2(1)T                       | このコマンドが導入されました。       |
|        | Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a | YANG モデルのサポートを導入しました。 |

使用上のガイドライン      レコーダーのプロファイルを設定するには、 **mediaprofilerecorder** コマンドを使用できます。ここでは、Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) 上の記録サーバをポイントするダイヤルピア タグを保存します。

**mediaprofilerecorder** コマンドの設定は、メディア記録をグローバルに定義する方法です。この設定は、レコーダーがメディア記録を定義するためのプロファイルを提供します。

例      次の例では、メディア プロファイル レコーダーを設定する方法を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# media profile recorder 100
```

|        |                             |                             |
|--------|-----------------------------|-----------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                        | 説明                          |
|        | <b>media-recording</b>      | 音声クラスの記録パラメータを設定します。        |
|        | <b>showvoiprecmssession</b> | アクティブな MSP 記録セッション情報を表示します。 |

# media profile stream-service

CUBEグローバル設定モードでコマンドを使用し、のストリームサービスを有効にするには、メディアプロファイルストリームサービスタグを使用します。ストリームサービスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**media profile stream-service** タグ

**no media profile stream-service** タグ

## 構文の説明

|    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| タグ | メディアプロファイルのストリームサービスタグ。範囲は1～10000です。 |
|----|--------------------------------------|

## コマンドデフォルト

ストリームサービスは既定では有効になっていません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード (config)

## コマンド履歴

| リリース                           | 変更                                           |
|--------------------------------|----------------------------------------------|
| Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1a | このコマンドはCisco Unified Border Elementに導入されました。 |
| Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a | YANG モデルのサポートを導入しました。                        |

## 使用上のガイドライン

**media profile stream-service** タグを設定すると、メディアプロファイル設定モードが有効になります。

```
router(config)#media profile stream-service <tag>
router(cfg-mediaprofile)#?
MEDIAPROFILE configuration commands:
connection stream service connection
description Mediaprofile specific description
exit Exit from media profile configuration mode
help Description of the interactive help system
no Negate a command or set its defaults
proxy Websocket Proxy Server
source-ip local source-ip for the websocket connection
```

対応する **メディアクラス** 内で必要なストリームサービスプロファイルを構成し、**media profile stream-service tag** コマンドを CUBE に送信してストリームサービス機能を有効にします。さらに、CVP に向かうダイヤルピアに **メディアクラス** を関連付ける必要があります。 **メディアクラス** が CVP を指しているダイヤルピアに関連付けられていない場合、CUBE はフォークリクエストを拒否し、サポートされていないフローであることを CVP に INFO メッセージを送って通知します。

CUBE WebSocket 接続を確立するために、source-インターフェースで構成されたローカル IP アドレスを使用します。プロキシが IP アドレスの代わりにホスト名で設定されている場合、CUBE は WebSocket リクエストを送信する前に DNS 解決を行います。ただし、プロキシが構成されていて、CVP からの JSON に音声認識サーバのホスト名が含まれている場合、DNS 解決は実行されません。

例

以下は、CUBE でストリームサービス機能を有効にするための設定例です:

```
media profile stream-service 99
connection idle-timeout 1(This can be 1-60 mins)

media class 9
stream-service profile 99

dial-peer voice 42 voip
destination-pattern 5678
session protocol sipv2
session target ipv4:8.41.17.71:8001
session transport udp
voice-class codec 40
voice-class sip bind control source-interface GigabitEthernet1
voice-class sip bind media source-interface GigabitEthernet1
media-class 9
```

関連コマンド

| コマンド                    | 説明                                      |
|-------------------------|-----------------------------------------|
| 接続 (メディアプロファイル)         | メディア プロファイルのアイドル タイムアウトと呼び出ししきい値を設定します。 |
| プロキシ(メディアプロファイル)        | メディア プロファイルのプロキシの IP アドレスまたはホスト名を設定します。 |
| source-ip (メディア プロファイル) | WebSocket 接続のローカル ソース IP アドレスを設定します。    |
| メディアクラス                 | ダイヤルピアレベルでメディアクラスを適用します。                |
| ストリームサービス プロファイル        | ストリーム サービス プロファイルをメディア クラスに関連付けます。      |

## media-recording

音声クラス録音パラメータを設定するには、メディアプロファイルまたはメディアクラスレコーダーパラメータ設定モードで **media-recording** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**media-recording***dial-peer-tag*[*dial-peer-tag2*...ダイヤル ピア タグ 5]

いいえ**media-recording***dial-peer-tag*[*dial-peer-tag2*...ダイヤル ピア タグ 5]

|       |                                                                                                                                                         |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | <div><i>dial-peer-tag</i></div> 分岐したレッグで照合されるダイヤルピアタグ。値の範囲は 1 ～ 1073741823 です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>最大で 5 つのダイヤルピアを指定できます。</li> </ul> |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

コマンド デフォルト      音声クラスの記録パラメータが設定されていません。

コマンド モード      メディアプロファイルの設定 (cfg-mediaprofile) メディアクラスレコーダーのパラメータ設定 (cfg-mediaclass-recorder)

|        |                                |                       |
|--------|--------------------------------|-----------------------|
| コマンド履歴 | リリース                           | 変更                    |
|        | 15.2(1)T                       | このコマンドが導入されました。       |
|        | Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r | YANG モデルのサポートを導入しました。 |

使用上のガイドライン      **media-recording** コマンドを使用して、録音のダイヤルピアタグを定義します。このコマンドは、録音サーバを指すダイヤルピアを構成します。

例      次の例では、voice クラスの録音パラメータを設定する方法を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# media profile recorder 100
Router(cfg-mediaprofile)# media-recording 1000 1001 1002 1003 1004
```

|        |                             |                             |
|--------|-----------------------------|-----------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                        | 説明                          |
|        | <b>mediaprofilerecorder</b> | メディアレコーダーのプロファイルを設定します。     |
|        | <b>showvoiprecmssession</b> | アクティブな MSP 記録セッション情報を表示します。 |

# メディア記録プロキシ

フォーク用のダイヤルピアを設定します。



(注) 最大で 5 つのダイヤルピアタグを指定できます。

メディア記録プロキシ [ダイヤルピア-タグ 1 ダイヤルピア-タグ 2 ダイヤルピア-タグ 3 ダイヤルピア-タグ 4 ダイヤルピア-タグ 5]

**media-recordingproxysecure** [dial-peer-tag1 dial-peer-tag2 dial-peer-tag3 dial-peer-tag4 dial-peer-tag5]

|       |                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                         |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | <b>media-recordingproxy</b><br>[dial-peer-tag1 dial-peer-tag2<br>dial-peer-tag3 dial-peer-tag4<br>dial-peer-tag5]       | プロキシはシーケンスの最初のダイヤルピアをバックツーバック (B2B) コールを確立するために設定し、残りのダイヤルピアをメディア分岐のために設定します。                                                                                                                           |
|       | <b>media-recordingproxysecure</b><br>[dial-peer-tag1 dial-peer-tag2<br>dial-peer-tag3 dial-peer-tag4<br>dial-peer-tag5] | 安全または非安全な分岐のいずれかのためにダイヤルピア群を設定できます。最大 5 つのセキュアまたはノンセキュアのダイヤルピアを設定できます。最初に使用可能なセキュアターゲットが、バックツーバック通話の確立に使用されます。設定された安全なダイヤルピアがない場合、以前の動作はそのままです。すべてのセキュアなダイヤルピアに同じ音声クラス <b>srtp-crypto</b> プロファイルを設定します。 |

|        |                                |                        |
|--------|--------------------------------|------------------------|
| コマンド履歴 | リリース                           | 変更                     |
|        | Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1a | このコマンドが導入されました。        |
|        | Cisco IOS XE Bengaluru 17.5.1a | セキュアなフォークのサポートを導入しました。 |

例

```
Device(cfg-mediaprofile)# media-recording proxy 8000 8001 8002

Device(cfg-mediaprofile)# media-recording proxy secure 8003 8004
```

# メディア サービス

グローバルレベルでノイズリダクション (NR) または音響的衝撃から保護 (ASP) のメディアクラスを適用するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **media service** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

メディア サービス  
いいえ メディア サービス

## 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

## コマンド デフォルト

メディア サービスが構成されていません。

## コマンド モード

グローバル設定 (config)

## コマンド履歴

| リリース     | 変更                                                                     |
|----------|------------------------------------------------------------------------|
| 15.2(2)T | このコマンドが導入されました。                                                        |
| 15.2(3)T | このコマンドは変更されました。Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) のサポートが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

グローバルレベルで NR または ASP のメディアクラスを適用するには、**media service** コマンドを使用します。メディアサービスを設定するには、メディアプロファイルを作成し、そのプロファイルをメディアクラスに適用します。

## 例

次に、グローバルレベルで NR または ASP のメディア クラスを適用する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# media service
Device(config)# end
```

## 関連コマンド

| コマンド     | 説明                            |
|----------|-------------------------------|
| メディア クラス | ノイズ除去パラメータを設定するメディアクラスを作成します。 |

# meetme-conference

SCCP ミートミー電話会議を開始するための機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義するには、STC アプリケーションの機能アクセスコード設定で **meetme-conference** コマンドを使用します。機能コードをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**meetme-conference** キーパッド文字  
**いいえ meetme-conference**

## 構文の説明

|         |                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| キーパッド文字 | <p>電話のキーパッドでダイヤルできる文字列 (0-9、*、#)。デフォルト: 5。</p> <p>文字列には次のいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 文字 (0-9、*、#)</li> <li>• 2 桁の数字 (00-99)</li> <li>• 2-4 文字 (0-9, *, #) の先頭または末尾の文字はアスタリスク (*) またはシャープ (#) でなければなりません</li> </ul> |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## コマンド デフォルト

フィーチャー コードのデフォルト値は 5 です。

## コマンド モード

STC アプリケーション機能アクセスコード設定 (config-stcapp-fac)

## コマンド履歴

| リリース       | 変更                                            |
|------------|-----------------------------------------------|
| 12.4(20)YA | このコマンドが導入されました。                               |
| 12.4(22)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、SCCP ミートミー電話会議の機能コードの値をデフォルトの (5) から指定された値に変更します。

キーパッド文字引数が少なくとも 2 文字で、文字列の先頭または末尾がアスタリスク (\*) またはシャープ (#) の場合、電話ユーザはこの機能にアクセスするためにプレフィックスをダイヤルする必要はありません。通常、電話ユーザは \*\*2 のように、プレフィックスと機能コードで構成される特殊機能アクセス コード (FAC) をダイヤルします。機能コードが 55# の場合、電話ユーザは FAC プレフィックスなしで 55# のみをダイヤルして、対応する機能にアクセスします。

別の FAC、スピードダイヤルコード、またはリダイヤル FSD に設定済みの値を使ってこのコマンドを設定しようとすると、メッセージが表示されます。重複するコードを設定する場合、システムは、**showstcappfeaturecodes** コマンドの出力に示される優先順位の順序で最初に一致する機能を実装します。

排除する値、または別の FAC、スピードダイヤルコード、リダイヤル FSD によって排除される値でこのコマンドを設定しようとすると、メッセージが表示されます。機能コードを排除する、または他のコードによって排除される値に設定した場合、システムは常に最も短いコードのコール機能を実行し、長いコードは無視します。例えば、#1 は常に #12 と #123 を優先します。電話ユーザがその機能にアクセスできるように、排除されたコードに新しい値を設定する必要があります。

すべての FAC のリストを表示するには、 **showstcappfeaturecodes** コマンドを使用します。

例

次の例は、SCCP ミートミー電話会議の機能コードの値をデフォルト (5) から変更する方法を示します。また、この設定により、すべての FAC のプレフィックスがデフォルト (\*\*) から ## に変更されます。この設定では、電話ユーザは、すべての着信の転送をキャンセルするために、電話のキーパッドで ##9 を押す必要があります。

```
Router(config)# stcapp feature access-code
Router(config-stcapp-fac)# prefix ##
Router(config-stcapp-fac)# meetme-conference 9
Router(config-stcapp-fac)# exit
```

関連コマンド

| コマンド                            | 説明                                                                                            |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>prefix(stcapp-fac)</b>       | 機能アクセス コード (FAC) のプレフィックスを定義します。                                                              |
| <b>showstcappfeaturecodes</b>   | すべての機能アクセスコード (FAC) を表示します。                                                                   |
| <b>stcappfeatureaccess-code</b> | 機能アクセスコード (FAC) を有効にし、STC アプリケーション機能アクセスコード コンフィギュレーションモードを開始して、デフォルトからプレフィックスと機能コードの値を変更します。 |

## メンバー (ダイヤル ピア 関連リスト)

ダイヤルピア制限 COR リストにメンバーを追加するには、ダイヤルピア COR リスト設定モードで **メンバー** コマンドを使用します。リストからメンバーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

メンバークラス名  
 いいえメンバークラス名

### 構文の説明

|      |                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| クラス名 | クラス名は、 <b>name</b> コマンドの使用によりダイヤルピア COR カスタム設定モードで以前に定義されたものです。 |
|------|-----------------------------------------------------------------|

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

ダイヤル ピア COR リストの設定

### コマンド履歴

|          |                 |
|----------|-----------------|
| リリース     | 変更              |
| 12.1(3)T | このコマンドが導入されました。 |

### 例

次の例では、list3 という名前の COR リストに 3 つの要素を追加します。

```
dial-peer cor list list3
member 900_call
member 800_call
member catchall
```

### 関連コマンド

| コマンド                    | 説明              |
|-------------------------|-----------------|
| <b>dial-peercorlist</b> | COR リスト名を定義します。 |

## メモリ制限 (トレース)

VoIP トレース情報を保存するためのメモリ制限を定義するには、トレース設定モードで **メモリ制限** コマンドを使用します。デフォルトのメモリ制限にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**メモリ制限** {プラットフォーム | メモリ}

**no memory-limit** {プラットフォーム | メモリ}

|       |                 |                                                            |
|-------|-----------------|------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | <b>メモリ制限</b>    | VoIP トレース情報を保存するためのメモリ制限を定義します。                            |
|       | <b>メモリ</b>      | VoIP トレースのカスタムメモリ制限を定義します。範囲は 10–1000 MB です。               |
|       | <b>プラットフォーム</b> | VoIP トレースのメモリ制限として、コマンドの設定時に、利用可能なプラットフォームメモリの 10% を設定します。 |

**コマンド デフォルト** 利用可能なプラットフォームメモリの 10% に相当する制限がデフォルトで有効になっています。(プラットフォームメモリ制限)

**コマンド モード** トレース設定モード (conf-serv-trace)

|        |                                                                 |                                                |
|--------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| コマンド履歴 | <b>リリース</b>                                                     | <b>変更</b>                                      |
|        | Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2<br>Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1a | このコマンドは Cisco Unified Border Element に導入されました。 |

**使用上のガイドライン** **memory-limit** を設定し、VoIP トレース情報ストレージ用のカスタムメモリ制限を 10 MB から 1000 MB の範囲内で指定します。**プラットフォーム** が設定されている場合、設定時に IOS プロセッサが利用できる合計メモリの 10% が VoIP トレース情報のストレージに割り当てられます。

```
router(conf-voi-serv)#trace
router(conf-serv-trace)#?
memory-limit Set limit on the usage of resources
router(conf-serv-trace)#memory-limit 10
```

カスタムメモリ制限の構成は、利用可能なプラットフォームメモリを超えることはできません。構成が失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
router(config)#voice service voip
router(conf-voi-serv)#trace
router(conf-serv-trace)#memory-limit 800
Error: Setting memory-limit more than available platform memory (732 MB) is not allowed.
```

構成のメモリ制限が、利用可能なプラットフォームメモリの 10% を超えると、システムパフォーマンスに影響を与えます。構成に成功しました。次の警告メッセージが表示されます:

```
router(config)#voice service voip
router(conf-voi-serv)#trace
router(conf-serv-trace)#memory-limit 100
Warning: Setting memory limit more than 10% of available platform memory (73 MB) will
affect system performance.
```

既存のメモリ制限値を減らすと、**VoIP トレースデータ**がリセットされます。メモリ制限を減らす前に、**show voip trace statistics detail** および **show voip trace all** の出力データをコピーします。

既存の制限からメモリ制限を減らすとき、確認メッセージが表示されます。

```
Reducing the memory-limit clears all VoIP Trace statistics and data.
If you wish to copy this data first, enter 'no' to cancel,
otherwise enter 'yes' to proceed.
```

メモリ制限を増やしても、**VoIP トレースデータ**には影響しません。



(注) アクティブな通話によってメモリ制限が消費されると、着信通話はトレースされなくなります。

例

以下はトレース設定サブモードで設定された CLI コマンド **memory-limit** の例です:

```
router(conf-voi-serv)#trace
router(conf-serv-trace)#?
Voip Trace submode commands:
default      Set a command to its defaults
exit         Exit from voice service voip trace mode
no           Negate a command or set its defaults
shutdown     Shut Voip Trace debugging
memory-limit Set limit based on memory used
router(conf-serv-trace)#memory-limit ?
<10-1000>    Specify maximum memory limit in MB
platform     Use 10 percent of available memory
CSR(conf-serv-trace)#memory-limit 10
```

|        |                  |                                             |
|--------|------------------|---------------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド             | 説明                                          |
|        | トレース             | CUBE で VoIP トレース サービスアビリティ フレームワークを有効にします。  |
|        | shutdown (trace) | CUBE の VoIP トレース サービスアビリティ フレームワークを無効にします。  |
|        | show voip trace  | CUBE で受信されるコールの SIP レッグの VoIP トレース情報を表示します。 |

## メッセージ交換最大失敗数

プロバイダがアプリケーションへのメッセージ送信を停止する前に、アプリケーションとプロバイダの間で交換される失敗メッセージの最大数を設定するには、**message-exchange max-failures** コマンドを使用します。最大数をデフォルトの数にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

メッセージ交換 最大失敗数 *number*

いいえ メッセージ交換 最大失敗数 *number*

### 構文の説明

|   |                                                                                |
|---|--------------------------------------------------------------------------------|
| 数 | サービス プロバイダがアプリケーションへのメッセージ送信を停止する前に許可されるメッセージの最大数。 値の範囲は 1 ～ 3 です。デフォルトは 1 です。 |
|---|--------------------------------------------------------------------------------|

### コマンド デフォルト

デフォルトは 1 です。

### コマンド モード

uc wsapi mode configuration mode

### コマンド履歴

| リリース     | 変更              |
|----------|-----------------|
| 15.2(2)T | このコマンドが導入されました。 |

### 使用上のガイドライン

システムがアプリケーションに到達不能であると判断し、サービスプロバイダがアプリケーションへのメッセージ送信を停止する前に、失敗メッセージの最大数を設定するには、このコマンドを使用します。

### 例

次の例では、失敗メッセージの最大数を 2 に設定します。

```
Router(config)# uc wsapi
Router(config-uc-wsapi)# message-exchange max-failures 2
```

### 関連コマンド

| コマンド                       | 説明                                           |
|----------------------------|----------------------------------------------|
| プローブ間隔                     | プローブメッセージの時間間隔を設定します。                        |
| <b>probing max-failure</b> | システムがアプリケーションを登録解除する前に応答なしで送信するメッセージ数を設定します。 |

# メソッド

特定の会計方法リストを設定するには、ゲートウェイの会計AAAコンフィギュレーションモードで **method** コマンドを使用します。

メソッド *acctMethListName*

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 構文の説明 | <i>acctMethListName</i> 会計方法リストの名前です。 |
|-------|---------------------------------------|

コマンド デフォルト H.323 はデフォルトのアカウンティングメソッドリストです。

コマンド モード ゲートウェイの AAA アカウンティング構成

|        |           |                                                                                                             |
|--------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース      | 変更                                                                                                          |
|        | 12.2(11)T | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850。 |

- 使用上のガイドライン
- 方法リストの設定など、ネットワークの AAA ネットワークセキュリティの設定については、『認証、承認、および会計 *Cisco IOS* セキュリティ設定ガイド, リリース 12.2』を参照してください。
  - **メソッド** コマンドは、グローバルに会計方法を設定します(ダイヤルピアごとではありません)。アカウンティングの AAA 方式リスト名を最初に定義するには、**AAAaccounting** コマンドを使用します。
  - 使用されるメソッドリスト名は、**AAAaccounting** コマンドのメソッドリスト名の定義に使用したのと同じ名前です。

例

次の例では、以前に AAA コマンドを使用して定義された「klz\_aaa6」という名前の方  
式リストを使用しています。

```
aaa new-model
!
aaa group server radius sg6
server 1.6.30.70 auth-port 1708 acct-port 1709
!
aaa authentication login klz_aaa6 group sg6! klz_aaa6 is defined as the method list name.
aaa authorization exec klz_aaa6 group sg6
aaa accounting connection klz_aaa6 start-stop group sg6
!
gw-accounting aaa
method klz_aaa6! The same method list named klz_aaa6 is used.
```

## 関連コマンド

| コマンド                    | 説明                                 |
|-------------------------|------------------------------------|
| <b>aaaaccounting</b>    | 課金またはセキュリティ目的で要求されたサービスの会計を有効にします。 |
| <b>gw-accountingaaa</b> | VoIP ゲートウェイの会計を有効にします。             |

# mgcp

Media Gateway Control Protocol (MGCP) にリソースを割り当て、MGCP デーモンを開始するには、グローバル設定モードで **mgcp** コマンドを使用します。すべての通話を終了し、割り当てられたすべてのリソースを解放して、MGCP デーモンを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp**[ポート]  
**いいえ mgcp**

| 構文の説明      | ポート<br>(オプション) MGCP ゲートウェイのユーザ データグラム プロトコル (UDP) ポート。<br>範囲は 1025 から 65535 です。デフォルトは UDP ポート 2427 です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|----------|--------------------------------|----------|------------------------------------------------------------------------|-----------|--------------------------------|----------|----------------------------------------------|-----------|--------------------------------|
| コマンド デフォルト | UDP ポート 2427                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |
| コマンド モード   | グローバル設定                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |
| コマンド履歴     | <table> <tr> <th>リリース</th><th>変更</th></tr> <tr> <td>12.1(1)T</td><td>このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。</td></tr> <tr> <td>12.1(3)T</td><td>このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 3660、Cisco uBR924、および Cisco 2600 シリーズ</td></tr> <tr> <td>12.1(5)XM</td><td>このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。</td></tr> <tr> <td>12.2(2)T</td><td>このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。</td></tr> <tr> <td>12.2(11)T</td><td>このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。</td></tr> </table> | リリース | 変更 | 12.1(1)T | このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。 | 12.1(3)T | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 3660、Cisco uBR924、および Cisco 2600 シリーズ | 12.1(5)XM | このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。 | 12.2(2)T | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。 | 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。 |
| リリース       | 変更                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |
| 12.1(1)T   | このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |
| 12.1(3)T   | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 3660、Cisco uBR924、および Cisco 2600 シリーズ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |
| 12.1(5)XM  | このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |
| 12.2(2)T   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |
| 12.2(11)T  | このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |    |          |                                |          |                                                                        |           |                                |          |                                              |           |                                |

**使用上のガイドライン** **mgcp** コマンドを使用して MGCP デーモンを開始すると、**mgcp block-newcalls** コマンドを使用して (メンテナンスなどの目的で) 中断することができます。通常の MGCP 運用を再開する準備ができたなら、**nomgcpblock-newcalls** コマンドを使用します。**nomgcp** コマンドは、すべての MGCP アプリケーションおよびプロトコルを終了する場合にだけ使用してください。

MGCP デーモンがアクティブではない場合、すべての MGCP メッセージは無視されます。

MGCP の実行中に UDP ポートを変更する場合は、**nomgcp** コマンドを使用して MGCP デーモンを停止し、それから新しいポート番号で **mgcp port** コマンドを使用して再起動する必要があります。

**例** 次の例では、MGCP デーモンを開始します。

```
Router(config)# mgcp
```

次の例では、ポート 4204 で MGCP デーモンを有効にします。

```
Router(config)# mgcp 4204
```

#### 関連コマンド

| コマンド               | 説明                            |
|--------------------|-------------------------------|
| アプリケーション           | MGCP でデバッグを有効にします。            |
| デバッグmgcp           | MGCP でデバッグを有効にします。            |
| mgcpblock-newcalls | は、すべての MGCP アクティビティを正常に終了します。 |
| mgcpip-tos         | MGCP 接続の IP ToS を有効または無効にします。 |
| mgcprequestretries | mgcp コマンドの送信を再試行する回数を指定します。   |
| showmgcp           | MGCP パラメータ設定を表示します。           |

# mgcp behavior

Media Gateway Control Protocol (MGCP) の動作を変更するようにゲートウェイを設定するには、グローバル設定モードで **mgcpbehavior** コマンドを使用します。構成で指定されている標準プロトコルバージョンの動作の使用を再開するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpbehaviorcategory**バージョン

いいえ **mgcpbehaviorcategory**バージョン

## 構文の説明

|       |                                                  |
|-------|--------------------------------------------------|
| カテゴリ  | MGCP 動作カテゴリ。有効な値については、下の 1 番目の表を参照してください。        |
| バージョン | 動作カテゴリの MGCP バージョン。有効な値については、下の 2 番目の表を参照してください。 |

## コマンド デフォルト

ゲートウェイは、設定された MGCP プロトコル バージョンで指定されているルールとガイドラインに従います。

## コマンド モード

グローバル設定 (config)

## コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.3(2)T1 | このコマンドが導入されました。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 12.3(4)T  | このコマンドは変更されました。 <b>signalsv0.1</b> キーワードが追加されました。                                                                                                                                                                                                                               |
| 12.3(8)T  | このコマンドは変更されました。 <b>dlcx-clear-signals</b> キーワードが追加されました。                                                                                                                                                                                                                        |
| 12.3(11)T | このコマンドは変更されました。 <b>ack-init-rsip</b> 無効にする および <b>init-rsip-per-insvc</b> レガシーキーワードが追加されました。                                                                                                                                                                                    |
| 12.3(14)T | このコマンドは変更されました。 <b>q-mode-enduring</b> レガシー キーワードが追加されました。                                                                                                                                                                                                                      |
| 12.3(16)  | このコマンドは変更されました。 <b>mdcx-sdpack-with-sdp</b> キーワードが追加されました。                                                                                                                                                                                                                      |
| 12.4(4)T  | このコマンドは変更されました。 <b>rsip-range</b> キーワードが追加されました。                                                                                                                                                                                                                                |
| 12.4(24)T | このコマンドは変更されました。SDP のモードパラメータのデフォルトの動作は、MGCP メッセージの M: 行にあるモードより高い優先順位が与えられた。<br><b>Digit-collect-stuck</b> プレイ-リオーダー、 <b>fxs-gs</b> エミュレート-ls-ディスコネクト、 <b>mode-attrib-in-sdpdisable</b> 、 <b>private-localhost</b> 、および <b>transient-state-responseenable</b> というキーワードが追加されました。 |

|          |                                                                          |
|----------|--------------------------------------------------------------------------|
| リリース     | 変更                                                                       |
| 15.1(1)T | このコマンドは変更されました。 <b>dynamically-change-codec-ptdisable</b> キーワードが追加されました。 |
| 15.1(3)T | このコマンドは変更されました。 <b>negotiate-nseenable</b> というキーワードが追加されました。             |

## 使用上のガイドライン

次の表では、MGCP 動作カテゴリのキーワードについて説明します。

表 1: MGCP 動作カテゴリ キーワード

| キーワード                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ack-init-rsipdisable</b>  | <p>最初の ReStart In Progress (RSIP) メッセージが確認応答される前に、ゲートウェイに Call エージェントからのコマンドを強制的に受け入れます。つまり、405 エラーコードは発生しません。また、ゲートウェイは、MGCP バージョン 1.0 以前のバージョン用に設定されている場合、このように動作します。</p> <p>デフォルトで、またはこのコマンドの <b>no</b> 形式が発行され、ゲートウェイが MGCP バージョン RFC 3435-1.0 以降に設定されている場合、コールエージェントからのコマンドに対して、最初の RSIP がコールエージェントによって認識されるまで、405 エラーコードで応答します。</p> |
| <b>桁収集-固定リオーダートーンを再生する</b>   | <p>60 秒が経過し、MGCP が番号を収集している場合、ゲートウェイにリオーダートーンを強制的に再生させます。</p> <p>デフォルトでは、またはこのコマンドの <b>no</b> フォームが発行されたときに、特定の時間内に MGCP アプリケーションが接続されない、または切断された場合、エンドポイントがネットワーク内にあるときに、オフフック状態の場合、エンドポイントは数字収集状態でビジーになる可能性があります。</p>                                                                                                                   |
| <b>dlcx-clear-signalsall</b> | <p>コール エージェントから接続削除 (DLCX) メッセージを受信した場合、メッセージに S: の行がなくても、ゲートウェイはすべての信号を強制的にオフまたは消去します。</p> <p>デフォルトでは、および RFC 3435 で指定されているように、DLCX に S: 行がない場合、ゲートウェイは現在のエンドポイント信号を維持します。コール エージェントが明示的に各信号をオフにするか、空の S: 行を送信してすべての信号を消去する場合にだけ、MGCP ゲートウェイは信号を消去します。</p>                                                                               |

| キーワード                                     | 説明                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>dynamically-change-codec-ptdisable</b> | <p>着信 Session Description Protocol (SDP) でコーデックペイロードタイプが動的に変更される場合でも、ゲートウェイがコーデックペイロードタイプを変更しないように強制します。</p> <p>デフォルトで、またはこのコマンドの形式が発行されていない場合、MGCPは、着信SDPのコーデックが異なる場合にペイロードを動的に変更します。</p> |
| <b>fxs-gsemulate-ls-disconnect</b>        | <p>グラウンドスタートが有効なエンドポイントの DLCX を受信した場合でも、ゲートウェイに通話を切断しないように強制します。コールが切断されないとき、ゲートウェイはビジートーンを再生します。</p> <p>デフォルトで、またはこの コマンドの形式が発行されない場合、MGCP は DLCX を受信するとコールを切断します。</p>                    |

| キーワード                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>init-rsip-per-insvc</b> レガシー | <p>エンドポイントのサービス状態に関係なく、ゲートウェイが最初の RSIP メッセージで常に [再起動] の再起動方法を使用するよう強制します。ワイルドカードの降格は、構成に基づいて、必要に応じて発生します。</p> <p>デフォルトで、またはこのコマンドの <b>no</b> 形式が発行されたときに、MGCP ゲートウェイがバージョン RFC 3435-1.0 を実行している場合、初期 RSIP のデフォルトの再起動方法はエンドポイントのサービス状態によります。稼働中のエンドポイントの場合、再起動の方法は [再起動] です。アウトオブサービスのエンドポイントの場合、再起動方法は [強制] です。</p> <p>さらに、プロトコルバージョンに関係なく、ゲートウェイは常にワイルドカード RSIP * メッセージを試みます、コールエージェントに送信されるメッセージの数を最小限に抑えます。ゲートウェイは、以下の要件が満たされている限り、完全にワイルドカードが使用された RSIP * メッセージを送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• MGCP は、単一のプロファイルまたはデフォルト プロファイルに対してのみ設定されます。</li> <li>• 各 DS1 に対して単一の DS0 グループが設定されます。</li> <li>• 単一の DS0 グループには、可能なすべての DS0 が含まれます。</li> <li>• すべてのエンドポイントが同じサービス状態である (MGCP コールエージェントがバージョン RFC 3435-1.0 に設定されており、<b>no</b> 形式のこのコマンドが発行された場合)。</li> </ul> <p>これらの要件のいずれかが満たされない場合、最初の RSIP * メッセージが降格され、複数の RSIP メッセージとしてコールエージェントに送信されます。デモートするとき、ゲートウェイは RSIP メッセージの数を最小化しようとし続けます。</p> |
| <b>mdcx-sdpack-with-sdp</b>     | <p>SDP を含む Modify Connection (MDCX) メッセージに応答して、ゲートウェイに SDP を強制的に生成させます。MDCX が Positive Acknowledgment (200) で応答される場合にのみ、応答に SDP が含まれます。</p> <p>デフォルトでは、またはこのコマンドの <b>no</b> フォームが発行されると、以前に生成された SDP からいずれかのパラメータが変更された場合にのみ、確認応答によって SDP が生成されます。このコマンドにより、すべてのパラメータが以前の SDP と同じ場合でも、SDP は生成されます。これにより、すべての CRCX または MDCX メッセージに対する SDP 応答を予測する SIP ゲートウェイでの操作が可能になります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

| キーワード                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>mode-attrb-in-sdpdisable</b> | <p>接続の作成 (CRCX) でゲートウェイに接続モード M を強制的に使用させます。</p> <p>デフォルトで、またはこのコマンドの <b>形式が発行されない場合</b>、SDP の接続モードが優先されます。これは、モードが SDP に存在する場合のみです。</p>                                                                                                                                        |
| <b>negotiate-nseenable</b>      | <p>NSE 機能のリモート SDP を検査することにより、MGCP ゲートウェイにリモート側の NamedSignaling Event (NSE) 機能を認識させます。</p> <p>デフォルトで、またはこの <b>コマンドのno形式が発行された場合</b>、NSE はゲートウェイで無効になっています。</p> <p>Cisco Unified Call Manager (UCM) はモデムまたはファックスのパススルーをサポートしていません。Cisco UCM がコールエージェントの場合は、この機能を有効にしないでください。</p> |
| <b>プライベートローカルホスト</b>            | <p>Notify (NTFY)、RSIP、DLCX などのゲートウェイからの発信メッセージで、<b>private-localhost</b> がエンドポイント ID に追加されている必要があります。</p> <p>既定では、またはこのコマンドの <b>no形式が発行された場合</b>、ゲートウェイからの送信メッセージにはエンドポイント ID にグローバルルーター名が追加されます。</p> <p>これは MGCP 0.1 および MGCP 1.0 バージョンに適用されます。</p>                            |

| キーワード                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>q-mode-enduringlegacy</b> | <p>要求通知 (RQNT) に Q: 行が含まれていない場合に、ゲートウェイが現在の隔離モードを維持することを許可します。操作が以下の従来の動作に戻ります。</p> <p>(注)<br/>最初の箇条書きの項目のみ、動作が変更されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Q: 行 -- 隔離モードに変更を加えません (前のコマンドで設定されたモードは維持されます)。</li><li>• Q: 行を空にする -- 隔離モードをデフォルトにリセットします。</li><li>• 有効な Q: 行 -- コマンドごとに隔離モードを設定します。</li><li>• 無効な Q: 行 -- エラーが発生します。</li></ul> <p>(注)<br/>隔離モードは <b>mgcpquarantinemode</b> コマンドで設定し、デフォルトは破棄されます。これは、隔離モードが RQNT またはイベントの埋め込み要求で指定されていない場合に使用される設定モードです。</p> <p>デフォルトで、またはこのコマンドの <b>no</b>形式が発行されている場合、MGCP は MGCP バージョン 0.1 および MGCP バージョン 1.0 の両方の仕様に従って動作します。つまり、MGCP ゲートウェイは隔離モードをリセットします。Q: 行が存在しない場合、隔離モードは実行設定のデフォルトにリセットします。</p> |

| キーワード     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| rsip-範囲   | <p>ゲートウェイが、トランキングゲートウェイコントロールプロトコル (TGCP) 以外のバージョンのエンドポイント範囲で、RSIP メッセージを生成できるかどうかを決定します。既定では、エンドポイント範囲は TGCP の RSIP メッセージでのみ生成されます。以下の カテゴリ および バージョン の値を設定できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>rsip-rangeall</b>: ゲートウェイがすべての MGCP バージョンの RSIP メッセージでエンドポイント範囲を生成することを可能にします。</li> <li>• <b>rsip-rangenone</b>-- ゲートウェイが TGCP を含むすべての MGCP バージョンのエンドポイント範囲を生成を防ぎます。</li> <li>• <b>rsip-ranetgcp-only</b>-- 設定されたプロトコルが TGCP の場合にのみ、ゲートウェイが RSIP メッセージでエンドポイント範囲を生成することを許可します。これがデフォルト値です。</li> </ul> <p>TGCP 仕様では、RSIP メッセージのエンドポイント範囲をサポートする必要があります。ただし、すべてのコールエージェントがこの機能をサポートしているわけではありません。このような場合、<b>なし</b> を選択すると、ゲートウェイがこれらのコールエージェントと相互運用できるようになります。逆に、TGCP 以外の通話エージェントがエンドポイント範囲をサポートしている場合、<b>すべて</b> を選択すると、ゲートウェイはこの機能を利用できます。</p> |
| 一時的状態応答有効 | <p>エンドポイントが一時的な状態であっても、ゲートウェイに MGCP メッセージに対する 400 応答を送信するよう強制します。</p> <p>デフォルト、または <b>no</b> 形式のこのコマンドが発行されていない場合、エンドポイントが一時的であってもまたは切断状態であっても、ゲートウェイは MGCP メッセージに応答しません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

次の表では、MGCP ビヘイビア バージョンのキーワードについて説明します。

表 2: MGCP ビヘイビア バージョン キーワード

| キーワード    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| aupev0.1 | <p>MGCP バージョン 0.1 仕様に従って、ゲートウェイに監査エンドポイント (AUEP) コマンドに対する応答を強制します。この動作は、特に監査対象のエンドポイントが停止中の場合に適用されます。このコマンドが使用されると、サービス停止中のエンドポイントで AUEP コマンドがエラーコード 501 を返します。</p> <p>既定で、またはこのコマンドの <b>no</b> 形式が発行された場合、MGCP バージョン 1.0 の動作が発生します。つまり、サービス状態に関係なく、すべての有効なエンドポイントに対して応答コード 200 が送信され、その後に要求された監査情報が続きます。いずれの場合も、設定されている MGCP バージョンは無視されます。</p> |

| キーワード                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>シグナル<br/>v0.1</b> | <p>ゲートウェイに、MGCP バージョン 0.1 仕様に従って、リングバック、ネットワーク輻輳、並べ替え、ビジー、オフフックの警告トーンなどのコールシグナリングトーンを処理させます。MGCP バージョン 0.1 仕様では、一部のコールシグナリングトーンをオンオフトーンとして扱います。オンオフトーンは、信号を停止する特定の MGCP メッセージが受信された後にのみ終了します。</p> <p>デフォルトで、またはこのコマンドの <b>no</b>形式が発行された場合、RFC 3660 に従います。これにより、呼び出し信号トーンは、適切なタイムアウト時間が経過したときに終了するタイムアウトトーンとして扱われます。いずれの場合も、設定されている MGCP バージョンは無視されます。</p> |

## 例

次の例では、ゲートウェイが AUEP コマンドに MGCP 0.1 応答を送信する方法を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior auep v0.1
```

次に、ゲートウェイがコールシグナリングトーンの MGCP 0.1 処理を提供する例を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior signals v0.1
```

次の例では、Call Agent コマンドが受け入れられる前に、RSIP が確認応答されているという要件を無効にする方法を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior ack-init-rsip disable
```

以下の例は、エンドポイントのサービス状態に基づいて初期 RSIP を降格しないようにゲートウェイを設定する方法を示しています。

```
Router(config)# mgcp behavior init-rsip-per-insvc legacy
```

次の例では、DLCX の受信時にすべての信号をオフにするようにゲートウェイを設定する方法を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior dlcx-clear-signals all
```

次の例では、隔離モードをレガシーに設定する方法を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior q-mode-enduring legacy
```

次の例は、SDP を使用する MDCX への応答でゲートウェイに SDP を強制的に生成させる方法を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior mdcx-sdp ack-with-sdp
```

次の例では、ゲートウェイにすべての MGCP バージョンのエンドポイント範囲を生成させる方法を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior rsip-range all
```

次に、すべての MGCP バージョンの着信 SDP でコーデック ペイロード タイプが動的に変更される場合に、コーデック ペイロード タイプがゲートウェイに変更されないようにする例を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior dynamically-change-codec-pt disable
```

以下の例は、ゲートウェイが DLCX を受信したときに切断しないようにする方法を示しています。

```
Router(config)# mgcp behavior fxs-gs emulate-ls-disconnect
```

次の例は、エンドポイントが一時的状態にある場合でも、ゲートウェイに MGCP メッセージに対する応答を送信させる方法を示しています。

```
Router(config)# mgcp behavior transient-state-response enable
```

次の例は、CRCX でゲートウェイの接続モードを M にする方法を示しています。

```
Router(config)# mgcp behavior mode-attrb-in-sdp disable
```

次の例では、発信メッセージに、設定された private-localhost を、MGCP 0.1 および MGCP 1.0 バージョンのエンドポイント ID に追加させる方法を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior private-localhost cisco.com
```

次の例では、MGCP が番号の収集の試行で停止状態になっている場合に、ゲートウェイにリオーダー トーンを再生させる方法を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior digit-collect-stuck play-reorder
```

次の例は、ゲートウェイが NSE 機能を認識できるようにする方法を示しています。

```
Router(config)# mgcp behavior negotiate-nse enable
```

次のコマンドを使用して、MGCP ビヘイビアとバージョン設定を表示します。

```
Router# show running-config | include behavior
mgcp behavior auep v0.1
mgcp behavior signals v0.1
mgcp behavior ack-init-rsip disable
mgcp behavior init-rsip-per-insvc legacy
mgcp behavior q_mode-enduring legacy
mgcp behavior dlcx-clear-signals all
mgcp behavior mdcx-sdp ack-with-sdp
mgcp behavior rsip-range all
mgcp behaviour dynamically-change-codec-pt disable
mgcp behavior fxs-gs emulate-ls-disconnect
mgcp behavior transient-state-response enable
mgcp behavior mode-attrb-in-sdp-disable
mgcp behavior private-localhost cisco.com
mgcp behavior digit-collect-stuck- play-reorder
mgcp behavior negotiate-nse enable
```

```
Router# show running-config | include call-agent
mgcp call-agent cal23.example.net 4040 service-type mgcp version rfc3435-1.0
```

## 関連コマンド

| コマンド                        | 説明                               |
|-----------------------------|----------------------------------|
| <b>mgcp</b>                 | MGCP のリソースを割り当て、MGCP デーモンを開始します。 |
| <b>mgcp call-agent</b>      | MGCP コールエージェントのアドレスとプロトコルを指定します。 |
| <b>mgcp quarantine mode</b> | MGCP カランティンイベントのモードを設定します。       |
| <b>show mgcp</b>            | MGCP パラメータの値を表示します。              |
| <b>show running-config</b>  | 現在実行中の構成ファイルの内容を表示します。           |

# mgcp behavior comedia-check-media-src

Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイ全体に対して、受信した最初の RTP パケットから IP アドレスとポートを強制的に検出し、MGCP で選択されたコールバック機能を有効にするには、 **mgcp動作comedia-check-media-src** コマンドをグローバル設定モードで使

**mgcpbehaviorcomedia-check-media-src** {有効にする | 無効にする}

|       |       |                        |
|-------|-------|------------------------|
| 構文の説明 | 有効にする | IP アドレスとポートの検出を強制します。  |
|       | 無効にする | IP アドレスとポートの検出を無効にします。 |

コマンド デフォルト Disabled

コマンド モード グローバル設定

|        |           |                 |
|--------|-----------|-----------------|
| コマンド履歴 | リリース      | 変更              |
|        | 12.4(11)T | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン MGCP ゲートウェイ全体で最初に受信された rtp パケットから IP アドレスとポートの検出を強制するには、 **mgcpbehaviorcomedia-check-media-src** コマンドを使用します。 このコマンドは MGCP によって選択されたコールバック機能を有効にし、 **mgcpbehaviorcomedia-role** コマンドの設定と共に、SDP 方向属性に値を入力するかどうかの決定に関与します。

例 次の例は、MGCP ゲートウェイ全体に対して有効になっている IP アドレスとポートの検出を示しています。

```
Router(config)# mgcp behavior comedia-check-media-src enable
```

|        |                               |                                       |
|--------|-------------------------------|---------------------------------------|
| 関連コマンド | フィールド                         | 説明                                    |
|        | mgcp                          | MGCP のリソースを割り当て、デーモンを開始します。           |
|        | mgcpbehaviorcomedia-role      | 設定された MGCP ゲートウェイの場所を指定します。           |
|        | mgcpbehaviorcomedia-sdp-force | コマンドを参照として使用して、SDPに方向属性を配置するように強制します。 |

| フィールド      | 説明                         |
|------------|----------------------------|
| showmgcp接続 | アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。 |

## mgcp behavior comedia-role

設定済みの Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイの場所を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **mgcpbehaviorcomedia-role** コマンドを使用します。

**mgcpbehaviorcomedia-role** {アクティブ | パッシブ | なし}

|       |       |                                                         |
|-------|-------|---------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | アクティブ | NAT の内部にある MGCP ゲートウェイを指定します。                           |
|       | パッシブ  | NAT の外側にある MGCP ゲートウェイを指定します。                           |
|       | なし    | ゲートウェイの動作はCisco IOS Release 12.4(11)T以前のリリースと同様であるべきです。 |

コマンド デフォルト      なし

コマンド モード  
グローバル設定

|        |           |                 |
|--------|-----------|-----------------|
| コマンド履歴 | リリース      | 変更              |
|        | 12.4(11)T | このコマンドが導入されました。 |

**使用上のガイドライン** このコマンドは、設定された MGCP ゲートウェイのロケーションと、NAT メディア トラバーサル の解決におけるその役割を指定します。 **active** の comedia ロールは、NAT 内の MGCP ゲートウェイに設定されています。NAT の外側にあるゲートウェイの場合、**passive** の comedia ロールが設定されています。 **none** キーワードを設定すると、**mgcpbehaviorcomedia-role** コマンドが導入される前のゲートウェイの動作を指定します。

**mgcpbehaviorcomedia-role** および **mgcpbehaviorcomedia-check-media-src** コマンドを使用して、いつ sdp 方向属性を設定するかを決定します。

### 例

次の例は、NAT 内の MGCP ゲートウェイ用に設定された MGCP ゲートウェイの場所を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior comedia-role active
```

|        |                                            |                                                          |
|--------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 関連コマンド | フィールド                                      | 説明                                                       |
|        | <b>mgcpbehaviorcomedia-check-media-src</b> | MGCP ゲートウェイ全体で受信した最初の rtp パケットからの IP アドレスとポートの検出を有効にします。 |

| フィールド                                | 説明                                    |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| <b>mgcpbehaviorcomedia-sdp-force</b> | コマンドを参照として使用して、SDPに方向属性を配置するように強制します。 |
| <b>mgcp</b>                          | MGCPのリソースを割り当て、デーモンを開始します。            |
| <b>show mgcp</b>                     | すべての mgcp 構成を表示します。                   |
| <b>showmgcpconnection</b>            | アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。            |

# mgcp behavior comedia-sdp-force

MGCPを強制するには、セッション記述プロトコル(SDP)に方向属性を配置させるには、**mgcp** ビヘイビア **comedia-sdp-force** コマンドをグローバル設定モードで使用します。

**mgcp** ビヘイビア **comedia-sdp-force** {enable | disable}

|       |                |                                                                                                                                                 |
|-------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | <b>enable</b>  | SDP に方向属性を配置するように、MGCP に強制します。                                                                                                                  |
|       | <b>disable</b> | <b>mgcpbehaviorcomedia-role</b> および <b>mgcp</b> を許可する <b>a28&gt;behaviorcomedia-check-media-src</b> コマンドとリモート記述子は、方向属性が SDP に追加されているかどうかを判断します。 |

コマンド デフォルト 無効になっています。

コマンド モード グローバル設定

|        |           |                 |
|--------|-----------|-----------------|
| コマンド履歴 | リリース      | 変更              |
|        | 12.4(11)T | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは、MGCPが常に **mgcpbehaviorcomedia-sdp-force** コマンドを参照して、SDPに方向属性を配置するように強制します。 **mgcpbehaviorcomedia-sdp-force** コマンドで **disable** キーワード、**mgcpbehavior comedia-role** および **mgcpbehaviorcomedia-check-media-src** コマンドとリモート記述子により、その方向が SDP に追加されるかどうかが決まります。 ロールが設定されていない場合、このコマンドは何の効果もありません。

例 次の設定例では、方向属性が SDP に配置されるように強制します。

```
Router(config)# mgcp behavior comedia-sdp-force enable
```

|        |                                            |                                                          |
|--------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 関連コマンド | フィールド                                      | 説明                                                       |
|        | <b>mgcp</b>                                | MGCPのリソースを割り当て、デーモンを開始します。                               |
|        | <b>mgcpbehaviorcomedia-check-media-src</b> | MGCP ゲートウェイ全体で受信した最初の rtp パケットからの IP アドレスとポートの検出を有効にします。 |
|        | <b>mgcpbehaviorcomedia-role</b>            | 設定された MGCP ゲートウェイの場所を指定します。                              |
|        | <b>showmgcpconnection</b>                  | アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。                               |

## mgcp behavior g729-variants static-pt

G.729音声コーデックのReal-time Transport Protocol (RTP) ペイロードタイプのデフォルトを動的から静的に変更するには、グローバル設定モードで **mgcpbehaviorg729-variantsstatic-pt** コマンドを使用します。デフォルトを動的に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpbehaviorg729-variantsstatic-pt**

いいえ**mgcpbehaviorg729-variantsstatic-pt**

### 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

### コマンド デフォルト

このコマンドはデフォルトで有効になっているため、G.729 音声コーデックの RTP ペイロードタイプは静的です。

### コマンド モード

グローバル設定 (config)

### コマンド履歴

| リリース                  | 変更                          |
|-----------------------|-----------------------------|
| 12.4(11)T             | このコマンドが導入されました。             |
| 12.4(22)T2 12.4(24)T1 | このコマンドが変更され、デフォルトで有効になりました。 |

### 使用上のガイドライン

Cisco IOS リリース 12.4(22)T2 および 12.4(24)T1 以前では、ネゴシエートされた値 (ダイナミック) ペイロードタイプは RTP パケットに設定されませんでした。ネットワーク音声ゲートウェイの Cisco IOS ソフトウェアを既存の Cisco Unified Communications Manager と共にアップグレードし、Cisco Unified Communications Manager により制御される Skinny Client Control Protocol (SCCP) 電話と、Cisco ゲートウェイに接続された公衆交換電話網 (PSTN) 電話間で通話が行われていた場合、「音声なし」の状態が発生する可能性があります。**mgcpbehavior g729-variantsstatic-pt** コマンドは、G.729 音声コーデックの RTP ペイロードタイプのデフォルトを動的から静的に変更し、「音声なし」状態を排除します。

### 例

次に、G.729 音声コーデックで RTP ペイロードタイプをスタティックに設定する例を示します。

```
Router(config)# mgcp behavior g729-variants static-pt
```

### 関連コマンド

| コマンド                       | 説明                                               |
|----------------------------|--------------------------------------------------|
| <b>mgcp コーデック</b>          | デフォルトのコーデック タイプとそのオプションのパケット化期間の値を選択します。         |
| <b>mgcprtppayload-type</b> | MGCP ネットワークでの下位互換性のために正しい RTP ペイロードタイプの使用を指定します。 |

# mgcp bind

シグナリングおよびメディアパケットのソースアドレスを特定のインターフェイスの IP アドレスに設定するには、グローバル設定モードで **mgcpbind** コマンドを使用します。 バインディングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpbind {control | media}source-interface**インターフェイス *ID*  
いいえ**mgcp**バインド {control | media}

構文の説明

|                  |                                                                                                                                             |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コントロール           | Media Gateway Control Protocol (MGCP) 制御パケットだけをバインドします。                                                                                     |
| メディア             | メディア パケットだけをバインドします。                                                                                                                        |
| source-interface | インターフェイスを MGCP または Session Initiation Protocol (SIP) パケットの送信元アドレスとして指定します。<br><br>(注)<br>mgcp bind コマンド機能の MGCP ゲートウェイ サポートは、SIP をサポートしません。 |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| インターフェイス ID | <p>MGCP パケットのソースアドレスのインターフェイスを指定します。有効な送信元アドレスは次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>非同期</b>--非同期インターフェース</li> <li>• <b>BVI</b>--ブリッジ-グループ仮想インタフェース</li> <li>• <b>CTunnel</b>--CTunnel インタフェース</li> <li>• <b>ダイヤラ</b>--ダイヤラインタフェース</li> <li>• <b>ファストイーサネット</b>--ファストイーサネット IEEE 802.3</li> <li>• <b>Lex</b>--Lex インタフェース</li> <li>• <b>ループバック</b>-- ループバックインタフェース</li> <li>• <b>MFR</b>--マルチリンク フレームリレー バンドル インターフェイス</li> <li>• <b>マルチリンク</b>マルチリンクグループインタフェース</li> <li>• <b>Null</b>--Null インタフェース</li> <li>• <b>シリアル</b>シリアルインタフェース</li> <li>• <b>トンネル</b>--トンネルインタフェース</li> <li>• <b>VifPGM</b> マルチキャストホストインタフェース</li> <li>• <b>仮想-テンプレート</b>--仮想テンプレート インタフェース</li> <li>• <b>仮想-TokenRing</b>--仮想トークンリング</li> </ul> |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

**コマンド デフォルト** バインディングが無効になっています。

**コマンド モード** グローバル設定

| コマンド履歴 | リリース      | 変更                                                                                                                                                                                      |
|--------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 12.2(13)T | このコマンドが Cisco 2400 シリーズ、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850、Cisco IAD2421、Cisco MC3810、および Cisco VG200 の MGCP に導入されました。 |

**使用上のガイドライン** **mgcpbind** コマンドが有効になっていない場合でも、IP レイヤーは最適なローカルアドレスを提供します。

次のいずれかの状況が発生すると、警告メッセージが表示されます。

- ゲートウェイにアクティブな MGCP コールがある場合、mgcp bind コマンドは control と media の両方で拒否されます。

- バインドインターフェイスが起動していない場合、コマンドは受け付けられますが、インターフェイスが起動するまで有効になりません。
- IP アドレスがバインドインターフェイスに割り当てられていない場合、mgcp bind コマンドが受け入れられますが、有効な IP アドレスが割り当てられた後にのみ有効になります。この間に、MGCP コールがアップ状態の場合、mgcp bind コマンドは拒否されます。
- バインドされたインターフェイスがダウンすると、インターフェイスの手動シャットダウンまたは操作上の失敗により、バインドアクティビティはそのインターフェイスで無効になります。
- メディア ゲートウェイ コントローラ (MGC) でバインドが構成されていない場合、MGCP コントロールとメディアのソーシングに使用される IP アドレスは、利用可能な最適な IP アドレスになります。

例

次の例は、show running-config information が表示されたときに、バインドインターフェイスの構成がどのように表示されるかを示しています。

```
.
.
.
mgcp bind control source-interface FastEthernet0
mgcp bind media source-interface FastEthernet0
.
.
.
```

関連コマンド

| コマンド      | 説明                  |
|-----------|---------------------|
| show mgcp | MGCP パラメータの値を表示します。 |

## mgcp block-newcalls

既存の通話を維持しながら新しい通話をブロックするには、グローバルコンフィギュレーションモードでmgcp block-newcallsコマンドを起動します。Media Gateway Control Protocol (MGCP) の動作を再開するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### mgcpblock-newcalls

いいえmgcpblock-newcalls

#### 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

#### コマンド デフォルト

新しいコールはブロックされていません。

#### コマンド モード

グローバル構成

#### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------|
| 12.1(1)T  | このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。                                     |
| 12.1(3)T  | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924 |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。                                     |

#### 使用上のガイドライン

このコマンドは **mgcp** コマンドが有効な場合にのみ有効です。

このコマンドを発行すると、新しい接続に対するすべてのリクエスト (CreateConnection リクエスト) が拒否されます。既存のすべての通話は、参加者が通話を終了するか、あなたが **nomgcp** コマンドを使用するまで維持されます。最後のアクティブ コールが終了すると、MGCP デーモンが終了し、割り当てられていたすべてのリソースが解放されます。 **nomgcp ブロック-newcalls** コマンドにより、ルータは通常のMGCP操作に戻ります。

#### 例

次の例では、ゲートウェイが新しい通話を受信しないようにします。

```
Router(config)# mgcp block-newcalls
```

#### 関連コマンド

| コマンド        | 説明                          |
|-------------|-----------------------------|
| <b>mgcp</b> | MGCP のリソースを割り当て、デーモンを開始します。 |

# mgcp call-agent

メディア ゲートウェイ上の Media Gateway Control Protocol (MGCP) エンドポイントのコール エージェントのアドレスとプロトコルを設定するには、**mgcp~~call-agent~~** コマンドをグローバル 設定モードで使します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使します。

**mgcp~~call-agent~~** {*host-name**ip-address*}[*ポート*][**service-type**タイプ[**version**プロトコルバージョン]]  
 言いえmgcpコール エージェント

## 構文の説明

|                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <i>host-name</i>                       | 通話エージェントの完全修飾ドメイン名 (ホスト部分を含む);例:<br>cal23.example.net                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <i>ip-アドレス</i>                         | コール エージェントの IP アドレス。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ポート                                    | (オプション) ゲートウェイがコール エージェントにメッセージを送信<br>する際に使用するユーザ データグラム プロトコル (UDP) ポート。 範<br>囲は 1025 から 65535 です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <b>service-type</b> <i>type</i>        | (オプション) ゲートウェイコントロールサービスのプロトコルタイプ<br>です。 次のいずれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>mgcp</b>--メディアゲートウェイコントロールプロトコル</li> <li>• <b>ncs</b>--ネットワーク通信サーバ</li> <li>• <b>sgcp</b>--シンプルゲートウェイコントロールプロトコル</li> <li>• <b>tgcp</b>--トランク ゲートウェイ コントロール プロトコル</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>version</b> <i>protocol-version</i> | (オプション)ゲートウェイコントロールサービスプロトコルのバージ<br>ョンです。 次のいずれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• サービスタイプ mgcp: 0.1、1.0、rfc3435-1.0               <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0.1 -- MGCP インターネット ドラフトのバージョン 0.1</li> <li>• 1.0-- MGCP バージョン 1.0 RFC2705 バージョン 1.0</li> <li>• rfc3435-1.0-- MGCP バージョン 1.0 RFC3435 バージョン 1.0</li> </ul> </li> </ul> (注)<br>この設定値を使用して、RFC2705 またはRFC3435 の定義に基づいて、<br>ルーターが互換性を持つようにMGCPアプリケーションの動作を調整<br>できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• For service-type ncs: 1.0</li> <li>• サービスタイプ sgcp:1.1、1.5</li> <li>• サービスタイプ tgcp: 1.0</li> </ul> |

## コマンド デフォルト

Call- Agent UDP ポート: MGCP 1.0、NCS 1.0、および TGCP 1.0 の場合は 2727 Call-agent UDP ポート: MGCP 0.1 および SGCP の場合は 2427 Call- Agent UDP ポート: Cisco CallManager: サービスのタイプとバージョン:mgcp 0.1 サービス タイプ: Cisco CallManager:mgcp

## コマンド モード

グローバル設定

## コマンド履歴

| リリース       | 変更                                                                                                                                          |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.1(1)T   | このコマンドが Cisco AS5300 に追加されました。                                                                                                              |
| 12.1(3)T   | service-type type キーワードと引数が追加されました。                                                                                                         |
| 12.1(5)XM  | versionprotocol-version キーワードと引数が追加されました。                                                                                                   |
| 12.2(2)T   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。                                                                                                |
| 12.2(2)XA  | 新しいサービス タイプ (ncs および tgcp) と適切なバージョンが追加されました。バージョン 1.0 が mgcp サービスタイプに追加されました。このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズルーターに実装されました。       |
| 12.2(4)T   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。                                                                                                |
| 12.2(2)XN  | このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco VG200 のプラットフォーム用の Cisco CallManager バージョン 3.1 で、強化された MGCP 音声ゲートウェイの相互運用性を提供するために導入されました。 |
| 12.2(11)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T および Cisco CallManager バージョン 3.2 に統合され、Cisco IAD2420 シリーズおよび Cisco AS5850 で実装されました。                      |
| 12.2(13)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(13)T に統合され、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に実装されました。                                              |
| 12.3(8)T 1 | このコマンドは、コマンドに RFC3435-1.0 オプションを追加することで変更されました。                                                                                             |

## 使用上のガイドライン

グローバル call-agent 構成 (このコマンドを使用) および MGCP プロファイル (mgcp プロファイル call-agent command) は同時に指定することはできません。あるエンドポイントで最初に設定された方の設定が、同じエンドポイント上のもう 1 つの方の設定をブロックします。

mgcp call-agent および mgcp プロファイル call-agent コマンドで、IP アドレスではなく DNS (Domain Name System) 名で call-agent を識別すると、DNS 名には複数の IP アドレスを関連付けることができるため、call-agent の冗長性を提供します。通話エージェントが DNS 名で識別され、ゲートウェイからのメッセージが通話エージェントに届かない場合、max1lookup と max2lookup コマンドは、DNS 参照テーブルから別の IP アドレスにあるバックアップのコールエージェントを検索します。

port 引数でコールエージェントのポート番号 (ゲートウェイがメッセージをコールエージェントに送信する際に使用する UDP ポート) を設定します。逆引き (ゲートウェイポート番号、ま

たはゲートウェイがコールエージェントからメッセージを受信するための UDP ポート) は、**mgcp** コマンドでポート番号を指定することで設定します。

サービスタイプが **mgcp** に設定されている場合、コールエージェントは、**mgcp sgcp restart notify** コマンドが有効になっている場合に、ゲートウェイから送信された再起動中 (RSIP) エラーメッセージを処理します。サービスタイプが **sgcp** に設定されている場合、コールエージェントは RSIP メッセージを無視します。

任意のプラットフォームとメディア ゲートウェイでこのコマンドを使用します。

**mgcp** サービスタイプは、**mgcpsgcp** 再起動通知コマンドが有効になっている場合、ゲートウェイから送信される RSIP エラーメッセージをサポートします。

## 例

次の例では、コールエージェントを指定するいくつかの形式を示しています(いずれかの形式を使用します)。

```
Router(config)# mgcp call-agent 209.165.200.225 service-type mgcp version 1.0
Router(config)# mgcp call-agent 10.0.0.1 2427 service-type mgcp version rfc3435-1.0
Router(config)# mgcp call-agent igloo.northpole.net service-type ncs
Router(config)# mgcp call-agent igloo.northpole.net 2009 service-type sgcp version 1.5
Router(config)# mgcp call-agent 209.165.200.225 5530 service-type tgcp
```

## 関連コマンド

| コマンド                   | 説明                                                                                            |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>call-agent</b>      | MGCP プロファイルの call-エージェントアドレスとプロトコルを指定します。                                                     |
| <b>debugmgcpevents</b> | MGCP イベントのデバッグ メッセージを表示します。                                                                   |
| <b>max1lookup</b>      | 疑わしいしきい値に達した場合に、MGCP コール エージェント アドレスの DNS ルックアップを有効にします。                                      |
| <b>max2lookup</b>      | 切断しきい値に達したときに、MGCP コール エージェント アドレスの DNS ルックアップを有効にします。                                        |
| <b>mgcp</b>            | 開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。                                                                    |
| <b>mgcp</b> プロファイル     | 1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。 |
| <b>mgcpsgcp</b> 再起動通知  | MGCP application.mgcp で RSIP メッセージ処理を開始します。mgcp                                               |
| <b>sgcp</b> 再起動通知      | MGCP アプリケーションが SGCP タイプの RSIP メッセージを処理できるようにします。                                              |

## Mgcp コーデック

コーデックのタイプとオプションのパケット化期間の値を選択するには、グローバル設定モードで**mgcpcodec**コマンドを使用します。コーデックをデフォルト値のG711 u-lawに設定するには、このコマンドの**no**形式を使用します。

**mgcp**コーデックタイプ[**packetization-period**値]  
**いいえmgcp**コーデック

### 構文の説明

|                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| タイプ                               | サポートされているコーデックのタイプ。有効なコーデックには、G711alaw、G711ulaw、G723ar53、G723ar63、G723r53、G723r63、G729ar8、G729br8、および G729r8 があります。                                                                                                                                                                                            |
| <b>packetization-period</b> value | <p>(オプション) パケット化期間。この値は、優先圧縮アルゴリズムとパケット化期間パラメータがメディアゲートウェイコントローラーによって提供されない場合に役立ちます。範囲は選択したコーデックのタイプによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>G729</b> の範囲は 10 の増分で 10から220までです。</li> <li>• <b>G711</b> の範囲は 10 の増分で 10から220までです。</li> <li>• <b>G723</b> の範囲は 30 の増分で 10から220までです。</li> </ul> |

### コマンド デフォルト

**G711u-law** コーデック

### コマンド モード

グローバル設定

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------|
| 12.1(1)T  | このコマンドが Cisco AS5300 に追加されました。                                     |
| 12.1(3)T  | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924 |
| 12.1(5)XM | このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。                                     |
| 12.2(2)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。  |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。                                     |

### 例

次の例では、コーデックの種類を指定しています。

```
Router(config)# mgcp codec g711alaw
```

次に、コーデック タイプとパケット化期間を設定する例を示します。

```
Router(config)# mgcp codec g729r8 packetization-period 150
```

|        |          |                  |
|--------|----------|------------------|
| 関連コマンド | コマン<br>ド | 説明               |
|        | mgcp     | MGCP プロセスを開始します。 |

## mgcp codec gsmamr-nb

MGCP ダイアルピアに Global System for Mobile Adaptive Multi-Rate Narrow Band (GSMAMR-NB) コーデックを指定するには、ダイアルピア音声構成モードで **mgcpcodecgsmamr-nb** コマンドを使用します。GSMAMR-NB コーデックを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp** コーデック **gsmamr-nb** [**packetization-period**20] [**encaprfc**3267] [**フレーム形式** {**bandwidth-efficient** | **octet-aligned**[**crc** | **no-crc**]}] [**モード**モード値]  
 言い換え **mgcp** コーデック **gsmamr-nb**

### 構文の説明

|                                |                                                                                                                     |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>packetization-period</b> 20 | (オプション) パケット化期間を 20 ms に設定します。                                                                                      |
| <b>encaprfc</b> 3267           | (オプション) RFC 3267 に準拠するために、カプセル化値を設定します。                                                                             |
| フレーム形式                         | (オプション) フレーム形式を指定します。サポートされている値は、オクテット揃えと帯域効率です。[デフォルトはオクテット揃え。]                                                    |
| <b>crc</b>   <b>no-crc</b>     | (オプション) CRC は、オクテット揃えフレーム形式にのみ適用可能です。帯域幅効率の高いフレーム形式を入力した場合、 <b>crc</b>   <b>no-crc</b> オプションは利用できません、それらは該当しないためです。 |
| <b>modes</b>                   | (オプション) GSMAMR-NB コーデックで使用可能な 8 つの音声エンコードモード (4.75 から 12.2 kbps のビット レート)。                                          |
| <i>modes-value</i>             | (オプション) 有効な値は 0 から 7 までです。モードは範囲 (0-2 など)、カンマで区切った個別のモード (2,4,6 など)、またはこの 2 つの組み合わせで指定できます。(たとえば、0-2,4,6-7) を入力します。 |

### コマンド デフォルト

パケット周期は **20 ms** です。カプセル化は **rfc3267** です。 フレーム形式は **octet-aligned** です。CRC は **no-crc** です。 モード値は **0-7** です。

### コマンド モード

ダイアル ピア 音声構成 (config-dial-peer)

### コマンド履歴

| リリース       | 変更                                            |
|------------|-----------------------------------------------|
| 12.4(11)XW | このコマンドが導入されました。                               |
| 12.4(15)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。 |

### 使用上のガイドライン

**mgcpcodecgsmamr-nb** コマンドを使用して、Cisco AS5350XM および Cisco AS5400XM プラットフォームの GSMAMR-NB コーデックとそのパラメータを設定します。

例

次の例では、コーデックを **gsmamr-nb** に設定し、パラメータを設定する方法を示します:

```
Router(config-dial-peer)# mgcp codec gsmamr-nb packetization-period 20 encaps rfc3267
frame-format octet-aligned crc
```

関連コマンド

| コマンド        | 説明               |
|-------------|------------------|
| <b>mgcp</b> | MGCP デーモンを開始します。 |

## mgcp codec ilbc

MGCP ダイアルピアのインターネット低帯域幅コーデック (iLBC) を指定するには、**mgcpcodecilbc** コマンドを使用します。ダイアルピア音声設定モードで入力します。iLBC を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp**コーデック**ilbc**モードフレームサイズ[**packetization-period**値]  
 いいえ**mgcp**コーデック**ilbc**

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                       |                                                                                                                                                                                                                                                            |                  |                                                                                                                   |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明                 | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="425 598 630 877"><b>modeframe_size</b></td><td data-bbox="643 598 1521 877">           各パケットにカプセル化される iLBC 動作フレームモードをミリ秒 (ms) で指定します。有効なエントリは次の通りです:           <ul style="list-style-type: none"> <li>• 15.2 kbps ビットレートの場合、20、40、60、80、100、または 120 ms フレーム。デフォルトは 20 です。</li> <li>• 13.33 kbps ビットレートの場合、30、60、90、または 120 ms フレーム。デフォルトは 30 です。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td data-bbox="425 886 630 1041"><b>パケット化-期間値</b></td><td data-bbox="643 886 1521 1041">           (オプション) パケット化期間。この値は、優先圧縮アルゴリズムとパケット化期間パラメータがメディアゲートウェイコントローラーによって提供されない場合に役立ちます。指定できる範囲は 20 から 120 で、10 ずつ増加します。         </td></tr> </table> | <b>modeframe_size</b> | 各パケットにカプセル化される iLBC 動作フレームモードをミリ秒 (ms) で指定します。有効なエントリは次の通りです: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 15.2 kbps ビットレートの場合、20、40、60、80、100、または 120 ms フレーム。デフォルトは 20 です。</li> <li>• 13.33 kbps ビットレートの場合、30、60、90、または 120 ms フレーム。デフォルトは 30 です。</li> </ul> | <b>パケット化-期間値</b> | (オプション) パケット化期間。この値は、優先圧縮アルゴリズムとパケット化期間パラメータがメディアゲートウェイコントローラーによって提供されない場合に役立ちます。指定できる範囲は 20 から 120 で、10 ずつ増加します。 |
| <b>modeframe_size</b> | 各パケットにカプセル化される iLBC 動作フレームモードをミリ秒 (ms) で指定します。有効なエントリは次の通りです: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 15.2 kbps ビットレートの場合、20、40、60、80、100、または 120 ms フレーム。デフォルトは 20 です。</li> <li>• 13.33 kbps ビットレートの場合、30、60、90、または 120 ms フレーム。デフォルトは 30 です。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                       |                                                                                                                                                                                                                                                            |                  |                                                                                                                   |
| <b>パケット化-期間値</b>      | (オプション) パケット化期間。この値は、優先圧縮アルゴリズムとパケット化期間パラメータがメディアゲートウェイコントローラーによって提供されない場合に役立ちます。指定できる範囲は 20 から 120 で、10 ずつ増加します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                       |                                                                                                                                                                                                                                                            |                  |                                                                                                                   |

コマンド デフォルト 15.2 kbps ビット レートの 20 ms フレーム。

コマンド モード  
 ダイアル ピア 音声構成 (config-dial-peer)

| コマンド履歴     | <table border="1"> <tr> <th data-bbox="425 1266 560 1306">リリース</th><th data-bbox="573 1266 1305 1306">変更</th></tr> <tr> <td data-bbox="425 1314 560 1354">12.4(11)XW</td><td data-bbox="573 1314 1305 1354">このコマンドが導入されました。</td></tr> <tr> <td data-bbox="425 1362 560 1402">12.4(15)T</td><td data-bbox="573 1362 1305 1402">このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。</td></tr> </table> | リリース | 変更 | 12.4(11)XW | このコマンドが導入されました。 | 12.4(15)T | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|------------|-----------------|-----------|-----------------------------------------------|
| リリース       | 変更                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |    |            |                 |           |                                               |
| 12.4(11)XW | このコマンドが導入されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |      |    |            |                 |           |                                               |
| 12.4(15)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |      |    |            |                 |           |                                               |

使用上のガイドライン iLBC は、音声機能カード (VFC) 搭載の Cisco AS5350XM および Cisco AS5400XM ユニバーサルゲートウェイ、およびトランスコーディングと電話会議なしの IP-to-IP ゲートウェイでのみサポートされます。

例  
 次の例では、MGCP コーデックを **ilbc** に設定し、パラメータを設定する方法を示します。

```
Router(config-dial-peer)# mgcp codec ilbc mode 20 packetization-period 60
```

関連コマンド

| コマンド        | 説明               |
|-------------|------------------|
| <b>mgcp</b> | MGCP デーモンを開始します。 |

# mgcp crypto rfc-preferred

Cisco IOS Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイでメディアレベルのセッション記述プロトコル (SDP) a=crypto 属性のサポートを有効にするには、**mgcp cryptorfc-preferred** コマンドをグローバル設定モードで使用します。a=crypto 属性のサポートを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp cryptorfc-preferred**  
いいえ **mgcp cryptorfc-preferred**

|            |                                                      |                 |
|------------|------------------------------------------------------|-----------------|
| 構文の説明      | このコマンドには引数もキーワード也没有しません。                             |                 |
| コマンド デフォルト | a=crypto 属性のサポートは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイでは有効になっていません。 |                 |
| コマンド モード   | グローバル設定 (config)                                     |                 |
| コマンド履歴     | リリース                                                 | 変更              |
|            | 15.0(1)XA                                            | このコマンドが導入されました。 |

**使用上のガイドライン** Secure RTP (SRTP) メディアセッションの暗号パラメータは、SDP の暗号属性を使用して通知され、ネゴシエートされます。Crypto 属性構文のいくつかのバージョンは、暗号属性名を X-crypto キーワード (a=X-crypto) に設定します。RFC 4568 メディアストリームのためのセッション記述プロトコル (SDP) は、暗号属性の構文を定義します。属性名は暗号キーワード (a=crypto) に設定されます。あなたは **mgcp cryptorfc-preferred** コマンドを使用して、Cisco MGCP ゲートウェイで a=crypto 属性のサポートを有効にします。

a=crypto のサポートが有効な場合、受信した SDP に応じて、システムは a=crypto または a=X-crypto 表記の使用を選択できます。デフォルトでは、リモート SDP が存在しない場合、ゲートウェイによって生成されるすべての SDP は a=crypto 表記を使用します。

コマンドが無効な場合、ゲートウェイは受信する SDP の a=crypto または a=X-crypto の両方を理解できます。ただし、ゲートウェイによって生成されるすべての SDP は a=X-crypto 表記を使用します。

コールエージェントが使用する表記に基づいてコマンドを設定する必要があります。たとえば、Cisco 公衆交換電話網 (PSTN) ゲートウェイ (PGW) は a=crypto 表記を使用し、Cisco Unified Call Manager は a=X-crypto 表記を使用します。

例

次の例では、SDP a=crypto 属性のサポートを Cisco IOS MGCP ゲートウェイで有効にします。

```
Router(config)# mgcp crypto rfc-preferred
```

SDP a=crypto 属性のサポートが Cisco IOS MGCP ゲートウェイで有効になっている場合  
のコマンド、**showmgcp** のサンプル出力は以下の通りです:

```
Router(config)# show mgcp
MGCP rsip-range is enabled for TGCP only.
MGCP Comedia role is NONE
MGCP Comedia check media source is DISABLED
MGCP Comedia SDP force is DISABLED
MGCP Guaranteed scheduler time is DISABLED
MGCP Disconnect delay error recovery DISABLED
MGCP support for a:crypto RFC notation is ENABLED
MGCP DNS stale threshold is 30 seconds
```

|        |                    |                                                                                       |
|--------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド               | 説明                                                                                    |
|        | debugmgcp          | MGCP エラー、イベント、メディア、パケット、パーサー、および CAC のデバッグ トレースを有効にします。                               |
|        | max1 retries       | MGCP 疑惑のしきい値(再送信のための新しい検索を実行する前に、コール エージェント アドレスにメッセージを再送信する試行の数)を設定します。              |
|        | max2 retries       | MGCP 切断しきい値を設定します(コール エージェント アドレスにメッセージを再送信する際に再送信するための新しい検索を行うまでの試行回数)。              |
|        | mgcp               | MGCP のリソースを割り当て、MGCP デーモンを開始します。                                                      |
|        | mgcpblock-newcalls | 既存の通話を維持しながら、新しい通話をブロックします。                                                           |
|        | mgcpip-tos         | MGCP 接続の IP ToS を有効または無効にします。                                                         |
|        | mgcp profile       | 1 つまたは複数の MGCP エンドポイントと関連付けられるように MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトの MGCP プロファイルを構成します。 |
|        | showmgcp           | MGCP パラメータの値を表示します。                                                                   |

## mgcp dns stale threshold

メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) ドメイン ネーム システム (DNS) の過期したしきい値を設定するには、**mgcpdnsstalethreshold** コマンドをグローバル設定モードで使います。過期したしきい値の設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使います。

**mgcpdnsstale** しきい値秒  
いいえ **mgcpdnsstale** しきい値

|       |                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | 秒 MGCP DNS 値が古いと見なされるしきい値の時間 (秒)。範囲は 0 ～ 600 です。デフォルトは 300 です。 |
|-------|----------------------------------------------------------------|

コマンド デフォルト MGCP DNS しきい値は 300 秒に設定されています。

コマンド モード  
グローバル設定 (config)

|        |           |                                                       |
|--------|-----------|-------------------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース      | 変更                                                    |
|        | 12.4(24)T | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(24)T より前のリリースで導入されました。 |

例  
次に、スレッショルドのステール時間を 44 秒に設定する例を示します。

```
Router(config)# mgcp dns stale threshold 44
```

|        |                 |                      |
|--------|-----------------|----------------------|
| 関連コマンド | コマンド            | 説明                   |
|        | <b>showmgcp</b> | MGCP パラメータの詳細を表示します。 |

# mgcp debug-header

デバッグヘッダー中の Media Gateway Control Protocol (MGCP) モジュール依存情報の表示を有効にするには、**mgcpdebug-header** コマンドをグローバルコンフィギュレーションモードで使  
用します。MGCP モジュール依存情報を無効にするには、このコマンドのno形式を使用しま  
す。

**mgcpdebug-header**  
いいえmgcpデバッグヘッダー

## 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ません。

## コマンド デフォルト

デバッグ ヘッダーの MGCP モジュール依存情報が有効です。

## コマンド モード

グローバル設定

## コマンド履歴

| リリース     | 変更              |
|----------|-----------------|
| 12.4(4)T | このコマンドが導入されました。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、デバッグ出力の標準ヘッダーに MGCP モジュール依存の情報を表示するか  
どうかを決定します。

## 例

次の例では、デバッグ ヘッダーの MGCP モジュール依存情報を有効にします。

```
Router(config)# mgcp debug-header
```

## 関連コマンド

| コマンド                     | 説明                                 |
|--------------------------|------------------------------------|
| <b>debugmgcpall</b>      | MGCP のすべてのデバッグ トレースを有効にします。        |
| <b>debugmgcpendpoint</b> | 特定の MGCP エンドポイントのデバッグ トレースを有効にします。 |
| <b>mgcp</b>              | MGCP プロセスを開始します。                   |
| <b>showdebugging</b>     | 有効になっているデバッグのタイプを表示します。            |
| <b>showmgcp</b>          | MGCP パラメータ設定を表示します。                |
| <b>voicecalldebug</b>    | デバッグヘッダーの形式を指定します。                 |

## mgcp default-package

メディアゲートウェイのデフォルトのパッケージ機能タイプを設定するには、グローバル設定モードで**mgcpdefault-package**コマンドを使用します。このコマンドには**no**形式がありません。デフォルトのパッケージを変更するには、異なる、アクティブにサポートされているパッケージで**mgcpdefault-package** コマンドを使用します。

### レジデンシャルゲートウェイ

**mgcpデフォルトパッケージ** {**dt-package** | **dtmf-package** | **fxr-package** | **gm-package** | **hs-package** | **line-package** | **ms-package** | **rtp-package**}

### ビジネスゲートウェイ

**mgcpdefault-package** {**atm-package** | **dt-package** | **dtmf-package** | **fxr-package** | **gm-package** | **hs-package** | **line-package** | **ms-package** | **rtp-package** | **trunk-package**}

### トランキングゲートウェイ

**mgcpデフォルトパッケージ** {**as-package** | **atm-package** | **dt-package** | **dtmf-package** | **gm-package** | **hs-package** | **md-package** | **mo-package** | **ms-package** | **nas-package** | **rtp-package** | **script-package** | **trunk-package**}

#### 構文の説明

|                       |                                                  |
|-----------------------|--------------------------------------------------|
| <b>-パッケージ</b>         | アナウンス サーバ パッケージ。                                 |
| <b>atm-package</b>    | ATM パッケージ。                                       |
| <b>dtmf-package</b>   | DTMF パッケージ。                                      |
| <b>dt-package</b>     | DTMF トランク パッケージ (チャネル関連シグナリング (CAS) エンドポイント用)。   |
| <b>fxr-package</b>    | ファックス送信用の FXR パッケージ。                             |
| <b>gm-package</b>     | 汎用メディアパッケージ。                                     |
| <b>hs-package</b>     | ハンドセットのパッケージ。                                    |
| <b>line-package</b>   | ラインパッケージです。                                      |
| <b>md-package</b>     | 機能グループ D (FGD) 交換アクセス北米 (EANA) シグナリングの MD パッケージ。 |
| <b>mo-package</b>     | MF オペレータ サービス パッケージ (CAS エンドポイント用)。              |
| <b>ms-package</b>     | MF ウィンク/即時開始パッケージ (CAS エンドポイント用)。                |
| <b>nas-package</b>    | ネットワークアクセスサーバパッケージ。                              |
| <b>rtp-package</b>    | RTP パッケージ。                                       |
| <b>script-package</b> | スクリプトパッケージ。                                      |

|                      |            |
|----------------------|------------|
| <b>trunk-package</b> | トランクパッケージ。 |
|----------------------|------------|

コマンド デフォルト レジデンシャル ゲートウェイ : **line-package** For trunking gateways:**trunk-package**

コマンド モード グローバル構成

| コマンド履歴 | リリース      | 変更                                                                                                                                                           |
|--------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 12.1(1)T  | このコマンドが Cisco AS5300 に追加されました。                                                                                                                               |
|        | 12.1(3)T  | <b>line-package</b> キーワードと、レジデンシャルゲートウェイとトランキングゲートウェイの区別が追加されました。                                                                                            |
|        | 12.1(5)XM | このコマンドが Cisco MC3810 および Cisco 3600 シリーズに実装されました。 <b>atm-パッケージ</b> 、 <b>hs-パッケージ</b> 、 <b>ms-パッケージ</b> 、 <b>dt-パッケージ</b> 、および <b>mo-パッケージ</b> キーワードが追加されました。 |
|        | 12.2(2)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。                                                                                                                 |
|        | 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。                                                                                                              |
|        | 12.3(1)   | <b>fxr-package</b> キーワードが追加されました。                                                                                                                            |
|        | 12.4(4)T  | <b>md-package</b> キーワードが追加されました。                                                                                                                             |

使用上のガイドライン このコマンドは、メディア ゲートウェイ コントローラーが特定の接続に使用されるパッケージ機能を提供しない場合に役立ちます。

デフォルトのパッケージを選択する前に、**showmgcp** コマンドを使用して、パッケージがアクティブにサポートされていることを確認してください。希望するパッケージが画面に表示されない場合は、**mgcppackage-capability** コマンドを使用してサポートリストにパッケージを追加します。



(注) CAS パッケージ(**dt-package**、**md-package**、**mo-package**、および **ms-package**)は、既定のパッケージオプションとしてのみ利用できます。 **mgcpパッケージ機能** コマンドではオプションとして表示されません。これは、CAS パッケージがトランクごとに定義されるのに対し、非CAS パッケージはゲートウェイごとに設定されるためです。各トランクは、**ds0-group** コマンドを使用して定義されます。

1 つのパッケージのみがアクティブにサポートされている場合、それがデフォルトのパッケージになります。

FXR パッケージがデフォルトの場合、コールエージェントは、CRCX、MDCX、DLCX、および RQNT メッセージの 2 つのタイプの要求で「fxr/」プレフィックスを省略します：イベントの検出を要求する場合 ("R:<pkg>/<evt>") とイベントの生成を要求する場合 ("S:<pkg>/<evt>")。た

たとえば、T.38 の検出を要求する場合、コールエージェントは RQNT メッセージで「R:fxr/t38」ではなく「R:t38」を送信します。ローカル接続オプションの「fxr/fx:」パラメータは、デフォルトのパッケージとして FXR を選択しても影響を受けず、常に「fxr/」プレフィックスが必要であることに注意してください。

#### 例

次の例では、既定のパッケージを設定します。

```
Router(config)# mgcp default-package as-package
! The announcement server package type will be the new default package type.
```

#### 関連コマンド

| コマンド                          | 説明                                    |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| <b>ds0-group</b>              | 論理音声ポートを構成する DS0 タイムスロットを指定します        |
| <b>mgcp</b>                   | MGCP デーモンを開始します。                      |
| <b>mgcppackage-capability</b> | ゲートウェイによってサポートされる特定の MGCP パッケージを含みます。 |
| <b>showmgcp</b>               | MGCP パラメータの値を表示します。                   |

# mgcp disconnect-delay

MGCP 切断遅延エラー回復メカニズムを設定するには、グローバル設定モードで **mgcpdisconnect-delay** コマンドを使用します。エラーリカバリを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp切断遅延[タイムアウト秒]**  
**いいえmgcp切断遅延**

|       |        |                                                          |
|-------|--------|----------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | タイムアウト | (オプション) エラー回復手順の開始前のユーザ定義のタイムアウト。                        |
|       | 秒      | エラー回復手順の開始までのタイムアウト時間 (秒)。指定できる範囲は 2 から 15 です。既定値はありません。 |

**コマンド デフォルト** 切断遅延エラー回復が無効になっています。

**コマンド モード** グローバル構成 (config)

|        |                       |                                                |
|--------|-----------------------|------------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース                  | 変更                                             |
|        | 12.4(15)T8、12.4(20)T2 | このコマンドが導入されました。                                |
|        | 12.4(22)T1            | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T1 に統合されました。 |

**使用上のガイドライン** FXS テレフォニー エンドポイントの接続解除要求が、設定されたタイムアウト値を超えて完了すると、コールエージェントは MGCP メッセージを送信し続けるため、最終的に FXS エンドポイントはゲートウェイをブロックまたは登録解除します。この状況を回避するには、ゲートウェイに **mgcp切断遅延** コマンドを設定してください。これにより、切断要求の完了までに時間がかかりすぎる場合に、MGCP アプリケーションが切断遅延エラー回復手順を開始できるようになります。

**mgcpdisconnect-delaytimeout** コマンドがオプションの **timeout** キーワードなしで設定されると、切断遅延エラー回復メカニズムは 7 秒に設定されます。

**例** 次の例は、7 秒のデフォルトのタイムアウトに設定された切断遅延エラーリカバリメカニズムを示しています。

```
Router(config)# mgcp disconnect-delay
```

以下の例は、ユーザ定義の 15 秒で設定された切断遅延エラー回復メカニズムを示しています。

```
Router(config)# mgcp disconnect-delay timeout 15
```

## Mgcp dtmf-relay

圧縮コーデックで桁を正確に転送するには、**mgcpdtmf-**リレー コマンドをグローバルコンフィギュレーション モードで使用します。非圧縮コーデックでこのプロセスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### ボイス オーバー IP (VoIP)

**mgcpdtmf-relayvoip** コーデック {すべて | 低ビットレート} モード {cisco | 無効化 | nse | アウトオブバンド | nte-gw | nte-ca}  
 いいえ **mgcpdtmf-relayvoip**

### ボイス オーバー AAL2 (VoAAL2)

**mgcpdtmf-relayvoaal2** コーデック [all | low-bit-rate]  
 いいえ **mgcpdtmf-relayvoaal2**

#### 構文の説明

|                     |                                                                                                                                                                               |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>voip</b>         | VoIP 通話に指定します。                                                                                                                                                                |
| <b>voaal2</b>       | Voice over AAL2 (VoAAL2) 通話 (Annex K タイプ 3 パケットを使用) を指定します。                                                                                                                   |
| <b>コーデック</b>        | MGCP DTMF リレー コーデックの構成を指定します。                                                                                                                                                 |
| <b>すべて</b>          | すべての音声コーデックで DTMF リレーを使用することを指定します。                                                                                                                                           |
| <b>low-bit-rate</b> | DTMF リレーが、G.729 などの低ビットレートの音声コーデックのみで使用されることを指定します。                                                                                                                           |
| <b>モード</b>          | MGCP DTMF リレー モードを設定します。                                                                                                                                                      |
| <b>cisco</b>        | Real-time Transport Protocol (RTP) デジタル信号イベントが、RFC.11 仕様で説明されているフレームリレーに似た独自の形式を使用してエンコードされることを指定します。イベントは、ペイロードタイプ 121 を使用して、非デジタル音声サンプルと同じ RTP ストリームで送信されます。                |
| <b>無効</b>           | MGCP DTMF リレー モードを無効に設定します。このキーワードは <b>all</b> キーワードでのみ利用できます。                                                                                                                |
| <b>nse</b>          | 名前付きシグナリング イベント (NSE) RTP 桁イベントが、RFC 2833 のセクション 3.0 で指定されている形式を使用してエンコードされ、非数字の音声サンプルと同じ RTP ストリームで送信され、 <b>mgcptsepayload</b> コマンドを使用して設定されたペイロードタイプを使用します。                 |
| <b>out-of-band</b>  | Media Gateway Control Protocol (MGCP) 番号イベントが通知 (NTFY) メッセージを使用してコール エージェントに送信され、エージェントは Request Notification (RQNT) メッセージを使用してリモート ゲートウェイでそれらを再生し、 <b>S:</b> (信号再生要求)を使用します。 |

|                |                                                                                                                                                                                             |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>n-te-gw</b> | RTP 桁イベントが、RFC 2833、セクション 3.0 で指定されている名前付き電話イベント (NTE) 形式を使用してエンコードされ、非数字音声サンプルと同じ RTP ストリームで送信されることを指定します。ペイロードタイプは、使用前にゲートウェイによってネゴシエートされます。ペイロードタイプの設定値は、ネゴシエーションの開始時に推奨される選択肢として提示されます。 |
| <b>n-te-ca</b> | <b>n-te-gw</b> キーワードと同様に動作し、コールエージェントのローカル接続オプションの <b>a:</b> 行はDTMFリレーを有効にするか無効にするために使用されます。                                                                                                |

## コマンド デフォルト

Cisco 7200 シリーズ ルーターの場合、このコマンドは無効になります。その他のすべてのプラットフォームでは、非圧縮コーデックは無効になっています。

## コマンド モード

グローバル設定 (config)

## コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                                                                                                               |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.1(3)T  | このコマンドが導入されました。                                                                                                                                                  |
| 12.1(5)XM | このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)XM に統合され、Cisco MC3810 に実装されました。                                                                                                 |
| 12.2(2)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。 <b>voaal2</b> キーワードが追加されました。                                                                   |
| 12.2(2)XB | このコマンドは変更されました。 <b>n-te-gw</b> と <b>n-te-ca</b> キーワードがこのコマンドに追加されました。                                                                                            |
| 12.2(8)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。                                                                                                                     |
| 12.2(2)XN | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)XN に統合され、次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco Voice Gateway 200、Cisco VG200                            |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T および Cisco CallManager バージョン 2.0 に統合されました。このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco AS5300、Cisco AS5400、Cisco AS5850、および Cisco IAD2420 |
| 12.2(15)T | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(15)T に統合され、Cisco 1751 および Cisco 1760 に実装されました。                                                                                    |
| 15.0(1)M  | このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで変更されました。 <b>disabled</b> キーワードが追加されました。                                                                               |

## 使用上のガイドライン

DTMF 番号を含む RTP パケットをデコードできないアナウンス サーバまたはボイスメール サーバにアクセスするには、このコマンドを使用します。 **mgcpdtmf-relay** コマンドがアクティ

例

づな場合、DTMF 番号は音声ストリームから削除され、サーバが数字をデコードできるように転送されます。

VoIP だけが **mode** キーワードをコーデックの転送番号にサポートしています。

次に、音声ストリームから DTMF トーンを削除し、DTMF 番号の特別なペイロードを持つ FRF.11 を送信する例を示します。

```
Router(config)# mgcp dtmf-relay codec mode cisco
```

次の例では、NSE モードで VoIP を使用して低ビットレートのコーデックを設定する方法を示します。

```
Router(config)# mgcp dtmf-relay voip codec low-bit-rate mode nse
```

次に、VoAAL2 のコーデックを設定する例を示します。

```
Router(config)# mgcp dtmf-relay voaal2 codec all
```

次の例では、NSE モードで VoIP を使用して低ビットレートのコーデックを設定する方法を示します。

```
Router(config)# mgcp dtmf-relay voip codec low-bit-rate mode nse
```

DTMF リレー コーデックとモードをゲートウェイに設定する方法を次の例で示します。

```
Router(config)# mgcp dtmf-relay codec mode nte-gw
```

関連コマンド

| コマンド        | 説明               |
|-------------|------------------|
| <b>mgcp</b> | MGCP デーモンを開始します。 |

# mgcp endpoint offset

Media Gateway Control Protocol (MGCP) の Network-based CallSignaling (NCS) 1.0 プロファイルの使用時に、エンドポイント名の POTS または DS0 部分の増分を有効にするには、**mgcpendpointoffset** コマンドをグローバル設定モードで使します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使します。

**mgcp**エンドポイントオフセット  
**いいえmgcp**エンドポイントオフセット

構文の説明 このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト Disabled

コマンド モード グローバル設定

| コマンド履歴 | リリース      | 変更                                              |
|--------|-----------|-------------------------------------------------|
|        | 12.2(2)XA | このコマンドが導入されました。                                 |
|        | 12.2(4)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。    |
|        | 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは NCS 1.0 で使用され、エンドポイント名の POTS または DS0 部分を 1 増やすことで、Call Agent (メディアゲートウェイコントローラ) の相互運用性の問題を最小限に抑えます。

NCS 1.0 では、エンドポイントのポート番号は 1 がベースであり、一部のゲートウェイプラットフォームでのポート番号は 0 がベースです。

このコマンドが設定されると、ゲートウェイ上のすべてのエンドポイント名がオフセットされます。たとえば、ポート番号が aaln/0 のエンドポイントは aaln/1 にオフセットされ、DS0 グループ番号が 0/0:0 は 0/0:1 にオフセットされます。

例 次の例では、エンドポイント名のポート番号部分のインクリメントを有効にします。

```
Router(config)# mgcp endpoint offset
```

| 関連コマンド | コマンド        | 説明                         |
|--------|-------------|----------------------------|
|        | <b>mgcp</b> | 開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。 |

## mgcp explicit hookstate

明示的なフックステートの検出を有効にするには、**mgcpexplicithookstate** コマンドをグローバル設定モードで使います。フックステート検出を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使います。

### mgcp明示的hookstate

いいえmgcp明示的hookstate

#### 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

#### コマンド デフォルト

フックステートの検出が有効になっています。

#### コマンド モード

グローバル設定

#### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                              |
|-----------|-------------------------------------------------|
| 12.1(5)XM | このコマンドが導入されました。                                 |
| 12.2(2)T  | このコマンドが Cisco 7200 シリーズに実装されました。                |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。 |

#### 使用上のガイドライン

明示的なフック状態の検出はデフォルトで有効になっています。この状態では、ゲートウェイは R:hu または R:hd イベントリクエストに対し、「401 エンドポイントはすでにオフフック」または「402 エンドポイントはすでにオンフック」の Nack (未確認) 応答を返します。

**no**形式の **mgcpexplicithookstate** コマンドでフック状態検出をオフにすると、ゲートウェイが R:hu または R:hd のイベントリクエストを受信した際に、フックの状態は確認されません。ゲートウェイはこれらのイベント要求を確認応答します。

#### 例

次の例では、フック状態検出を有効にします。

```
Router(config)# mgcp explicit hookstate
```

#### 関連コマンド

| コマンド        | 説明               |
|-------------|------------------|
| <b>mgcp</b> | MGCP デーモンを開始します。 |

# mgcp fax rate

Media Gateway Control Protocol (MGCP) T.38 セッションの最大ファックス速度を確立するには、**mgcpfaxrate** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで使⽤します。MGCP エンドポイントをデフォルトのファックス速度にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使⽤します。

**mgcp** ファクス **rate** {**2400** | **4800** | **7200** | **9600** | **12000** | **14400** | **voice**}  
**いいえmgcp** ファクス **レート**

|       |              |                                     |
|-------|--------------|-------------------------------------|
| 構文の説明 | <b>2400</b>  | FAX の最高転送速度は 2400 ビット/秒 (bps) です。   |
|       | <b>4800</b>  | FAX の最高転送速度は 4800 bps です。           |
|       | <b>7200</b>  | FAX の最高転送速度は 7200 bps です。           |
|       | <b>9600</b>  | FAX の最高転送速度は 9600 bps です。           |
|       | <b>12000</b> | FAX の最高転送速度は 12000 bps です。          |
|       | <b>14400</b> | FAX の最高転送速度は 14,400 bps です。         |
|       | <b>音声</b>    | 音声コーデックによって許可される最高の伝送速度。これはデフォルトです。 |

**コマンド デフォルト** MGCP FAX レートは、音声コーデックによって許可される最高の伝送速度に設定されます (**mgcpfaxratevoice**)。

**コマンド モード** グローバル構成

|        |          |                 |
|--------|----------|-----------------|
| コマンド履歴 | リリース     | 変更              |
|        | 12.3(8)T | このコマンドが導入されました。 |

**使用上のガイドライン** このコマンドを使⽤して、ゲートウェイのすべての MGCP エンドポイントの最大ファックス送信レートを指定します。

このコマンドの値はファックスの伝送速度にのみ適⽤され、ファックス自体の品質には影響しません。伝送速度の値が高い (14,400 bps) ほど伝送速度は速くなりますが、利⽤できる帯域幅のかなり⼤きな部分を使⽤します。転送速度の値が低いほど (例えば 2400 bps)、転送速度は遅くなりますが、使⽤する帯域幅が小さくなります。



- (注) MGCP ファックス レートは、コール アドミッションおよびコントロールまたは帯域幅の割り当てをサポートしていません。

MGCP ファックス速度が、音声コーデックで許容される最高の伝送速度に設定されている場合 (**mgcpfaxratevoice**) を使用する場合、すべての MGCP エンドポイントは T.38 ファックス コールをこの速度に制限します。たとえば、音声コーデックが G.711 である場合、14,400 bps は 64-kbps 音声レートより小さいため、ファックス送信は最大 14,400 bps で行われます。音声コーデックが G.729 (8 kbps) の場合、ファックス伝送速度は最も近い 7200 bps のファックス速度に制限されます。



- ヒント ファックス レートの伝送速度が同じダイヤル ピアのコーデック レートより高く設定されている場合、ファックス伝送のためにネットワークを介して送信されるデータは、Resource Reservation Protocol (RSVP) 用に予約された帯域幅を超えます。 **mgcpfaxrate** コマンドは、T.30 ネゴシエーション (DIS/DCS) の最大ファックス速度を設定します。FAX 機は、低いレートに交渉することはできますが、高いレートはできません。

保存されたゲートウェイ設定には、既定値以外の値のみが表示されます。

## 例

次の例では、MGCP T.38 ファックス リレー セッションの最大ファックス転送速度を 9600 bps に設定します。

```
Router(config)# mgcp fax rate 9600
```

次の例では、MGCP T.38 ファックス リレー セッションの最大ファックス レート伝送速度を 12,000 bps に設定しています。

```
Router(config)# mgcp fax rate 12000
```

## 関連コマンド

| コマンド                     | 説明                                   |
|--------------------------|--------------------------------------|
| <b>showcallactivefax</b> | 現在の T.38 ファックスセッションの最大ファックス速度を表示します。 |
| <b>showmgcp</b>          | MGCP ファックス レートの現在の設定を表示します。          |

# mgcp fax-relay

Super Group 3 (SG3) FAX マシンが Media Gateway Control Protocol (MGCP) FAX リレー用に G3 速度まで下げてネゴシエートできるように、FAX マシン側からのトーンの抑制を可能にするには、**mgcpfax-relay** コマンドをグローバル設定モードで使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpFAX リレー {ans-disable | sg3-to-g3}**  
**いいえ mgcpfax-relay {ans-disable | sg3-to-g3}**

## 構文の説明

|                    |                                                                              |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ans-disable</b> | 発信元の SG3 ファックス マシンからの ANS トーンを抑制し、これらのマシンがファックス リレーを使用して G3 の速度で動作できるようにします。 |
| <b>sg3-to-g3</b>   | SG3 マシンがファックス リレーを使用して G3 速度にネゴシエートすることを許可します。                               |

## コマンド デフォルト

このコマンドが有効になっていない場合、ANS トーンが検出されたときにモデムのアップスピードが発生する可能性があり、SG3 から SG3 へのファックス リレー通信がサポートされていないため、おそらく失敗します。

## コマンド モード

グローバル設定 (config)

## コマンド履歴

| リリース       | 変更                                                    |
|------------|-------------------------------------------------------|
| 12.4(4)T   | このコマンドが <b>mgcpfax-relaysg3-to-g3</b> コマンドとして導入されました。 |
| 12.4(6)T   | この機能が Cisco 1700 シリーズおよび Cisco 2800 シリーズに実装されました。     |
| 12.4(20)T1 | この <b>ans-disable</b> キーワードが追加されました。                  |
| 12.4(24)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(24)T に統合されました。         |

## 使用上のガイドライン

**mgcpfax-relayans-disable** コマンドが入力されていると、ANS トーンが聞こえても Modem Up Speed が機能しません。**ans-disable** キーワードが入力された場合、ANS トーンは TIC5510 DSP により DSP レベルでスケルチされるため、モデム関連のセッションが失敗します。

**mgcpfax-relaysg3-to-g3** コマンドが入力されると、DSP ファックスリレーファームウェアによって V.8 CM トーンが抑制され、ファックス機器はファックスストリームを G3 速度にネゴシエートします。

## 例

次のグローバル設定の出力は、V.8 ファックス CM メッセージ抑制が MGCP シグナリングタイプの音声ダイヤル ピアで有効になっているところを示しています。

```
Router(config)# mgcp fax-relay sg3-to-g3
```

## 関連コマンド

| コマンド                      | 説明                                                                                                                     |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>fax-relay</b> (音声サービス) | SG3 マシンの ANS トーンを無効にして、ファックスリレーを使用して G3 の速度で動作させ、2 つの SG3 ファックス マシン間のファックスストリームが VoIP ダイアルピアで G3 速度にネゴシエートすることを可能にします。 |
| <b>mgcpfaxt38</b>         | MGCP FAX T.38 パラメータを指定します。                                                                                             |

## mgcp fax t38

MGCP ファックス T.38 パラメータを設定するには、**mgcpファックスt38**コマンドをグローバル コンフィギュレーションモードで起動します。パラメータをデフォルトに戻すには、**no** 形式で指定します。

**mgcpファックスt38 {ecm | ゲートウェイforce | hs\_redundancy要因 | inhibit | ls\_redundancy要因 | nsfhexcode}**

いいえ**mgcpファックスt38 {ecm | ゲートウェイforce | hs\_redundancy | inhibit | ls\_redundancy | nsf}**

### 構文の説明

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ecm</b>                 | ゲートウェイのエラー訂正モード (ECM) を有効にします。デフォルトでは、ECM は有効になっていません。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <b>gatewayforce</b>        | T.38 および NSE を使用する機能がコール セットアップ時に MGCP コール エージェントによってネゴシエートできない場合でも、Cisco 独自の 名前付きシグナリング イベント NSE を使用する、ゲートウェイ制御の T.38 FAX リレーを強制します。デフォルトでは、「force」は無効になっています。                                                                                                                                                                   |
| <b>hs_redundancyfactor</b> | 冗長 T.38 FAX パケットを送信します。高速 V.17、V.27、および V.29 T.4 または T.6 ファックス画像データのデータ冗長性を指します。 <b>hs_冗長性</b> パラメータの 係数 範囲は 0 から 2 です。既定は 0 (冗長性なし) です。<br><br>(注)<br><b>hs_冗長性</b> パラメータの値を 0 より大きい値に設定すると、FAX 呼び出しが消費するネットワーク帯域幅が大幅に増加します。                                                                                                     |
| <b>inhibit</b>             | ゲートウェイの T.38 の使用を無効にします。デフォルトでは、T.38 は有効になっています。<br><br>(注)<br>MGCP ゲートウェイが自動設定機能を使用する場合、新しい構成がダウンロードされるたびに、 <b>mgcpfaxt38inhibit</b> コマンドがゲートウェイで自動的に構成されます。Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.4T 以降、このコマンドの自動設定は削除されました。自動設定を使用し、Cisco IOS バージョン 12.4T 以降を実行している MGCP ゲートウェイでは、 <b>mgcpfaxt38inhibit</b> コマンドを手動で設定し、T.38 ファックスリレーを使用します。 |
| <b>ls_redundancyfactor</b> | 冗長 T.38 FAX パケットを送信します。 <b>ls_redundancy</b> パラメータは、低速 V.21 ベース T.30 ファックスプロトコルにおけるデータ冗長性を参照します。 <b>ls_redundancy</b> パラメータの <i>factor</i> 範囲は 0 から 2 です。デフォルトは 0 (冗長性なし) です。                                                                                                                                                     |

|                    |                                                                                                                                        |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>nsf16</b> 進数コード | 非標準機能 (NSF) コードを <i>hexcode</i> 引数で指定したコードで上書きします。 <i>word</i> 引数には、2 桁の 16 進数の国コードと 4 桁の 16 進数の製造元コードを指定します。デフォルトでは、NSF コードは上書きされません。 |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## コマンド デフォルト

**e**cm--disable**d**gate**w**ay**f**orce--disable**d**h**s**\_redu**nd**ancy--0**i**nhibit--無効 (T.38 は有効です。上の表のメモを参照してください。) **l**s\_redu**nd**ancy--0**n**sf--オーバーライドなし

## コマンド モード

グローバル構成

## コマンド履歴

| リリース       | 変更                                                                                                                                                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.2(2)XB  | このコマンドが導入されました。                                                                                                                                                                                |
| 12.2(8)T   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合され、プラットフォーム Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 7200 シリーズに実装されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは、このリリースには含まれていません。 |
| 12.2(11)T  | このコマンドはこのリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5800 に適用されます。                                                                                                                |
| 12.2(11)T2 | このコマンドは変更されました。 <b>g</b> ate <b>w</b> ay <b>f</b> orce キーワードペアが導入されました。                                                                                                                        |
| 12.2(15)T  | このコマンドが Cisco 1751 および Cisco 1760 に実装されました。                                                                                                                                                    |
| 12.4T      | このコマンドは変更されました。 <b>m</b> gcp <b>f</b> ax <b>t</b> 38 <b>i</b> nhibit コマンドが、デフォルトで MGCP ゲートウェイに設定されることがなくなりました。                                                                                 |

## 使用上のガイドライン

非標準機能 (NSF) は、特定の FAX 製造元が製品をお互いに区別するために FAX に組み込んだ機能です。

T.38 FAX リレーを無効にするには、**m**gcp**f**ax**t**38抑制 コマンドを使用します。

一部の MGCP コールエージェントは、T.38 および NSE 機能をアダプタイズするセッション記述プロトコル (SDP) メッセージの部分を適切に渡しません。結果として、これらのコールエージェントによって制御されるゲートウェイは、NSE を使用して、NSE を使用する他のゲートウェイに T.38 ファックス リレーの信号を送ることができません。 **m**gcp**f**ax**t**38**g**ate**w**ay**f**orce コマンドは、MGCPゲートウェイと別のゲートウェイ間でのNSEの使用とゲートウェイ制御のT.38 FAXリレーを確実にする方法を提供します。もう一方のゲートウェイには、H.323、Session Initiation Protocol (SIP)、または MGCP ゲートウェイを使用できます。NSE を使用して T.38 ファックス リレー モードの切り替えを通知するように、両方のゲートウェイを設定する必要があります。H.323 および SIP ゲートウェイでは、 **f**ax**p**roto**c**o**l**t38**n**se**f**orce コマンドを使って T.38 ファックスリレーのNSEの使用を指定します。MGCP ゲートウェイでは、 **m**gcp**f**ax**t**38ゲートウェイ**f**orce コマンドを使用します。

## 例

次の例では、ゲートウェイ制御の T.38 ファックス リレー シグナリングに NSE を使用するようにゲートウェイを設定します。

```
Router(config)# mgcp fax t38 gateway force
```

次の例では、MGCP T.38 ファックス リレーと ECM が有効になっており、NSF オーバーライドが無効になっており、低速度と高速の冗長性がデフォルト値の 0 に設定されています。

```
Router(config)# mgcp fax t38 ecm
```

```
Router(config)# exit
```

```
Router# show mgcp
```

```
MGCP Admin State ACTIVE, Oper State ACTIVE - Cause Code NONE
MGCP call-agent: 172.18.195.147 2436 Initial protocol service is MGCP 0.1
MGCP block-newcalls DISABLED
MGCP send RSIP for SGCP is DISABLED
MGCP quarantine mode discard/step
MGCP quarantine of persistent events is ENABLED
MGCP dtmf-relay for VoIP disabled for all codec types
MGCP dtmf-relay for VoAAL2 disabled for all codec types
MGCP voip modem passthrough mode: CA, codec: g711ulaw, redundancy: DISABLED,
MGCP voaal2 modem passthrough mode: NSE, codec: g711ulaw
MGCP TSE payload: 119
MGCP T.38 Named Signalling Event (NSE) response timer: 200
MGCP Network (IP/AAL2) Continuity Test timer: 200
MGCP 'RTP stream loss' timer disabled
MGCP request timeout 500
MGCP maximum exponential request timeout 4000
MGCP gateway port: 2427, MGCP maximum waiting delay 3000
MGCP restart delay 0, MGCP vad DISABLED
MGCP rtrcac DISABLED
MGCP system resource check DISABLED
MGCP xpc-codec: DISABLED, MGCP persistent hookflash: DISABLED
MGCP persistent offhook: ENABLED, MGCP persistent onhook: DISABLED
MGCP piggyback msg ENABLED, MGCP endpoint offset DISABLED
MGCP simple-sdp DISABLED
MGCP undotted-notation DISABLED
MGCP codec type g729r8, MGCP packetization period 10
MGCP JB threshold lwm 30, MGCP JB threshold hwm 150
MGCP LAT threshold lwm 150, MGCP LAT threshold hwm 300
MGCP PL threshold lwm 1000, MGCP PL threshold hwm 10000
MGCP CL threshold lwm 1000, MGCP CL threshold hwm 10000
MGCP playout mode is adaptive 60, 4, 200 in msec
MGCP IP ToS low delay disabled, MGCP IP ToS high throughput disabled
MGCP IP ToS high reliability disabled, MGCP IP ToS low cost disabled
MGCP IP RTP precedence 5, MGCP signaling precedence: 3
MGCP default package: dt-package
MGCP supported packages: gm-package dtmf-package trunk-package line-package
                        hs-package rtp-package as-package atm-package ms-package
                        dt-package mo-package res-package mt-package
                        dt-package mo-package res-package mt-package
MGCP Digit Map matching order: shortest match
SGCP Digit Map matching order: always left-to-right
MGCP VoAAL2 ignore-lco-codec DISABLED
MGCP T.38 Fax is ENABLED
MGCP T.38 Fax ECM is ENABLED
MGCP T.38 Fax NSF Override is DISABLED
```

```
MGCP T.38 Fax Low Speed Redundancy: 0
MGCP T.38 Fax High Speed Redundancy: 0
```

次の例は、NSF がオーバーライドされることを示します。

```
MGCP T.38 Fax NSF Override is ENABLED: AC04D3
```

#### 関連コマンド

| コマンド               | 説明                                          |
|--------------------|---------------------------------------------|
| <b>faxprotocol</b> | H.323 および SIP ゲートウェイでファックスプロトコルパラメータを指定します。 |

# mgcp ip qos dscp

Media Gateway Control Protocol (MGCP) パケットに差別化されたサービスのコードポイント (DSCP) を設定するには、 **mgcpipqosdscp** コマンドをグローバル設定モードで使⽤します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使⽤します。

```
mgcpipqosDSCP {dscp-valueAF 番号cs-number | default | ef} {メディア | シグナリング}  
いいえmgcpipqosDSCP {dscp-valueAF 番号cs-number | default | ef} {メディア | シグナリング}
```

構文の説明

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| dscp-value | DSCP 値です。値の範囲は 0 ～ 63 です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| AF 番号      | <div>転送保証ビットパターン。転送保証ビット パターンは次のとおりです。</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>• af11</li><li>• af12</li><li>• af13</li><li>• af21</li><li>• af22</li><li>• af23</li><li>• af31</li><li>• af32</li><li>• af33</li><li>• af41</li><li>• af42</li><li>• af43</li></ul></div> <div>詳細については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。</div> |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>cs-number</b> | <p>クラスセクタのコードポイント。クラスセクタのコードポイントは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• cs1</li> <li>• cs2</li> <li>• cs3</li> <li>• cs4</li> <li>• cs5</li> <li>• cs6</li> <li>• cs7</li> </ul> <p>詳細については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。</p> |
| <b>デフォルト</b>     | DSCP を既定のビットパターンに設定します。詳細については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。                                                                                                                                                                                 |
| <b>ef</b>        | DSCP を高速転送ビットパターンに設定します。詳細については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。                                                                                                                                                                                |
| <b>メディア</b>      | メディアペイロードパケットに DSCP を適用します。                                                                                                                                                                                                                  |
| <b>シグナリング</b>    | シグナリングパケットに DSCP を適用します。                                                                                                                                                                                                                     |

**コマンド デフォルト**

DSCP はメディアペイロードパケットとシグナリングパケットに適用されます。

**コマンド モード**

グローバル構成 (config)

**コマンド履歴**

|             |                                                    |
|-------------|----------------------------------------------------|
| <b>リリース</b> | <b>変更</b>                                          |
| 15.0(1)M    | このコマンドはCisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで導入しました。 |

**使用上のガイドライン**

**mgcpIPqosDSCP** コマンドを使用して、サービスの質のDSCPを設定します。このコマンドは、音声およびシグナリングトラフィックの優先順位を提供します。

**例**

次の例では、MGCP パケットの DSCP を設定する方法を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# mgcp ip qos dscp af31 signaling
```

関連コマンド

| コマンド            | 説明                  |
|-----------------|---------------------|
| <b>showmgcp</b> | MGCP パラメータの値を表示します。 |

## mgcp ip-tos

メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) 接続の IP タイプ オブ サービス (ToS) を有効または無効にするには、**mgcpip-tos** コマンドをグローバル設定モードで 사용합니다。既定の設定に戻すには、このコマンドを **no** 形式で 사용합니다。

**mgcpip-tos** {**high-reliability** | **high-throughput** | **low-cost** | **low-delay** | RTP優先順位値 | シグナリング優先順位値}

いいえ **mgcpip-tos** {**high-reliability** | **high-throughput** | **low-cost** | **low-delay** | RTP優先順位値 | シグナリング優先順位値}

### 構文の説明

|                                 |                                                                                                                                                          |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>high-reliability</b>         | 高信頼性 ToS。                                                                                                                                                |
| <b>high-throughput</b>          | 高スループット ToS。                                                                                                                                             |
| <b>low-cost</b>                 | 低コストのToS。                                                                                                                                                |
| <b>low-delay</b>                | 低遅延のToS。                                                                                                                                                 |
| <b>rtp優先順位値</b>                 | Real-Time Transport Protocol (RTP) IP 優先ビットの値。範囲は 0 ～ 7 です。デフォルトは 3 です。<br><br>(注)<br>Cisco IOS Release 12.1(3)T では、このパラメータは <b>precedencevalue</b> でした。 |
| <b>signalingprecedencevalue</b> | MGCP User Datagram Protocol (UDP) および Real-Time Transport Protocol Control Protocol (RTCP) シグナリング パケットの IP 優先順位の値。範囲は 0 ～ 7 です。デフォルトは 3 です。              |

### コマンド デフォルト

サービスが無効になっています。RTP 優先順位: 3 シグナリングの優先順位: 3

### コマンド モード

グローバル設定

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                                                                                   |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.1(1)T  | このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。                                                                                                       |
| 12.1(3)T  | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924                                                                   |
| 12.1(5)XM | このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。 <b>precedence</b> パラメータは <b>rtpprecedence</b> に変更されました、そして、 <b>signalingprecedence</b> パラメータが追加されました。 |

| リリース      | 変更                                                                |
|-----------|-------------------------------------------------------------------|
| 12.2(2)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。 |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。                   |

**使用上のガイドライン**    グループ内のキーワード **high-reliability**, **high-throughput**, **low-cost**、および **low-delay** のうち1つだけはいつでも有効にできます。1つのキーワードを有効にすると、アクティブであった他のすべてのキーワードが無効になります。これらのキーワードのいずれかを有効にしても、**優先順位** 値には影響しません。

**no** フォームの **mgcpip-tos** コマンドは最初の 4 つのキーワードを無効にし、**precedencevalue** を 3 に戻します。

**precedence** の新しい値を設定すると、古い値は消去されます。

**例**

次の例では、**low-delay** キーワードを有効にし、前の 3 つのキーワードを無効にします。

```
Router(config)# mgcp ip-tos high-rel
Router(config)# mgcp ip-tos high-throughput
Router(config)# mgcp ip-tos low-cost
Router(config)# mgcp ip-tos low-delay
Router(config)# mgcp ip-tos rtp precedence 4
```

| 関連コマンド | コマンド | 説明               |
|--------|------|------------------|
|        | mgcp | MGCP デーモンを開始します。 |

## mgcp lawful-intercept

Media Gateway Control Protocol (MGCP) の合法的傍受機能を有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **mgcplawful-intercept** コマンドを使用します。Mgcp の機能を無効にするには、このコマンドのno形式を使用します。

### mgcplawful-intercept

いいえmgcplawful-intercept

#### 構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

#### コマンド デフォルト

合法的傍受機能は、MGCP で有効になっています。

#### コマンド モード

グローバル構成

#### コマンド履歴

| リリース      | 変更              |
|-----------|-----------------|
| 12.4(20)T | このコマンドが導入されました。 |

#### 使用上のガイドライン

合法的傍受機能とは、司法または行政命令の承認に従い、法執行機関が回線およびパケットモード通信の電子監視を実施するプロセスのことです。**lawful-intercept** 機能はmgcp でデフォルトで有効になっています。**no mgcp lawful-intercept** コマンドは、mgcp の合法的傍受機能を無効にします。

#### 例

次の例は、電子監視を無効にする方法を示しています。

```
Router(config)# no mgcp lawful-intercept
```

#### 関連コマンド

| コマンド             | 説明                  |
|------------------|---------------------|
| <b>デバッグ mgcp</b> | MGCP でデバッグを有効にします。  |
| <b>showmgcp</b>  | MGCP パラメータ設定を表示します。 |

# mgcp max-waiting-delay

メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) の最大待機遅延 (MWD) を指定するには、グローバル設定モードで**mgcpmax-waiting-delay**コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp最大待機遅延**ミリ秒  
**いいえmgcp最大待機遅延**

|       |     |                                                                   |
|-------|-----|-------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | ミリ秒 | 再起動後に待機する時間 (ミリ秒)。 範囲は 0 から 600000 (600 秒) です。 既定は 3000 (3 秒) です。 |
|-------|-----|-------------------------------------------------------------------|

コマンド デフォルト 3000 ms

コマンド モード グローバル設定

|        |           |                                                                    |
|--------|-----------|--------------------------------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース      | 変更                                                                 |
|        | 12.1(1)T  | このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。                                     |
|        | 12.1(3)T  | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924 |
|        | 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。                                     |

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用して、再起動中 (RSIP) メッセージを再起動方法と共にコールエージェントに送信します。 このコマンドは、再起動後にすべての MGCP ゲートウェイが同時に接続しようとすることによって引き起こされるトラフィックのボトルネックを防ぐのに役立ちます。

**例** 次に、MGCP 最大待機遅延を 600 ms に設定する例を示します。

```
Router(config)# mgcp max-waiting-delay 600
```

|        |                          |                                        |
|--------|--------------------------|----------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                     | 説明                                     |
|        | <b>mgcp</b>              | MGCP デーモンを開始します。                       |
|        | <b>mgcprestart-delay</b> | RSIP メッセージで送信されるグレースフル ティアダウン方法を設定します。 |

## mgcp modem passthrough codec

ゲートウェイが VoIP および VoATM Adaptation Layer 2 (VoAAL2) 構成でモデムとファックスデータを送受信するためのコーデックを選択するには、**mgcp** モデム<グローバル設定モード>の **/a13>pass** スルー-codec コマンド。モデムおよび FAX データのサポートを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp** モデムパススルー {voip | voaal2} コーデック {g711alaw | g711ulaw}  
 言いえ **mgcp** modem パススルー {voip | voaal2}

### 構文の説明

|                 |                                              |
|-----------------|----------------------------------------------|
| <b>voip</b>     | VoIP 音声プロトコル。                                |
| <b>voaal2</b>   | VoAAL2 音声プロトコル。                              |
| <b>g711alaw</b> | モデムおよびファックスの切り替え中の速度変更用の G.711 a-law コーデック   |
| <b>g711ulaw</b> | モデムおよびファックスの切り替え中の速度変更のための G.711 u-law コーデック |

### コマンド デフォルト

**VOIP および VOAAL2 向け g711u-law コーデック**

### コマンド モード

グローバル設定

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                |
|-----------|-------------------------------------------------------------------|
| 12.1(3)T  | このコマンドが導入されました。                                                   |
| 12.1(5)XM | このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。                                    |
| 12.2(2)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。 |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。                   |

### 使用上のガイドライン

応答トーンはモデムまたはファックス送信のいずれかにより発生する可能性があるため、ファックス パススルーにこのコマンドを使用します。コーデックを選択すると、ネットワークの状態に合わせてコーデックの種類と速度が動的に変更されます。

### 例

次の例では、ゲートウェイが G711 a-law コーデックを使用して VoAAL2 モデムまたは FAX データを送受信できるようにします。

```
Router(config)# mgcp modem passthrough voaal2 codec g711alaw
```

|        |                                        |                                      |
|--------|----------------------------------------|--------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                                   | 説明                                   |
|        | mgcp                                   | MGCP デーモンを開始します。                     |
|        | mgcpモデムパススルーモード                        | ゲートウェイ上でのモデムおよびファックス送信の速度変更方法を設定します。 |
|        | mgcpquarantinepersistent-eventsdisable | VoIP モデムおよびファックス送信の冗長性を有効にします。       |
|        | mgcptsepayload                         | モデムおよびファックス動作のTSE ペイロードを有効にします。      |

## mgcp modem passthrough mode

VoIP および VoATM Adaptation Layer 2 (VoAAL2) 構成で、ゲートウェイがモデムと FAX データを送信および受信するための速度の変更方法を設定するには、グローバル設定モードで **mgcpmodempassthroughmode** コマンドを使用します。モデムおよび FAX データのサポートを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp** モデムパススルー {**voip** | **voaal2**} モード {**cisco** | **nse**}  
 いいえ **mgcp** モデムパススルー {**voip** | **voaal2**}

### 構文の説明

|               |                                                                                |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| <b>VoIP</b>   | VoIP。                                                                          |
| <b>voaal2</b> | Voice over AAL2 コールは、Annex K タイプ 3 パケットを使用します。                                 |
| <b>cisco</b>  | プロトコルに基づいて、モデム速度を変更するための Cisco 独自の方法。                                          |
| <b>nse</b>    | 名前付きシグナリング イベント (NSE) ベースのモデム速度を変更する方法。VoAAL2 構成の場合、AAL2 付録 K (タイプ 3) が使用されます。 |

### コマンド デフォルト

NSE ベースの方法

### コマンド モード

グローバル設定 (config)

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                   |
|-----------|----------------------------------------------------------------------|
| 12.1(3)T  | このコマンドが導入されました。                                                      |
| 12.1(5)XM | このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。                                       |
| 12.2(2)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズルータに実装されました。 |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。                      |

### 使用上のガイドライン

応答トーンはモデムまたはファックス送信のいずれかにより発生する可能性があるため、ファックス パススルーにこのコマンドを使用します。

速度アップとは、ネットワークの状態に合わせてコーデックのタイプと速度を動的に変更する方法です。

**nse** キーワードを使用する場合は、**mgcptse** ペイロード コマンドも使用する必要があります。

デフォルトの **nse** キーワードと **voip** または **voaal2** キーワードを使用する場合、**showrun** コマンドは **mgcp modem passthroughmode** コマンドを設定出力に表示しませんが、**cisco** キーワードに対してはコマンドが表示されます。**showmgcp** コマンドは、**nse** と **cisco** キーワードの両方の設定を表示します。

例

次の例では、ゲートウェイが NSE モデム速度変更メソッドを使用して、VoIP モデムまたは FAX データを送受信できるようにします。

```
Router(config)# mgcp modem passthrough voip mode nse
```

|        |                                        |                                        |
|--------|----------------------------------------|----------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                                   | 説明                                     |
|        | mgcp                                   | MGCP デーモンを開始します。                       |
|        | mgcpmodempassthroughcodec              | ゲートウェイでのモデムおよびファックス送信に使用するコーデックを選択します。 |
|        | mgcpquarantinepersistent-eventsdisable | VoIP モデムおよびファックス送信の冗長性を有効にします。         |
|        | mgcptsepayload                         | モデムおよびファックス動作の TSE ペイロードを有効にします。       |

## mgcp modem passthrough voip redundancy

VoIP 構成でモデムと FAX データを送受信するゲートウェイの冗長性を有効にするには、グローバル設定モードで **mgcpmodempassthroughvoipredundancy** コマンドを使用してください。冗長性を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp モデムパススルーvoip 冗長性**[sample-duration[10 | 20]][最大セッション数number]  
**いいえmgcp モデムパススルーvoip 冗長性**[sample-duration[10 | 20]][最大セッション数number]

### 構文の説明

|                         |                                                                                          |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>sample-duration</b>  | (オプション)パケット冗長性がアクティブなときの最大の Real-time Transport Protocol (RTP) パケットの持続時間を指定します。単位はミリ秒です。 |
| <b>10   20</b>          | (オプション) 冗長サンプル継続時間をミリ秒 (ms) で指定します。既定のサンプル継続時間は 10 です。                                   |
| <b>maximum-sessions</b> | (オプション) 各サブシステムで同時に実行できる冗長セッションの最大数を指定します。                                               |
| 数                       | 各モジュールの最大モデム パススルー セッションの数。 値の範囲は 1 ～ 30 です。                                             |

### コマンド デフォルト

デフォルトの冗長性サンプル期間は 10 ミリ秒です。

### コマンド モード

グローバル構成 (config)

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.1(5)XM | このコマンドが導入されました。                                                                                                                                                                                                         |
| 12.2(2)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。                                                                                                                                                       |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合され、Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。                                                                                                                                       |
| 15.0(1)M  | このコマンドは、Cisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで修正されました。<br><i>number</i> 引数と次のキーワードが追加されました: <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>sample-duration</b></li> <li>• <b>10 20</b></li> <li>• <b>最大セッション数</b></li> </ul> |

### 使用上のガイドライン

**modempassthroughVoIPRedundancy** コマンドを使用してください。これは、応答トーンがモデムまたは FAX 送信のいずれからも来る可能性があるためです。このコマンドにより、パケット

の単一の繰り返し (RFC 2198 を使用) が有効になり、パケット損失から保護することで信頼性が向上します。冗長性がオンの場合、ゲートウェイのすべてのコールが影響を受けます。

速度アップとは、ネットワークの状態に合わせてコーデックの種類と速度を動的に変更する方法です。

例

次の例では、ゲートウェイで VoIP モデムとファックス送信の冗長性を有効にする方法を示します:

```
Router(config)# mgcp modem passthrough voip redundancy sample-duration 20
```

関連コマンド

| コマンド                            | 説明                                   |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| <b>mgcp</b>                     | MGCP デーモンを開始します。                     |
| <b>mgcpモデムパススルーコーデック</b>        | モデムおよびファックス送信のコーデックを選択します。           |
| <b>mgcpmodempassthroughmode</b> | ゲートウェイ上でのモデムおよびファックス送信の速度変更方法を設定します。 |
| <b>mgcptsepayload</b>           | モデムおよびファックス動作の TSE ペイロードを有効にします。     |

## mgcp modem passthru

ゲートウェイでモデムと FAX データの送受信を有効にするには、グローバル設定で **mgcpmodempassthru** コマンドを使用します。モデムおよび FAX データのサポートを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcp** モデムパススルー {**cisco** | **ca**}

いいえ **mgcp** モデムパススルー

### 構文の説明

|              |                                                                                     |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>cisco</b> | ゲートウェイはモデム/FAX トーンを検出すると、コーデックを G.711 に切り替え、アナログデータをパススルーするようにします。                  |
| <b>ca</b>    | ゲートウェイは、モデム/FAX トーンを検出すると、アナログデータをパススルーするように、コーデックを G.711 に切り替えるようにコールエージェントに警告します。 |

### コマンドデフォルト

**ca**

### コマンドモード

グローバル設定

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                             |
|-----------|--------------------------------|
| 12.1(3)T  | このコマンドが MGCP に追加されました。         |
| 12.2(11)T | このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。 |

### 使用上のガイドライン

**cisco** キーワードが有効になり、モデム/ファックストーンが検出されると、ゲートウェイはコーデックを **G.711** に切り替え、アナログデータをリモートゲートウェイに送信します。また、リモートゲートウェイは、自分の通話側のコーデックを **G.711** に切り替え、アナログデータのパススルーを許可します。

**ca** キーワードが有効になっているときにモデム/FAX トーンが検出されると、ゲートウェイはコールエージェントにコーデックを **G.711** に切り替えるよう警告し、アナログデータの通過を許可する。データパススルーを成功させるには、コールエージェントは **MDCX** 信号を **G.711** コーデックに送信する必要があります。

### 例

次の例では、モデムまたはファックスデータを送受信するようにゲートウェイを設定します:

```
Router(config)# mgcp modem passthru cisco
```

関連コマンド

| コマンド | 説明               |
|------|------------------|
| mgcp | MGCP デーモンを開始します。 |

## mgcp modem relay voip gateway-xid

2つのVoIPゲートウェイ間の圧縮パラメータの帯域内ネゴシエーションを、Media Gateway Control Protocol (MGCP) を使って有効にするには、**mgcpmodemrelayVoIPgateway-xid** コマンドをグローバル設定モードで指定します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpmodemrelayVoIPgateway-xid[compress {backward | both | forward | no}][辞書値][文字列の長さ値]**

いいえmgcpモデムリレーvoipgateway-xid

### 構文の説明

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>compress</b>        | (任意) データフローが圧縮される方向です。通常のダイヤルアップの場合、圧縮は両方向で有効にする必要があります。<br><br>1つまたは複数の方向の圧縮を無効にする場合があります。これは通常、テスト中またはゲームアプリケーションに対して行われますが、圧縮が両方向に有効になっている通常のダイヤルアップでは行われません。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>後方</b>-- 後方の圧縮のみを有効にします。</li><li>• <b>両方向</b>-- 両方向の圧縮を有効にします。通常のダイヤルアップでは、これが推奨される設定です。これはデフォルトです。</li><li>• <b>順方向</b>-- 順方向の圧縮のみを有効にします。</li><li>• <b>No</b> -- 両方向の圧縮を無効にします。</li></ul> |
| <b>dictionaryvalue</b> | (オプション) V.42 <i>bis</i> パラメータで、圧縮アルゴリズムの特性を指定します。値の範囲は 512 ~ 2048 です。デフォルトは 1024 です。<br><br>(注)<br>お使いのモデムは、この範囲より大きい値をサポートしている場合があります。双方が受け入れ可能な値は、モデムコールのセットアップ時にネゴシエートされます。                                                                                                                                                                                                                          |
| <b>文字列-値-長さ</b>        | (オプション) V.42 <i>bis</i> パラメータで、圧縮アルゴリズムの特性を指定します。値の範囲は 16 ~ 32 です。デフォルトは 32 です。<br><br>(注)<br>お使いのモデムは、この範囲より大きい値をサポートしている場合があります。双方が受け入れ可能な値は、モデムコールのセットアップ時に協議されます。                                                                                                                                                                                                                                   |

### コマンドデフォルト

コマンド: 有効 圧縮: 両方 辞書: 1024 文字列の長さ: 32

### コマンドモード

グローバル設定

|        |           |                                                                                                               |
|--------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コマンド履歴 | リリース      | 変更                                                                                                            |
|        | 12.2(11)T | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3620、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco AS5300。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、モデムリレーのXIDネゴシエーションを有効にします。既定では有効になっています。

このコマンドは VoIP 通話にのみ影響し、Voice over ATM Adaption Layer 2 (VoAAL2) 通話には影響しません。これは、MGCP が音声およびファックス/モデムに対しては VoAAL2 コールをサポートしているが、モデムリレーに対してはサポートしていないためです。

このコマンドがネットワークの両方の VoIP ゲートウェイで有効な場合、ゲートウェイは、さまざまな圧縮パラメータのインバンドネゴシエーションに従事する必要があるかどうかを判断します。このコマンドの残りのキーワードは、以降のインバンドネゴシエーションでのこのゲートウェイのネゴシエーションポスチャを指定します (インバンドネゴシエーションが2つのゲートウェイによって合意されていると想定)。

**compress**、**dictionary**、および **string-length** キーワードはデジタル信号プロセッサ (DSP) 固有で、xid ネゴシエーションに関連します。このコマンドが無効になっている場合、それらはすべて無関係です。アプリケーション (MGCP または H.323) はこれらの設定値を DSP に渡すだけで、DSP がそれらを必要とします。

## 例

次の例では、両方向の圧縮、辞書サイズ 1024、圧縮アルゴリズムの文字列長 32 で、VoIP ゲートウェイの圧縮パラメータのインバンドネゴシエーションを有効にします。

```
mgcp modem relay voip gateway-xid compress both dictionary 1024 string-length 32
```

## 関連コマンド

| コマンド                                 | 説明                                                            |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| <b>mgcpmodemrelayvoipmode</b>        | MGCP VoIP コールのゲートウェイでモデムリレーモードサポートを有効にします。                    |
| <b>mgcpmodemrelayvoipsprtretires</b> | SPRT プロトコルが切断されるまでにパケット送信を試みる最大回数を設定します。                      |
| <b>modemrelaygateway-xid</b>         | MBCP を使用する2つの VoIP ゲートウェイ間の圧縮パラメータの帯域内ネゴシエーションを有効にします。        |
| <b>mgcptsepayload</b>                | TSE のゲートウェイ間の通信に必要な Modem Relay over VoIP を MGCP を使用して有効にします。 |

## mgcp modem relay voip latency

モデムリレートランスポートプロトコルと、Media Gateway Control Protocol (MGCP) を使用する IP ネットワークでの一方向の推定遅延を最適化するには、**mgcpmodemrelay voip latency** コマンドをグローバル設定モードで使します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使します。

**mgcp** モデムリレーVoIP遅延値

いいえ**mgcp** モデムリレーVoIP遅延

### 構文の説明

値 IP ネットワーク全体での推定単方向遅延です (ミリ秒単位)。値の範囲は 100 ～ 1000 です。デフォルトは 200 です。

### コマンドデフォルト

200 ms

### コマンドモード

グローバル構成

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                                                            |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.2(11)T | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3620、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco AS5300。 |

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、必要に応じて、IP ネットワーク全体での予測される一方向遅延 (ミリ秒単位) に値を設定することで、SPRT プロトコルの再送信タイマーを調整します。この値を変更すると、モデムリレー呼び出しのスループットまたは遅延の特性に影響を与える可能性があります。ほとんどのネットワークではデフォルト値の 200 を変更する必要はありません。

### 例

次の例では、IP ネットワークでの推定一方向遅延を 100 ms に設定しています。

```
mgcp modem relay voip latency 100
```

### 関連コマンド

| コマンド                               | 説明                                                            |
|------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| mgcp modem relay voip mode         | MGCP VoIP コールのゲートウェイでモデムリレーモードサポートを有効にします。                    |
| mgcp modem relay voip sprt retries | SPRT プロトコルが切断されるまでにパケット送信を試みる最大回数を設定します。                      |
| mgcp tse payload                   | TSE のゲートウェイ間の通信に必要な Modem Relay over VoIP を MGCP を使用して有効にします。 |

| コマンド                | 説明                                                               |
|---------------------|------------------------------------------------------------------|
| モデムリレー ゲートウェイ xid   | MBCP を使用する 2 つの VoIP ゲートウェイ間の圧縮パラメータの帯域内ネゴシエーションを有効にします。         |
| modem relay latency | Modem Relay Transport Protocol および IP ネットワーク全体での単方向の推定遅延を最適化します。 |

## mgcp modem relay voip mode

Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイで、VoIP 通話に対して名前付きシグナリングイベント (NSE) ベースのmodem relayモードを有効にするには、**mgcpmodemrelayvoipmode** コマンドをグローバル設定モードで使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpmodemrelayVoIP**モード[nse]コーデック[g711alaw | g711ulaw][冗長性]gw-controlled  
いいえmgcpモデムリレーvoipモード

### 構文の説明

|              |                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>nse</b>   | (オプション) データ転送速度の向上のために NSE モードを使用するようにゲートウェイに指示します。                                                                                                                                                                  |
| <b>コーデック</b> | (オプション) データ転送速度の向上に使用するコーデックを指定します。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>g711alaw</b>--E1 の G.711 a-law 64,000 ビット/秒 (bps)</li> <li>• <b>g711ulaw</b>--T1 の G.711 mu-law 64,000 bps。これはデフォルトです。</li> </ul> |
| <b>冗長性</b>   | モデムパススルー時のモデムトラフィックの packets 冗長性を指定します。(オプション) デフォルトでは、冗長性は無効になっています。                                                                                                                                                |
| <b>GW 制御</b> | モデムリレーパラメータを確立するための、ゲートウェイが設定した方法を指定します。                                                                                                                                                                             |

### コマンド デフォルト

NSE モードのモデムリレーが無効になっています。パススルーが有効になっている場合、すべてのモデムコールはパススルーコールとして通過しますが、これはモデムリレーコールよりも信頼性が低く、より多くの帯域幅を使用します。高速化には G.711 mu-law コーデックが使用されます。ゲートウェイがモデム/ファックスパススルーモードの間、冗長性は無効になり、重複するデータパケットは送信されません。

### コマンド モード

グローバル設定

### コマンド履歴

| リリース      | 変更                                                                                                            |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.2(11)T | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3620、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco AS5300。 |
| 12.4(2)T  | <b>nse</b> キーワードの使用に関するガイドラインが追加されました。                                                                        |
| 12.4(4)T  | <b>gw-controlled</b> キーワードが追加されました。                                                                           |
| 12.4(6)T  | この機能が Cisco 1700 シリーズおよび Cisco 2800 シリーズに実装されました。                                                             |

# 使用上のガイドライン

**mgcpmodemrelayvoipmode** コマンドを使用すると、非セキュア モデム リレー モードを MGCP VoIP コールに使用します。既定では、NSE モデムリレーモードは無効になっています。このコマンドはアップスピーディングを設定します。これは、ゲートウェイが音声コールの処理からモデム リレー コールの処理に切り替える間のモデム パススルーが中間ステップであるため必要です。

**mgcpモデムリレーVoIPモードnse** コマンドは TI C2510 デジタルシグナルプロセッサ (DSP) (旧称 TI C5510 DSP) ではサポートされていません。TI C549 DSP だけが NSE パラメータのネゴシエーションをサポートします。Cisco CallManager がコールエージェントとして使用される場合、**mgcpモデムリレーVoIP modense** コマンドはサポートされていません。

冗長性があると、ゲートウェイは RFC 2198 に従い、ファックス/モデムパススルーコール用に複製 (冗長) データパケットを生成します。これらのコールの信頼性を高めるために、冗長パケットの送信は、VoIP ネットワークでの過度のパケット損失を埋め合わせる必要があります。ゲートウェイの1つに冗長性が設定されている場合でも、コールは通過します。ゲートウェイは、非対称 (一方向) 冗長性を処理できます。

セキュリティ保護された電話機器 (STE) と IP-STE エンドポイント間で、状態シグナリング イベント (SSE) プロトコルを使用した安全な音声通話とデータ コールを有効にするには、**mgcpmodemrelayvoipmodesse** コマンドを使用します。SSE パラメータを設定する前に、**mgcppackage-capabilitymdste** コマンドを使用して、モデムリレー機能と SSE を有効にする必要があります。

**gw-controlled** キーワードは、モデムトランスポートパラメータが、コールエージェントによってネゴシエートされる代わりに、ゲートウェイ上で直接構成されることを指定します。

## 例

次の例では、MGCP モデム リレーを有効にし、次のものを指定します。高速化のための NSE モード、G.711 mu-law コーデック、パケット冗長性、モデム パススルー時のモデム トラフィックのゲートウェイ制御:

```
Router(config)# mgcp modem relay voip mode nse codec g711ulaw redundancy gw-controlled
```

## 関連コマンド

| コマンド                                 | 説明                                                                       |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| <b>mgcpmodemrelayvoipgateway-xid</b> | モデム リレー トランスポート プロトコルと IP ネットワーク全体での一方向の推定遅延を最適化します。                     |
| <b>mgcpmodemrelayvoipmodesse</b>     | SSE ベースのモデムリレーを有効にします。                                                   |
| <b>mgcppackage-capabilitymdste</b>   | IP-STE と STE の間のセキュアな通信パス上でのモデム接続の処理イベントと信号に対する MGCP ゲートウェイ サポートを有効にします。 |
| <b>mgcptsepayload</b>                | TSE のゲートウェイ間の通信に必要な Modem Relay over VoIP を MGCP を使用して有効にします。            |

## mgcp modem relay voip mode sse

SSE ベースのモデム リレー モードを有効にし、MGCP ゲートウェイで SSE パラメータを設定するには、グローバル設定モードで **mgcpmodemrelayvoipmodesse** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpmodemrelayVoIPモードsse[冗長性[間隔number | パケットnumber]][再試行値][t1時刻]**  
**いいえmgcpモデムリレーVoIPモードsse**

### 構文の説明

|                       |                                                                                                                        |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 冗長性                   | (オプション) モデムパススルー時のモデムトラフィックのパケット冗長性。デフォルトでは冗長性は無効になっています。                                                              |
| 間隔ミリ秒                 | (オプション) SSE の冗長転送のタイマーをミリ秒 (ms) で指定します。範囲は 5 - 50 ms です。デフォルトは 20 ms です。                                               |
| パケット番号                | (オプション) 切断するまでの SSE パケット再送信カウントを指定します。範囲は 1 から 5 パケットです。デフォルトは 3 パケットです。                                               |
| 再試行値                  | (オプション) 切断するまでの SSE パケットの再試行回数を指定します。間隔 <b>t1</b> ごとに繰り返されます。範囲は 0 から 5 の再試行です。デフォルトでは 5 回の再試行です。                      |
| <b>t1milliseconds</b> | (オプション) 次のエラー回復の SSE プロトコル状態マシンのリセット (通話の切断) に使用される最初の音声 SSE の繰り返し間隔をミリ秒で指定します。範囲は 500 - 3000 ms です。デフォルトは 1000 ms です。 |

### コマンド デフォルト

SSE モードはデフォルトで有効になっており、デフォルトのパラメータ値を使用します。

### コマンド モード

グローバル設定

### コマンド履歴

|          |                |
|----------|----------------|
| リリース     | 変更             |
| 12.4(2)T | このコマンドが導入されました |

### 使用上のガイドライン

**mgcpモデムリレーvoipモードsse**コマンドを使用して、セキュア電話装置 (STE) とモデム用 V.150.1 標準のサブセットである SSE プロトコルを使用した IP STE エンドポイント間のセキュアな MGCP 音声およびデータコールを行うための SSE パラメータを設定します。Real-Time Transport Protocol (RTP) エンコード イベント メッセージである SSE は、異なるメディア状態 (セキュアおよび非セキュア) 間の移行を調整するために使用されます。SSE パラメータを設定する前に、**mgcpパッケージ機能mdste**コマンドを使用して、モデムリレー機能と SSE を有効にする必要があります。

例

次の例では、冗長性間隔の冗長性パケット数、再試行回数、およびt1タイマー間隔のSSE パラメータを設定しています。

```
Router(config)# mgcp modem relay voip mode sse redundancy interval 20
Router(config)# mgcp modem relay voip mode sse redundancy packet 4
Router(config)# mgcp modem relay voip mode sse retries 5
Router(config)# mgcp modem relay voip mode sse t1 1000
```

関連コマンド

| コマンド                        | 説明                                                                                    |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| mgcppackage-capabilitymdste | IP セキュア電話装置 (IP-STE) と STE 間のセキュア通信パス上のモデム接続のイベントと信号を処理するための MGCP ゲートウェイ サポートを有効にします。 |

## mgcp modem relay voip sprt retries

SPRTプロトコルが切断されるまでにパケットの送信を試みる最大回数を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **mgcp モデム リレー voip sprt 再試行** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpモデムリレーvoipsprt再試行値**  
**いいえmgcpモデムリレーvoipsprt再試行**

|            |           |                                                                                                               |
|------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明      | 値         | 切断する前に、SPRT プロトコルがパケットの送信を試みる最大回数。 範囲は 6 ～ 30 です。デフォルトは 12 です。                                                |
| コマンド デフォルト | 12 回      |                                                                                                               |
| コマンド モード   | グローバル設定   |                                                                                                               |
| コマンド履歴     | リリース      | 変更                                                                                                            |
|            | 12.2(11)T | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3620、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco AS5300。 |

### 例

次の例では、SPRTプロトコルが切断する前にパケットの送信を試みる最大回数として 15 を設定します。

```
mgcp modem relay voip sprt retries 15
```

|        |                                   |                                                                  |
|--------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 関連コマンド | コマンド                              | 説明                                                               |
|        | mgcp modem relay voip gateway-xid | Modem Relay Transport Protocol および IP ネットワーク全体での単方向の推定遅延を最適化します。 |
|        | mgcp modem relay voip mode        | MGCP VoIP コールのゲートウェイでモデム リレー モード サポートを有効にします。                    |
|        | mgcp tse payload                  | TSE のゲートウェイ間の通信に必要な Modem Relay over VoIP を MGCP を使用して有効にします。    |
|        | modem relay gateway-xid           | MBCPを使用する2つのVoIPゲートウェイ間の圧縮パラメータの帯域内ネゴシエーションを有効にします。              |

## mgcp modem relay voip sprt v14

Simple Packet Relay Transport (SPRT) プロトコルで送信されるパケットに V.14 モデムリレーのパラメータを設定するには、**mgcpmodemrelayvoipsprtv14** コマンドをグローバル設定モードで使用できます。この機能が無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcpモデムリレーvoipSPRTv14[receive再生保留時間ミリ秒 | transmit保留時間ミリ秒 | 送信する最大hold-count文字]**

いいえ**mgcpモデムリレーvoipsprtv14**

|       |                                                             |                                                                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 構文の説明 | <b>receive</b> <b>playbackhold-time</b> <i>milliseconds</i> | V.14 受信キューに着信データを保持する時間をミリ秒 (ms) で構成します。範囲は 20 から 250 ms です。デフォルトは 50 ms です。                          |
|       | 送信保持時間 ミリ秒                                                  | 最初の文字の準備ができてから SPRT パケットを送信するまでの待ち時間をミリ秒で設定します。範囲は 10 から 30 ms です。デフォルトは 20 ms です。                    |
|       | <b>transmit</b> <b>maximumhold-count</b> <i>characters</i>  | SPRT パケットの送信をトリガーする ISDN 公衆交換電話網 (PSTN) インターフェースで受信される V.14 文字の数を設定します。値の範囲は 8 ～ 128 です。デフォルトは 16 です。 |

**コマンド デフォルト** V.14 モデムリレーのパラメータは、デフォルトのパラメータ値を使用して、デフォルトで有効になっています。

**コマンド モード** グローバル設定

|        |          |                 |
|--------|----------|-----------------|
| コマンド履歴 | リリース     | 変更              |
|        | 12.4(2)T | このコマンドが導入されました。 |

**使用上のガイドライン** 受信バッファの最大サイズは 500 文字で、これはプロビジョニング不可能な制限です。**mgcpmodemrelayvoipsprtv14receiveplaybackhold-time***milliseconds* コマンドを使用して、受信キューから文字を削除する前の最小保持時間を設定します。PSTN または ISDN インターフェースで受信した文字は、設定可能な収集時間収集される場合があります、SPRT チャンネル 3 に送信される前に、これにより、SPRT パケットのサイズが変動する可能性があります。SPRT パケットの V.14 送信パラメータを設定するには、**mgcpmodemrelayvoipsprtv14transmithold-time***milliseconds* と **mgcpmodemrelayvoipsprtv14transmitmaximumhold-count***characters* コマンドを使用します。パラメータの変更は通話中は有効ではありません。新規の通話にのみ影響します。

SPRT トランスポートチャンネル 1 はサポートされていません。

#### 例

次の例では、受信再生ホールドタイムを 200 ms、送信ホールドタイムを 25 ms、送信ホールドカウントパラメータを 10 文字に設定しています。

```
Router(config)# mgcp modem relay voip sprt v14 receive playback hold-time 200
Router(config)# mgcp modem relay voip sprt v14 transmit hold-time 25
Router(config)# mgcp modem relay voip sprt v14 transmit maximum hold-count 10
```

#### 関連コマンド

| コマンド                                       | 説明                                                                       |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| <b>debugvoipccapiinout</b>                 | コールコントロール API を通じて実行パスをトレースします。                                          |
| <b>debugvtspall</b>                        | 統計、トーン、およびイベントを除く、すべての VTSP デバッグを表示します。                                  |
| <b>mgcppackage-capabilitymdste-package</b> | IP-STE と STE の間のセキュアな通信パス上でのモデム接続の処理イベントと信号に対する MGCP ゲートウェイ サポートを有効にします。 |
| <b>mgcpmodemrelayvoipmodesse</b>           | VoIP コールに対して、MGCP ゲートウェイ SSE ベースのモデム リレー モードサポートを有効にします。                 |

## mgcp package-capability

メディア ゲートウェイの MGCP パッケージ・ケイパビリティタイプを指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで**mgcppackage-capability**コマンドを使用します。 ケーパビリティのリストから特定の MGCP パッケージ・ケイパビリティを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mgcppackage-capability** パッケージ

いいえ **mgcppackage-capability** パッケージ

## 構文の説明

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| パッケ<br>ー<br>ジ | <p>以下のパッケージ機能の1つ(使用可能な選択肢はプラットフォームおよびリリースバージョンによって異なります。リストについては CLI ヘルプを確認してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>as-package</b>--Announcement server package.</li> <li>• <b>atm-パッケージ</b>--ATM パッケージ Cisco により指定された、ATM適応層2 (AAL2) の永続的仮想回路 (PVC) およびATM拡張のサブセットを使用する VoATM 用の MGCP は、サポートされます。 SVC ベースの VoAAL2 はサポートされていません。</li> <li>• <b>dt-package</b>--デュアルトーン(DT) パッケージ。 即時開始、基本デュアルトーン多重周波数 (DTMF) およびダイヤルパルストランクのイベントと信号。</li> <li>• <b>dtmf-パッケージ</b>--DTMF パッケージ。 DTMF リレーのイベントと信号。</li> <li>• <b>fxr-package</b>--FAX 送信(FXR) パッケージ。</li> <li>• <b>fm-package</b>--メディア形式(FM)パラメータパッケージ。 このパッケージは、メディア形式パラメータのローカル接続オプション (LCO) のサポートを提供し、DTMF over MGCP-to-SIP 構成を容易にするために使用されます。</li> <li>• <b>gm-package</b>--汎用メディア パッケージ。 トランキング ゲートウェイ、アクセス ゲートウェイ、レジデンシャルゲートウェイなど、いくつかのタイプのエンドポイントのイベントとシグナル。</li> <li>• <b>hs-package</b>--ハンドセットのパッケージ。 ゲートウェイがハンドセットをエミュレートできる場合に使用される、ラインパッケージの拡張。</li> <li>• <b>it-package</b>--パケットケーブルトランキングゲートウェイ制御プロトコル (TGCP) ISDNユーザパート(ISUP) トランクパッケージです。</li> <li>• <b>lcs-package</b>---MGCPライン制御シグナリング(LCS) パッケージ。</li> <li>• <b>line-package</b>--ライン パッケージ。 住宅用回線のイベントおよび信号。 これはレジデンシャル ゲートウェイのデフォルトです。</li> <li>• <b>md-package</b>--MD パッケージ。 機能グループ D (FGD) Exchange Access 北米 (EANA) プロトコル シグナリングのサポートを提供します。</li> <li>• <b>mdste-package</b>--モデムリレーセキュア電話装置 (STE) パッケージ。 モデム接続のイベントと信号により、IP-STE と STE 間の安全な通信パスが可能になります。</li> <li>• <b>mf-package</b>--多周波 (MF) トーンパッケージです。 MF リレーのイベントおよび信号。</li> <li>• <b>mo-package</b>--複数頻度オペレーション (MO) パッケージ。 FGD のオペレータ サービス シグナリング プロトコルのイベントとシグナル。</li> </ul> |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ms-package</b>--MS パッケージです。 wink-start および immediate-start PBX Direct Inward Dialing (DID) および Direct Outward Dialing (DOD)、基本的な R1、および FGD 終端 プロトコルを含む、MF 一段階ダイヤリング トランクのイベントと信号。</li> <li>• <b>nas-package</b>--ネットワーク アクセス サーバ (NAS) パッケージです。 コール エージェントからの NAS リクエストを受け入れます。</li> </ul> <p>(注)<br/>Cisco IOS Release 12.4(4)T 以降のリリースでは、<b>nas-package</b> はデフォルトでは有効になっていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>script-package</b>--スクリプトパッケージ。 スクリプト読み込みのイベントとシグナル。</li> <li>• <b>srtplib-package</b>--セキュア RTP (SRTP) パッケージ。 MGCP ゲートウェイが SRTP パッケージを処理できるようにします。 デフォルトでは無効になっています。</li> <li>• <b>tone-package</b>--<b>Tonepackage.Disabledbydefault</b>.有効にするMGCPゲートウェイは、通話中に安全な通話トーンを再生します。</li> <li>• <b>trunk-package</b>--Trunk package. トランク回線のイベントおよび信号。 これはトランキング ゲートウェイのデフォルトです。</li> </ul> |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## コマンド デフォルト

ラインパッケージ は、レジデンシャルゲートウェイに対してデフォルトで構成され、 トランクパッケージ は、トランク ゲートウェイのデフォルトで構成されています。

## コマンド モード

グローバル構成 (config)

## コマンド履歴

| リリース       | 変更                                                                                                                                                                                     |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.0(7)XR2 | このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。                                                                                                                                                         |
| 12.1(1)T   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。                                                                                                                                           |
| 12.1(3)T   | このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco uBR924、Cisco 2600 シリーズ、および Cisco 3660。 <b>line-package</b> 、 <b>rtp-package</b> 、および <b>script-package</b> キーワードが追加され、住宅用ゲートウェイとトランキングゲートウェイが区別されました。 |
| 12.1(5)XM  | このコマンドが Cisco 3600 シリーズおよび Cisco MC3810 に実装されました。 <b>atm-package</b> 、 <b>dt-package</b> 、 <b>hs-package</b> 、 <b>mo-package</b> 、および <b>ms-package</b> が追加されました。                      |
| 12.2(2)T   | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。                                                                                                                      |

| リリース      | 変更                                                                                                  |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.2(2)XB | このコマンドは変更されました。 <b>nat-パッケージ</b> および <b>res-パッケージ</b> キーワードが追加されました。                                |
| 12.2(8)T  | このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。                                                        |
| 12.2(11)T | このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850                  |
| 12.3(1)   | このコマンドは変更されました。 <b>fxr-package</b> キーワードが追加されました。                                                   |
| 12.3(8)T  | このコマンドは変更されました。 <b>lcs-package</b> キーワードが追加されました。                                                   |
| 12.3(8)XY | このコマンドは変更されました。 <b>pre-package</b> キーワードが追加されました。                                                   |
| 12.3(11)T | このコマンドは変更されました。 <b>srtp-package</b> キーワードが追加されました。                                                  |
| 12.4(2)T  | このコマンドは変更されました。 <b>mdste-package</b> キーワードが追加されました。                                                 |
| 12.4(4)T  | このコマンドは変更されました。 <b>md-package</b> キーワードが追加されました。<br><b>NAS-パッケージ</b> というキーワードがデフォルトでは有効になっていませんでした。 |
| 15.1(4)M  | このコマンドは変更されました。 <b>tone-package</b> キーワードが追加されました。                                                  |

## 使用上のガイドライン

コールエージェントからの MGCP メッセージで指定されたイベントは、サポートされているパッケージの1つに属している必要があります。そうでない場合、接続要求はゲートウェイによって拒否されます。

デフォルトでは、特定のパッケージが各プラットフォームタイプでサポート対象として構成されています。 **mgcp-packagecapability** コマンドを使用すると、通話エージェントでサポートされているパッケージにのみ、追加のパッケージ機能を設定できます。このコマンドの **no** の形式を使用して、パッケージのサポートを無効にすることもできます。追加する各パッケージを個別のコマンドとして入力します。



- (注) Cisco IOS Release 12.4(4)T 以降、**NAS-パッケージ** キーワードはデフォルトで無効になりました。

T1 インターフェイスが **ds0-group** で FGD EANA シグナリングを使用するように設定されている場合、**md-package** キーワードは自動的に有効になります。

ゲートウェイでサポートされているパッケージを表示するには、**showmgcp** コマンドを使用します。

**mgcpdefault-package** コマンドでデフォルトのパッケージを指定する前にこのコマンドを使用します。少なくとも1つの既定のパッケージを指定してください。

このコマンドで設定できるパッケージは、プラットフォームおよびゲートウェイのタイプによって異なります。CLIヘルプを使用して、ゲートウェイで利用可能なパッケージを確認してください。この例では、Cisco 3660 の CLI ヘルプ出力を示します。

```
Router# mgcp package-capability ?
as-package      Select the Announcement Server Package
atm-package     Select the ATM Package
dtmf-package    Select the DTMF Package
fm-package      Select the FM Package
gm-package      Select the Generic Media Package
hs-package      Select the Handset Package
line-package    Select the Line Package
mf-package      Select the MF Package
res-package     Select the RES Package
rtp-package     Select the RTP Package
trunk-package   Select the Trunk Package
tone-package    Select the Tone Package
```



(注) **dt-Package**、**md-Package**、を使用して設定される Channel 関連付けられたシグナリング (CAS) パッケージ **mo-Package** および **ms-Package** キーワードは、**mgcp default-package** 命令を使用するデフォルトパッケージとしてのみ利用できます。命令を使用してください。これらは、**mgcp パッケージ機能** 命令ではキーワードとして表示されません。他のすべてのパッケージはゲートウェイごとに設定されるためですが、CAS パッケージはトランクごとに定義されます。トランクごとの指定は、トランクが **ds0-group** コマンドで設定されるときに行います。

**lcs-パッケージ** キーワードが Cisco 統合型アクセスデバイス (IAD) で使用される場合、回線制御シグナリング (LCS) パッケージに関連付けられた名前付きテレフォニーイベント (NTE) は自動的に有効になります。NTE は、パケットネットワーク全体でテレフォニーとトランクイベントを転送するために、メディアゲートウェイによって使用されます。RFC 2833 を参照してください。



(注) LCS パッケージで NTE を使用するには、コールセットアップ中に、正常な MGCP/Session Description Protocol (SDP) ネゴシエーションが必要です。通話エージェントは、回線接続オプションの FMTP パラメータキーワード **telephone-event** を使用して、使用する LCS NTE を示す必要があります。IAD が LCS パッケージを使用するように構成されている場合、IAD は要求された LCS NTE イベントを含む SDP で応答します。

## 例

次の例では、モデム リレー STE パッケージ、トランク パッケージ、DTMF パッケージ、スクリプト パッケージ、およびトーン パッケージをゲートウェイで有効にし、ゲートウェイのデフォルトパッケージとしてトランクパッケージを指定します。

```
Router(config)# mgcp package-capability mdste-package
Router(config)# mgcp package-capability trunk-package
Router(config)# mgcp package-capability dtmf-package
Router(config)# mgcp package-capability script-package
```

```
Router(config)# mgcp package-capability tone-package  
Router(config)# mgcp default-package trunk-package
```

## 関連コマンド

| コマンド                       | 説明                                 |
|----------------------------|------------------------------------|
| <b>ds0-group</b>           | 論理音声ポートを構成する DS0 タイムスロットを指定します     |
| <b>mgcp</b>                | MGCP デーモンを開始します。                   |
| <b>mgcpdefault-package</b> | メディアゲートウェイのデフォルトのパッケージ機能タイプを設定します。 |
| <b>showmgcp</b>            | サポートされている MGCP パッケージを表示します。        |



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。